志木市遺跡調査会調査報告　第12集

中道遺跡第65地点

埋蔵文化財発掘調査報告書

２００７

埼玉県志木市遺跡調査会

志木市遺跡調査会調査報告　第12集

中道遺跡第65地点

埋蔵文化財発掘調査報告書

２００７

埼玉県志木市遺跡調査会

はじめに

志木市遺跡調査会
会長　柚木　博

志木市は、埼玉県の南西部に位置し、面積 9.06m^2 を有し、人口約 6 万 8 千人を擁する自然と文化の調和する都市です。地勢的に概観してみますと、市域中央を流れる新河岸川を境に、南西側が武蔵野台地、北東部が荒川が形成した沖積地（低地）となっています。

こうした環境の中、台地縁辺部や沖積地の自然堤防上には、我々の先人たちが遺した足跡とも言うべき埋蔵文化財包蔵地（遺跡）が 14 ヶ所確認されていますが、近年の増加傾向にある開発行為によって破壊や消滅の危機にさらされています。

埋蔵文化財は、国民共通の財産であるため、これらを保護し後世に伝えていくことは、私たちに課せられた責務であるということは言うまでもありませんが、本来は“地域の歴史と文化に根ざした歴史的遺産”はその地域で守ることに意味があるものと考えられます。

さて、本書は、平成 18 年度に発掘調査が実施された中道遺跡第 65 地点の発掘調査報告書です。

その内容ですが、この調査により、縄文時代から近世にかけての遺構・遺物が発見されました。中でも、縄文時代早期の住居跡は当市では検出例は極めて少なく、貴重な資料の追加になりました。また、弥生時代末葉～古墳時代前期の方形周溝墓が、当遺跡では初めての発見につながりました。この方形周溝墓の発見により、当市では、西原大塚・新邸・中道・市場裏・田子山遺跡というように柳瀬川そして新河岸川に沿って分布することが明らかになり、弥生時代から古墳時代への過渡期の集落のあり方や方形周溝墓の被葬者である首長層の動向を知る上で大変重要な資料になったと言えましょう。

以上、ここではほんの数例でしか紹介できませんが、本地点からの貴重な発見により、志木市の歴史にまた新たなる 1 ページが追加されたことは大変喜ばしいことであり、同時に本書が郷土の歴史研究のために広く活用されますよう切に願っております。

最後になりましたが、本書の刊行にあたり、格別のご理解とご協力を頂いた事業主体者、そして深いご理解とご協力を賜りました地元の多くの方々並びに関係者に対し、心から感謝申し上げます。

例　言

1．本書は、埼玉県志木市に所在する中道遺跡（県 No.09 － 005）の第 65 地点の発掘調査報告書である。
2．発掘調査及び整理作業は、志木市教育委員会の斡旋により、開発主体者から志木市遺跡調査会が委託を受け実施した。
3．本書の作成において、執筆は以下のとおりに尾形則敏・青柳美雪が行い、編集は青柳・藤波啓容が行った。
　尾形則敏　　第１・２章、第４章第２節
　青柳美雪　　第３章の遺構、第４章第１節
4．遺物の実測は、中村智美・鈴木　徹・三須光子が行った。遺構のデジタルトレースは青柳美雪が、遺物のトレースは中村智美・鈴木　徹・田中歩・三須光子が行った。写真撮影は中村いわねが行った。
5．各遺跡の発掘調査及び整理作業・報告書作成には、以下の諸機関・諸氏のご教示・ご援助を賜った。記して感謝する次第である（敬称略）。
埼玉県教育局市町村支援部生涯学習文化財課・（財）埼玉県埋蔵文化財調査事業団・埼玉県立埋蔵文化財センター・朝霞市教育委員会・朝霞市博物館・新座市教育委員会・和光市教育委員会・富士見市教育委員会・富士見市立水子貝塚資料館・志木市立志木第四小学校
荒井幹夫・石井　寛・今福利恵・上田　寛・江原　順・加藤秀之・片平雅俊・隈本健介・栗原和彦・小出輝雄・肥沼正和・小滝　勉・小宮恒雄・齋藤欣延・笹森健一・笹森紀巳子・斯波　治・渋谷寛子・鈴木一郎・関根慎二・高橋　学・照林敏郎・中山真治・根本　靖・野沢　均・早坂廣人・福田　聖・堀　善之・松本　完・松本富雄・三田光明・柳井彰宏・山田尚友・山本　龍・和田晋治
開発主体者（個　人）

凡　例

1．本報告書で使用した地図は以下のとおりである。
　第１図　１：10,000「志木市全図」アジア航測株式会社調製　平成９年３月志木市１：2,500 をデジタルマップにより縮図編集
　第２図　１：2,500　ゼンリン電子住宅地図　デジタウン「埼玉県志木市」平成 15 年８月発行　株式会社ゼンリン
2．挿図版の縮尺は、それぞれに明記した。
3．遺構挿図版中の水糸レベルは、海抜標高を示す。
4．ピット・掘り込み内の数値は、床面もしくは確認面からの深さを示し、単位は cm である。また、同一遺構内にあるピットでも、おそらく後世のピットと思われるものには、数値を省略した。
5．遺構挿図版中のドットは遺物出土位置を示し、その番号は遺物挿図版中の遺物番号と一致する。
6．遺構挿図版中のスクリーントーンについては、各挿図版内にその内容を示したが、遺物挿図版中のスクリーントーンは土器の場合は赤彩範囲を、石器の場合は使用痕を示す。
7．遺構の略記号は、以下のとおりである。
　Ｊ＝縄文時代の住居跡　　Ｈ＝奈良・平安時代の住居跡　　Ｔ＝掘立柱建築遺構
　方＝方形周溝墓　　FP ＝炉穴　　Ｓ＝集石　　Ｄ＝土坑　　Ｐ＝ピット

志木市遺跡調査会組織

〈役　　員〉

会　　長　柚木　博（志木市教育委員会教育長）（平成17年10月～）
副　会　長　新井　茂（志木市教育委員会教育政策部長）（平成17年7月～）
理　　事　神山健吉（志木市文化財保護審議会会長）
井上國夫（志木市文化財保護審議会委員）
高橋長次（　　〃　　）
高橋　豊（　　〃　　）
内田正子（　　〃　　）
宮川英夫（志木市教育委員会教育政策部参事兼生涯学習課長）
（平成18年4月～平成19年3月）
吉田　洋（志木市教育委員会教育政策部生涯学習課長）（平成19年6月～）

〈監　　査〉

監　　事　原田隆一（志木市教育委員会教育総務課長）（平成18年6月～）
鈴木幸治郎（志木市出納室長）（平成18年4月～）

〈事　務　局〉

担　当　課　志木市教育委員会教育政策部生涯学習課
理事兼事務局長　宮川英夫（教育政策部参事兼生涯学習課長）（平成18年4月～平成19年3月）
吉田　洋（教育政策部生涯学習課長）（平成19年4月～）
事　務　局　醍醐一正（生涯学習課主幹）（平成16年4月～平成18年3月、
平成18年8月～平成19年3月）
内田　誠（　　〃　　）（平成18年4月～7月）
今野美香（　　〃　　）（平成19年4月～）
※平成15年8月～平成19年3月まで主査
佐々木保俊（生涯学習課主査）（昭和61年～）
清水　隆（　　〃　　）（平成19年5月～）
尾形則敏（生涯学習課主任）（昭和62年～）
松永真知子（　　〃　　）（平成18年4月～）

〈発掘調査〉

調査担当者　尾形則敏
調　査　員　藤波啓容
調査協力員　新井孝典・白谷珠美・柏原康晴・野村雅美・藤代聖一・須賀きみ子・清水広幸・
冨山龍二

〈整理作業〉

調　査　員　藤波啓容・青柳美雪・鈴木　徹・中村智美
整理協力員　三須光子・菊池厚子・田中歩・中村いわね

目　次

はじめに
例　言／凡　例／志木市遺跡調査会組織／目　次／挿図目次／表 目 次／図版目次
第１章　遺跡の立地と環境 …… 1
　第１節　市域の地形と遺跡 …… 1
　第２節　遺跡の概要 …… 9
第２章　発掘調査の概要 …… 15
　第１節　調査に至る経緯 …… 15
　第２節　調査の方法と経過 …… 17
　第３節　基本層序 …… 19
第３章　検出された遺構と遺物 …… 20
　第１節　縄文時代 …… 20
　　（１）概　要 …… 20
　　（２）住居跡 …… 20
　　（３）炉　穴 …… 34
　　（４）集　石 …… 36
　　（５）土　坑 …… 36
　　（６）ピット …… 40
　第２節　古墳時代 …… 46
　　（１）概　要 …… 46
　　（２）方形周溝墓 …… 46
　第３節　奈良・平安時代 …… 47
　　（１）概　要 …… 47
　　（２）住居跡 …… 47
　　（３）掘立柱建築遺構 …… 48
　　（４）土　坑 …… 48
　　（５）ピット …… 52
　第４節　近世以降 …… 57
　　（１）概　要 …… 57
　　（２）土　坑 …… 57
　　（３）ピット …… 64
　第５節　遺構外出土遺物 …… 70
第４章　調査のまとめ …… 74
　第１節　縄文時代中期の浅鉢について …… 74
　第２節　志木市における方形周溝墓の分布について …… 75
図　版
報告書抄録

挿図目次

第 1 図　市域の地形と調査地点（1/20,000） 2
第 2 図　中道遺跡の調査地点（1/5,000） 16
第 3 図　遺構分布図（1/200） 18
第 4 図　基本層序 19
第 5 図　8 J 号住居跡（1/60） 21
第 6 図　8 J 号住居跡・炉跡（1/60・1/30） 22
第 7 図　8 J 号住居跡遺物分布図（1/60） 23
第 8 図　8 J 号住居跡出土遺物 1（1/3） 24
第 9 図　8 J 号住居跡出土遺物 2（1/3） 25
第10図　8 J 号住居跡出土遺物 3（1/4） 26
第11図　8 J 号住居跡出土遺物 4（1/4・1/3） 27
第12図　8 J 号住居跡出土遺物 5（1/3） 29
第13図　8 J 号住居跡出土石器 1（2/3） 30
第14図　8 J 号住居跡出土石器 2（1/3・1/2・2/3） 32
第15図　9 J 号住居跡（1/60） 33
第16図　10J 号住居跡（1/60） 33
第17図　10J 号住居跡出土遺物（1/3） 35
第18図　10J 号住居跡出土石器（1/3・2/3） 35
第19図　1 号炉穴（1/30） 36
第20図　4 号集石（1/30） 36
第21図　土坑（1/60） 37
第22図　土坑出土遺物（1/3・2/3） 38
第23図　ピット平面図 1（1/60） 40
第24図　ピット平面図 2（1/60） 41
第25図　ピット平面図 3（1/60） 42
第26図　ピット平面図 4（1/60） 43
第27図　ピット断面図（1/60） 44
第28図　13 号ピット出土遺物（1/3） 45
第29図　1 号方形周溝墓（1/60） 46

第30図　1号方形周溝墓出土遺物（1/3）…… 47
第31図　24H 号住居跡（1/60）…… 48
第32図　5号掘立柱建築遺構（1/60）…… 49
第33図　土坑（1/60）…… 51
第34図　ピット平面図1（1/60）…… 52
第35図　ピット平面図2（1/60）…… 53
第36図　ピット平面図3（1/60）…… 54
第37図　ピット平面図4（1/60）…… 55
第38図　ピット断面図（1/60）…… 56
第39図　土坑1（1/60）…… 61
第40図　土坑2（1/60）…… 62
第41図　土坑3（1/60）…… 63
第42図　土坑出土遺物（1/4・2/3）…… 63
第43図　ピット平面図1（1/60）…… 64
第44図　ピット平面図2（1/60）…… 65
第45図　ピット平面図3（1/60）…… 66
第46図　ピット平面図4（1/60）…… 67
第47図　ピット断面図（1/60）…… 68
第48図　2号ピット出土遺物（1/4）…… 69
第49図　遺構外出土石器（1/3・1/2・2/3）…… 71
第50図　遺構外出土遺物（1/4・1/3）…… 73

表　目　次

第1表　志木市埋蔵文化財包蔵地一覧 …… 1
第2表　志木市の時代別にみた考古資料一覧（1）…… 5
志木市の時代別にみた考古資料一覧（2）…… 6
志木市の時代別にみた考古資料一覧（3）…… 7
第3表　志木市の発掘調査報告書一覧 …… 8

第４表　中道遺跡調査一覧（１）…… 10
第４表　中道遺跡調査一覧（２）…… 11
第５表　発掘調査工程表 …… 17
第６表　縄文時代のピット一覧 …… 44
第７表　縄文時代遺構出土の石器一覧 …… 45
第８表　１号方形周溝墓出土の土器一覧 …… 47
第９表　５号掘立柱建築遺構土層註記 …… 50
第10表　５号掘立柱建築遺構ピット一覧表 …… 51
第11表　奈良・平安時代のピット一覧 …… 57
第12表　近世以降のピット一覧 …… 69
第13表　近世以降遺構出土の土器・陶磁器一覧 …… 69
第14表　遺構外出土の旧石器 …… 70
第15表　遺構外出土の縄文石器 …… 70
第16表　遺構外出土の陶磁器一覧 …… 73
第17表　縄文時代中期の浅鉢彩色比率 …… 75

図版目次

図版１　表土掘削、第１グリッド土層断面北壁、第１・２調査区全景、８J 号住居跡
図版２　８～ 10J 号住居跡
図版３　１号炉穴、４号集石、155・158、160 号土坑
図版４　162・163 号土坑、１号方形周溝墓、24H 号住居跡
図版５　５号掘立柱建築遺構、152・159・161 号土坑
図版６　140 ～ 150・164・165 号土坑、作業風景
図版７　遺物（８J 号住居跡）
図版８　遺物（８J 号住居跡）
図版９　遺物（８J 号住居跡）
図版10　遺物（８・10J 号住居跡）
図版11　遺物（10J 号住居跡、土坑、ピット、１号方形周溝墓、近世土坑・ピット）
図版12　遺物（遺構外）

第１章　遺跡の立地と環境

第１節　市域の地形と遺跡

志木市は、埼玉県の南西部に位置し、市域はおおよそ南北 4.71km、東西 4.73km の広がりをもち、面積は 9.06Km²、人口約６万８千人の自然と文化の調和する都市である。

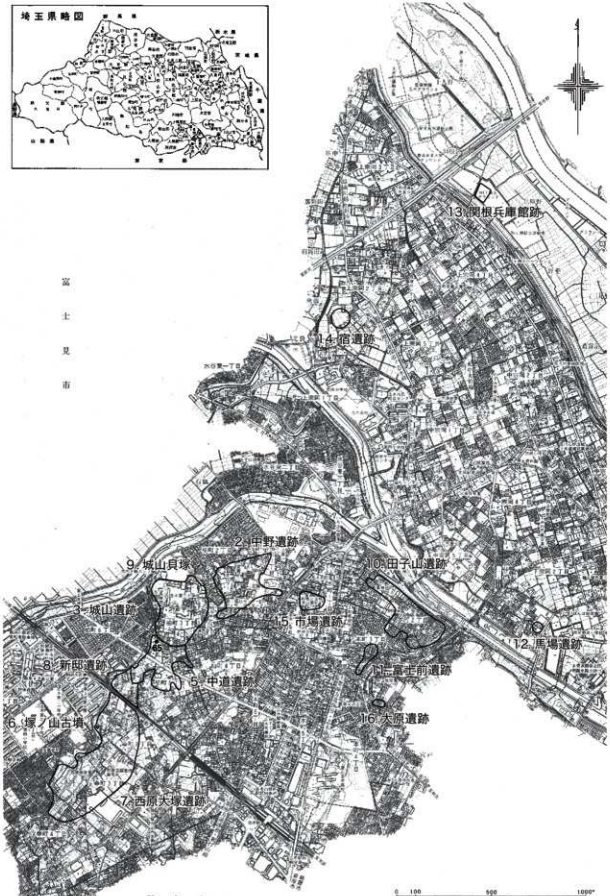
地理的景観を眺めて見ると、市域東部の宗岡地区は、荒川（旧入間川）の形成した沖積低地が拡がり、市域西部の本町・柏町・幸町地区は、古多摩川によって形成された武蔵野台地の上にある。また、市内には東部に荒川、中央に古くは舟運で利用された新河岸川、そして西部から中央に新河岸川と合流する柳瀬川の３本の川が流れている。

こうした自然環境の中で、西原大塚遺跡をはじめ市域の大部分の遺跡は、柳瀬川・新河岸川右岸流域の台地縁辺部に帯状に存在している。遺跡は柳瀬川上流から、西原大塚遺跡（７）、中道遺跡（５）、新邸遺跡（８）、城山遺跡（３）、中野遺跡（２）、市場裏遺跡（15）、田子山遺跡（10）、富士前遺跡（11）、大原遺跡（16）の順に名付けられている。また、荒川・新河岸川が形成した沖積低地でも、馬場遺跡（12）、宿遺跡（14）、関根兵庫館跡（13）のように自然堤防上に存在する遺跡も明らかにされつつあり、将来的には新たな遺跡が相次いで発見される可能性がある。なお、市内の遺跡総数は、現在前述した 12 遺跡に塚ノ山古墳（６）、城山貝塚（９）を加えた 14 遺跡である（第１図）。

No.	遺跡名	遺跡の規模	地目	遺跡の種類	遺跡の時代	主な遺構	主な遺物
2	中野	60,990 ㎡	畑・宅地	集落跡	旧石器,縄(早～晩),弥(後),古(前～後),平,中・近世	石器集中地点,住居跡,土坑,井戸跡,溝跡等	石器,縄文・弥生土器,土師器,須恵器,陶磁器等
3	城山	78,700 ㎡	畑・宅地	城館跡・集落跡	旧石器,縄(草創～晩),弥(後),古(前～後),奈・平,中・近世	石器集中地点,住居跡,土坑,土坑墓,地下室,井戸跡,溝跡,柏城跡関連,鋳造関連等	石器,縄文・弥生土器,土師器,須恵器,陶磁器,古銭,鋳造関連遺物等
5	中道	45,860 ㎡	畑・宅地	集落跡	旧石器,縄(早～後),弥(後),古(前～後),平,中・近世	石器集中地点,住居跡,土坑,方形周溝墓,土坑墓,地下式坑,溝跡,道路状遺構等	石器,縄文土器,土師器,須恵器,陶磁器,古銭,人骨等
6	塚ノ山古墳	800 ㎡	林	古墳？	古　墳？	なし	なし
7	西原大塚	163,930 ㎡	畑・宅地	集落跡	旧石器,縄(前～晩),弥(後),古(前・後),奈・平,中・近世	石器集中地点,住居跡,土坑,方形周溝墓,井戸跡,溝跡等	石器,縄文・弥生土器,土師器,須恵器,陶磁器,古銭等
8	新邸	16,400 ㎡	畑・宅地	貝塚・集落跡	縄(早～中),古(前・後),中・近世,近代	貝塚,住居跡,土坑,方形周溝墓,井戸跡,溝跡,段切状遺構,ピット群等	石器,貝,縄文・弥生土器,土師器,陶磁器,古銭等
9	城山貝塚	900 ㎡	林	貝　塚	縄(前)	斜面貝塚	石器,縄文土器,貝
10	田子山	62,200 ㎡	畑・宅地	集落跡	縄(草創～晩),弥(後),古(後),奈・平,中・近世,近代	住居跡,土坑,方形・円形周溝墓,ローム採掘遺構,溝跡等	縄文・弥生土器,土師器,須恵器,陶磁器,炭化種子等
11	富士前	7,100 ㎡	宅地	集落跡	弥（後）～古（前）	住居跡	弥生土器、土師器
12	馬場	2,800 ㎡	畑	集落跡	古（前）	住居跡？	土師器
13	関根兵庫館跡	4,900 ㎡	グランド	館跡	中世	不明	なし
14	宿	7,700 ㎡	田	館跡	中世	溝跡・井桁状構築物	木・石製品
15	市場裏	10,700 ㎡	宅地	集落跡・墓跡	弥（後）～古（前）、近代	住居跡・方形周溝墓	弥生土器、土師器、かわらけ
16	大原	1,700 ㎡	宅地	不明	近世以降？	溝跡	なし
合計		464,680 ㎡					

平成 19 年１月 31 日現在

第１表　志木市埋蔵文化財包蔵地一覧



第１図　市域の地形と調査地点（1/20,000）

次に市内の遺跡を時代順に概観してみることにする。

志木市内に最初に人が住みついたのは、旧石器時代からで、この時代の遺跡としては、柳瀬川右岸の西原大塚・中道・城山・中野遺跡がある。中道遺跡では、昭和62（1987）年の富士見・大原線（現ユリノキ通り）の工事に伴う調査により、立川ローム層のⅣ層上部・Ⅵ層・Ⅶ層で文化層が確認されており、礫群、石器集中地点が検出されている。これにより、黒曜石製のスクレイパー・ナイフ形石器や安山岩や凝灰岩の石核や剥片などが発見されている。

平成11～14年度にかけて発掘調査が実施された中野遺跡第49地点からも立川ローム層のⅣ層下部から、黒曜石・頁岩の石材の石核・剥片が約60点出土している。

縄文時代になると、草創期では、平成4年度に発掘調査が実施された城山遺跡第16地点から爪形文系土器1点、平成10年度の田子山遺跡第51地点から有茎尖頭器1点が出土している。

早期では、田子山遺跡から撚糸文・沈線文・条痕文系土器、富士前・城山遺跡から撚糸文系土器が数点出土している。住居跡としては、西原大塚・新邸遺跡の前期黒浜式期のものが最古に位置付けられ、それぞれ1軒検出されている。そのうち、新邸遺跡のものは貝層をもつ住居跡である。また、平成2年度に市指定文化財に認定された城山貝塚も縄文海進期にあたるこの頃の時代に形成された斜面貝塚と考えられる。

遺跡が最も増加するのは、中期中葉から後葉の勝坂式～加曽利E式期である。西原大塚遺跡では、多くの住居跡が環状に配置する可能性のあることが指摘されている。その他、中道・城山・中野・田子山遺跡からも住居跡・土坑などが発見されている。中期末葉からは遺跡が減少し、現在のところ西原大塚遺跡から敷石をもつ住居跡が1軒確認されるのみである。

さらに後期では報告書として刊行された住居跡は皆無であるが、田子山遺跡第31地点では1基、西原大塚遺跡第54地点では2基の土坑が検出されている。特に田子山遺跡第31地点の184号土坑は、下層から称名寺Ⅰ式期の土器、上層からⅡ式の特徴をもつ土器が出土している。

晩期になると、中野・田子山遺跡から安行ⅢC式・千網式の土器片が少量発見されるにとどまり、以降市内では遺跡が希薄になる傾向にあるが、平成12年度の西原地区特定区画整理事業に伴う発掘調査により、後期の堀之内式期の住居跡1軒と遺物集中地点、晩期の溝跡1本が検出されている。

弥生時代では、現在のところ、前・中期に遡る遺跡は存在しない。大部分が後期末葉から古墳時代前期にかけての遺跡であろうと考えられる。その中で、田子山遺跡第31地点の21号住居跡は後期中葉に比定される可能性があり、その住居跡からは、多数の土器をはじめ、大量の炭化種子（イネ・アワ・ダイズなど）、炭化材が出土し、当時の食糧事情を考える上で重要である。富士前遺跡では、志木市史にも掲載されているが、不時の発見に伴い、籠目痕をもつ壺形土器をはじめとした多くの土器が発見されている。

西原大塚遺跡では後期末葉から古墳時代前期にかけての住居跡が500軒以上確認されており、市内最大の集落跡であることが判明している。特に、122号住居跡からは全国的にも稀な「イヌ」を象ったと思われる動物形土製品が出土している。

当時の墓域の可能性として、方形周溝墓が、昭和62（1987）年以降、西原大塚・市場裏・田子山遺

跡の３遺跡から確認されてきたが、最新では、本報告の新邸遺跡第８地点の１基と平成 18 年に発掘調査が実施された中道遺跡第 65 地点の１基が新たに追加され、市内では５遺跡からの検出例となっている。今後は、集落跡との関連の中で注目されるであろう。

古墳時代前期では、特に西原大塚遺跡 10 号方形周溝墓の溝底から一括出土した中に、畿内系の庄内式の長脚高坏が出土していることに注目される。平成 11 年度に西原大塚遺跡第 45 地点で発見された一辺 20 mを超える市内最大規模の 17 号方形周溝墓が特筆すべきであろう。この方形周溝墓の溝からは、珍しい鳥形土器をはじめ、畿内系の有段口縁壺、吉ヶ谷式系の壺、在地系の壺などと大きく畿内・比企地域・在地の３要素の特徴を示す壺が出土しており、こうした地域に関わる被葬者の人物像が浮き彫りにされたことで、当地域の弥生時代後期から古墳時代前期の歴史を紐解く手がかりになったことは重要である。

古墳時代でも前期末葉から中期になると、遺跡が減少する傾向にある。しかし、本報告の新邸遺跡第８地点から検出された住居跡８軒については、同遺跡第２地点の１号住居跡を含め、古墳時代前期でも比較的に新しい段階に比定される可能性がある。このことから、新邸遺跡で検出された住居跡は、現時点では隣接する西原大塚遺跡から継続し広がった集落跡ではないかと推測される。

中期の遺跡では、中道･城山･中野遺跡から住居跡が発見されている。特に中道遺跡第 19 号住居跡は、５世紀中葉に比定され、市内最古のカマドをもつ住居跡として注目される。

５世紀末葉になると、遺跡が増加傾向にあり、特に６世紀後半から７世紀後半にかけては、縄文中期を越えるほどの爆発的な増加をみる。こうした集落跡は現在、中道・城山・中野遺跡に比較的に古い５世紀代の住居跡が確認されていることから、柏町地区を中心に存在した集落が、６世紀後半以降、周辺の地域に拡散するという動きを読み取ることができる。

なお、新邸遺跡では、第８地点で初めて古墳時代後期（７世紀中葉）の住居跡が１軒検出されている。この住居跡は、３× 3.5 mの小型の長方形を呈するもので、焼失住居であり、床面上からは土器・炭化材の他ベンガラ塊が出土している。

現在、５世紀後半から７世紀後半にかけての時期に比定できる住居跡の軒数は、最も多い城山遺跡で 120 軒を越え、次いで中野遺跡で約 50 軒、中道遺跡で約 15 軒、田子山遺跡で約 10 軒、新邸遺跡で１軒を数える。

また住居跡以外では、平成５年に発掘調査が実施された田子山遺跡第 24 地点から、６世紀後半以降のものと考えられる 4.1 × 4.7 mのやや不整円形で２ヶ所にブリッジをもつ小型の円形周溝墓が１基確認されている。さらに、同遺跡第 81 地点の発掘調査を契機に御岳神社を取り囲むように推定約 33 m の巨大な溝跡の存在が明らかになり、現時点では古墳の周溝ではないかという見方が浮上している。

奈良・平安時代の遺跡は、古墳時代後期以降に拡散した集落内で確認される傾向にあり、田子山遺跡は、この時代の代表とする遺跡として挙げることができる。この遺跡では、住居跡の他、掘立柱建築遺構、溝跡、100 基を越える土坑群が確認されている。遺物としては、土器・灰釉陶器の他、腰帯の一部である銅製の丸鞆、鉄製の紡錘車・刀子などが出土している。

また、平安時代の城山遺跡 128 号住居跡からは、印面に「冨」１文字が書かれた銅製の印章が出土

1．旧石器時代

No.	遺跡名	地点名	掲載された主な遺構・遺物	報告書一覧 No. 及び資料頁
2	中　野	第49地点	石器集中地点1ヵ所，ナイフ形石器，角錐状石器など	No.29
3	城　山	第42地点	石器集中地点2ヵ所，石器・礫	No.33
7	西原大塚	区画整理	石器集中地点2ヵ所	No.19
		市史掲載	ナイフ形石器，尖頭器など	1984『志木市史原始・古代資料編』
		第110地点	石器集中地点2ヵ所，ナイフ形石器・剥片・石核	No.32

2．縄文時代

2	中　野	第2地点	包含層出土遺	中　期	No. 2
		第16地点	集石1基	不　明	No.17
		第25地点	住居跡1軒，土坑9基，炉穴5基，土器，石器	早～晩期	No.25
		第43地点	包含層出土遺	早～後期	No.20
		第49地点	住居跡1軒，土坑10基，炉穴1基，遺物包含層	早期～後期	No.29
3	城　山	A地点	住居跡1軒	前期	『志木市史原始・古代資料編』
		第3地点	包含層出土遺	早～後期	No. 7
		第4地点	埋甕1基	中期	No. 8
		第9地点	土坑1基	不明	No.11
		第11地点	住居跡1軒，土坑3基，炉穴1基，土器	前・中期	No.12
		第12地点	包含層出土遺	早～晩期	No.17
		第16地点	包含層出土遺，集石1基，土器（爪形文系など），石器	草創～後期	No.27
		第29地点	土坑1基	早～後期	No.18
		第32地点	包含層出土遺	早～中期	No.18
		第34地点	包含層出土遺	早～中期	No.20
		第35地点	包含層出土遺	早～後期	No.20
		第42地点	土坑21基，炉穴1基，土器・石器	早～中期	No.33
5	中　道	第2地点	住居跡3軒，土坑8基，集石2基，土器，石器	中期	No. 6
		第12地点	住居跡2軒，土器	中期	No.13
		第13地点	住居跡1軒，土坑1基，土器	中期	No.13
		第21地点	包含層出土遺	前期	No.17
		第27地点	包含層出土遺	前～後期	No.22
		第41地点	包含層出土遺	早～後期	No.20
		第44地点	包含層出土遺	早～後期	No.21
7	西原大塚	第1地点	住居跡4軒，土坑8基，土器，石器	中期	No. 1
		第3地点	住居跡5軒，土坑2基，土器	中期	No. 2
		第8地点	住居跡1軒，土坑24基，土器，石器	中期	No. 9
		第34地点	住居跡3軒，土坑6基，土器，石器	中期	No.18
		第39地点	住居跡3軒，土器，石器	中期	No.21
		第43地点	住居跡10軒，土坑22基，土器，石器	中期	No.24
		第47地点	土坑1基，遺構外出土土器	中期	No.26
		第54地点	土坑7基，土器	中・後期	No.28
		第65地点	遺構外出土遺・石器	前～後期	No.30
		第67地点	住居跡8軒，土坑8基，集石1基，土器・石器多数	中期	No.34
		第110地点	土坑1基，集石1基，土器片	中期	No.32
8	新　邸	第1地点	住居跡1軒（百軒），土坑2基，包含層出土土器	前・中期	No. 3
		第2地点	住居跡1軒（第1地点と同一），土器，石器，貝類	前期	No. 4
		第3地点	包含層出土遺	早・前期	No.10
10	田子山	第4地点	土坑1基	不明	No.13
		第10地点	住居跡1軒，土器	中期	No.17
		第19地点	土坑2基，遺構外出土土器	早～後期	No.22
		第21地点	遺構外出土土器片	早～後期	No.22
		第25地点	炉穴1基，遺構外出土土器	早～後期	No.22
		第32地点	土坑1基，遺構外出土土器	早～中期	No.16
		第37地点	遺構外出土遺	早期	No.16
		第39地点	土坑3基，集石2基，炉穴2基，土器	早期	No.18
		第47地点	遺構外出土土器	早・前期	No.20
		第49地点	遺構外出土土器	早期	No.20
		第69地点	集石1基	中期	No.26
		第78地点	集石1基，土器	前期	No.28
		第81地点	遺構外出土土器・石器	早期～中期	No.30

3．弥生時代

2	中　野	第2地点	住居跡2軒，土器	後期	No. 2
		第9地点	住居跡1軒，土器	後期	No. 8
		第25地点	住居跡1軒，土坑1基，土器	後期	No.25
		第49地点	住居跡6軒，土器	後期	No.29
3	城　山	B地点	住居跡1軒	後期	『志木市史原始・古代資料編』
		第4地点	住居跡2軒，土器	後期	No. 8
		第35地点	住居跡1軒，土器，礫石	後期	No.20
7	西原大塚	第1地点	住居跡1軒，土器	後期～古墳	No. 1
		第2地点	住居跡3軒，土器	後期～古墳	『志木市史原始・古代資料編』
		第3地点	住居跡2軒，土器	後期～古墳	No. 2
		第4地点	住居跡3軒，土器，礫石	後期～古墳	No. 4
		第6地点	住居跡1軒，土器	後期～古墳	No. 8
		第7地点	小型穴区遺構1基	後期～古墳	No.10
		第8地点	住居跡13軒，方形周溝墓1基，掘立柱建物跡1基	後期～古墳	No. 9
		第9地点	住居跡1軒，土器	後期～古墳	No. 9
		第10地点	住居跡1軒，土器	後期～古墳	No. 9
		第14地点	住居跡4軒，土器	後期～古墳	No.17
		第21地点	方形周溝墓1基，土器	後期～古墳	No.22

第2表　志木市の時代別にみた考古資料一覧（1）

No.	遺跡名	地点名	掲載された主な遺構・遺物	報告書一覧 No.及び資料索引
7	西原大塚	第 32 地点	住居跡 2 軒、土器	後期～古墳 No.16
		第 36 地点	住居跡 4 軒、土器	後期～古墳 No.20
		第 37 地点	住居跡 7 軒、土器	後期～古墳 No.21
		第 39 地点	住居跡 1 軒、方形周溝墓 1 基、土器、石器	後期～古墳 No.21
		第 43 地点	住居跡 9 軒、土器	後期～古墳 No.24
		第 45 地点	住居跡 72 軒、方形周溝墓 1 基、土器（埴型土器）	後期～古墳 No.23
		第 47 地点	溝跡 1 本	後期～古墳 No.26
		第 54 地点	方形周溝墓 1 基、土器	後期～古墳 No.28
		第 65 地点	住居跡 3 軒、土器、土師器、石器	後期～古墳 No.30
		第 67 地点	住居跡 8 軒、掘立柱建築遺構 1 棟、土器・石器	後期～古墳 No.34
		区画整理	住居跡 30 軒、方形周溝墓 4 基（記述のみ）	後期～古墳 No.19
10	田子山	第 1 地点	住居跡 1 軒、土器	後期 No. 9
		第 4 地点	住居跡 1 軒、土器	後期 No.13
		第 10 地点	住居跡 5 軒、土器	後期 No.17
		第 19 地点	遺構外土上器	後期 No.22
		第 31 地点	住居跡 17 軒（21 号住居跡記述のみ）	後期 『田子山遺土』文化財第 22 集
		第 32 地点	方形周溝墓 1 基	後期～古墳 No.16
15	市場畑	第 1 地点	住居跡 1 軒、土器	後期～古墳 No.17
		第 2 地点	方形周溝墓 2 基、土器小片	後期～古墳 No.17
		第 3 地点	方形周溝墓 1 基、土器小片	後期～古墳 No.14

4. 古墳時代

2	中　野	第 2 地点	住居跡 1 軒、土師器	後期	No. 2
		第 7 地点	住居跡 1 軒	後期	No.10
		第 12 地点	住居跡 1 軒、土師器多数	後期	No.12
		第 16 地点	住居跡 1 軒、土師器	後期	No.17
		第 18 地点	住居跡 1 軒、土師器、鉄鏃多数	後期	No.14
		第 25 地点	住居跡 10 軒、土師器多数	後期	No.25
		第 31 地点	住居跡 1 軒、土師器、鉄鏃、鍛石	後期	No.15
		第 41 地点	住居跡 1 軒、土師器多数、紡錘車	後期	No.18
		第 49 地点	住居跡 1 軒、土坑 2 基、土師器	後期	No.29
		第 50 地点	住居跡 1 軒	後期	No.24
3	城　山	B 地点	住居跡 2 軒、土師・須恵器	後期	『志木市史原始・古代資料編』
		第 1・2 地点	住居跡 54 軒、土師器多数、須恵器、鉄・土製品	前・中期	No. 5
		第 3 地点	住居跡 4 軒、土師器	前・後期	No. 7
		第 4 地点	住居跡 1 軒、土師器多数	後期	No. 8
		第 6 地点	住居跡 2 軒、土坑 1 基、土師器多数	後期	No.10
		第 7・9 地点	住居跡 7 軒、土師器多数、鉄製品	中・後期	No.11
		第 11 地点	住居跡 3 軒、土師器	中・後期	No.12
		第 13 地点	住居跡 1 軒、土師器	後期	No.17
		第 15 地点	住居跡 6 軒、土師器	後期	No.27
		第 25 地点	住居跡 2 軒、土師器、初期須恵器	中・後期	No.16
		第 29 地点	住居跡 1 軒、土師・須恵器	後期	No.18
		第 34 地点	住居跡 3 軒、土師器	後期	No.20
		第 35 地点	住居跡 1 軒、土師器多数	後期	No.20
		第 42 地点	住居跡 16 軒、土師器・須恵器・土製品・鉄製品多数	後期	No.33
5	中　道	第 2 地点	住居跡 5 軒、土師器	後期	No. 6
		第 12 地点	住居跡 3 軒、土師器	後期	No.13
		第 13 地点	住居跡 1 軒、土師器	後期	No.13
		第 21 地点	住居跡 2 軒、溝跡 1 本、土師器、鉄製品（鎌完形 1 点）	後期	No.17
		第 33 地点	住居跡 1 軒、土師・須恵器	後期	No.16
		第 36 地点	住居跡 1 軒、土師器	前期	No.18
		第 37 地点	住居跡 1 軒、土師器多数、須恵器小片、土製品	中期	No.18
7	西原大塚	市史掲載	土師器	前期	『志木市史原始・古代資料編』
		第 11 地点	方形周溝墓 1 基、壺形 1 基、土師器	前期	No.11
		第 43 地点	住居跡 1 軒、土師器	後期	No.24
		第 45 地点	住居跡 2 軒、土師器	後期	No.23
		第 111 地点	住居跡 1 軒、土師器	前期	No.31
		第 110 地点	住居跡 7 軒、壺・甕・高杯・鉢形土器	前期	No.32
8	新　部	第 2 地点	住居跡 1 軒、土師器	前期	No. 4
10	田子山	第 5 地点	住居跡 1 軒、土師・須恵器、炭化種子（ヤマモモ多数）	後期	No.13
		第 13 地点	住居跡 1 軒、土師器（短文土器 1 点あり）	後期	No.17
		第 29 地点	住居跡 2 軒、土師・須恵器	後期	No.15
		第 48 地点	住居跡 1 軒、土師器（刺突沈線文あり）	後期	No.20
		第 69 地点	住居跡 1 軒、土師器	後期	No.26
11	富士前	市史掲載	土師器多数	前期	『志木市史原始・古代資料編』
		第 15 地点	住居跡 1 軒、土師器（六角形系高杯あり）	前期	No.20
12	馬　場	市史掲載	土師器（5 ?軒か）	前期	『志木市史原始・古代資料編』

5. 奈良・平安時代

2	中　野	第 2 地点	住居跡 1 軒、須恵器	8c 後半	No. 2
		第 16 地点	住居跡 1 軒、須恵器	8c 中葉	No.17
		第 25 地点	住居跡 2 軒	平安時代	No.25
		第 41 地点	住居跡 1 軒、須恵器、鉄製品、転用紡錘車	9c 後半	No.18
		第 43 地点	住居跡 1 軒、土師・須恵器、鉄滓	9c 前半	No.20
		第 49 地点	住居跡 1 軒、土坑 5 基、土師・須恵器、鍛石	9c 中葉～後葉	No.29
3	城　山	第 1・2 地点	住居跡 6 軒、灰釉陶器、土師・須恵器多数、鉄・石製品	8c～10c	No. 5
		第 4 地点	土坑 2 基、灰釉陶器、須恵器（鉢蓋・要谷ク皿）	10c 前半	No. 8
		第 18 地点	住居跡 1 軒、灰釉陶器	9c 末?	No.11

第２表　志木市の時代別にみた考古資料一覧（２）

No.	遺跡名	地点名	掲載された主な遺構・遺物	報告書一覧 No.及び資料番号
3	城　山	第11地点	住居跡1軒	平安時代　No.12
		第16地点	住居跡1軒、土師・須恵器	平安時代　No.27
		第29地点	住居跡1軒	平安時代　No.18
		第35地点	住居跡2軒、鏃田、布目瓦、緑釉陶器片、土師・須恵器	9c 後半　No.20
		第42地点	住居跡5軒、土坑13基、ピット4本、土師器、須恵器、布目瓦、偏平磨製文の軒平瓦、鉄製品	8c 代　9c 後半　No.33
5	中　道	第12地点	住居跡2軒、土師・須恵器	9c 後半　No.13
		第21地点	住居跡1軒、灰釉陶器片、土師・須恵器	9c 後半　No.17
		第41地点	住居跡1軒、灰釉陶器片、須恵器、炭化米	9～10c　No.20
		第44地点	土坑1基	平安～中世　No.21
7	西原大塚	第8地点	住居跡3軒	平安時代　No. 9
		第34地点	住居跡1軒	平安時代　No.18
		第67地点	土坑1基、須恵1本、土師器・須恵器小片	平安時代　No.34
10	田子山	第4地点	住居跡9軒、土師・須恵器	8～10c　No.13
		第5地点	住居跡4軒、土師・須恵器	8～10c　No.13
		第6地点	住居跡4軒、土師・須恵器、刀子、土錘	9c 後半　No.12
		第7地点	住居跡1軒、布目瓦小片2点、格子目印き瓦小片1点	8c 後半　No.12
		第19地点	住居跡1軒、土師・須恵器、鉄製品	9～10c　No.22
		第21地点	住居跡3軒、土坑1基、土師・須恵器、鉄製品	9c 代　No.22
		第25地点	住居跡5軒、土師・須恵器、硯石	9c 後半　No.22
		第29地点	住居跡1軒、須恵器・布目瓦1点	9～10c　No.15
		第37地点	土坑2基、須恵器	9～10c　No.16
		第39地点	須跡3本、土師・須恵器小片	9c 代　No.18
		第41･42地点	住居跡1軒、土坑1基、土師・須恵器、鉄・銅製品	9～10c　No.18
		第47地点	住居跡2軒、土坑1基、土師・須恵器、鉄・石製品	9c 中頃　No.20
		第49地点	住居跡2軒、土師・須恵器	10c 代　No.20
		第69地点	住居跡1軒、須跡1本、土師・須恵器	9c 中頃　No.26
		第78地点	住居跡2軒、土師・須恵器	9c 前～後半　No.28
		第81地点	住居跡1軒、土坑1基、須跡1本、須恵器、鉄製品	9c 後半、1 基は古墳か？　No.30

6．中・近世

2	中　野	第2地点	須跡1本	不明	No. 2
		第6地点	須跡1本	不明	No. 8
		第8地点	土坑1基	不明	No.10
		第11地点	土坑1基、陶・磁器小片	18～19c	No.17
		第25地点	土坑15基、陶・磁器・瓦器小片	近世	No.25
		第43地点	井戸跡1基	不明	No.20
		第49地点	段切状遺構1カ所、井戸跡4基、土坑12基、人骨、陶磁器、鉄製品、石製品、板碑など	中・近世	No.29
3	城　山	A地点	須跡1本	中世	『志木市史原始・古代資料編』
		C地点	柏城跡の大堀跡1本、陶・磁器	中・近世	『志木市史中世資料編』
		第1･2地点	柏城跡関連の堀跡5本、土坑32基、掘立柱建築跡・ピット群、陶・磁器多数、銅銭、鉄・石製品	中・近世	No. 5
		第3地点	土坑16基、須跡2本	中・近世	No. 7
		第4地点	土坑1基	14～15c	No. 8
		第6地点	土坑7基	中・近世	No.10
		第7･9地点	土坑3基、土製品	中・近世	No.11
		第11地点	土坑3基、井戸跡1基、陶・磁器、板碑、馬歯	中・近世	No.12
		第12地点	土坑2基、井戸跡1基、須跡5本、陶・磁器、古銭	中・近世	No.17
		第15地点	須跡2本（柏城関連）、陶・磁器、かわらけ	中・近世	No.27
		第16地点	井戸跡2基、須跡2本（柏城関連）、陶・磁器、かわらけ、鉄製品（火打金・釘）、板碑	中・近世	No.27
		第25地点	土坑2基	中・近世	No.16
		第29地点	土坑11基、須跡1本、ピット群、板碑、陶・磁器、馬歯、古銭など	中・近世	No.18
		第35地点	土坑15基（鍛造土坑1基・溶解炉1基）、井戸跡1基、鉄型、土・鉄製品、陶・磁器、古銭など	中・近世	No.20
		第42地点	土坑151基、井戸跡8基、須跡4本（柏城関連）、ピット群、陶磁器・かわらけ・瓦・鉄製品・銅製品・板碑	中・近世	No.33
5	中　道	第2地点	土坑　4基、土坑墓　2基、地下式坑　2基、須跡14本、掘立柱建物跡4棟、古銭、陶磁器	中・近世	No. 6
		第6地点	土坑1基、陶・磁器小片	15c 代	No. 8
		第26地点	土坑6基（土坑墓2基）、掘立柱建物跡、人骨、古銭など	17c 代	No.17
		第27地点	土坑2基、土坑2基、陶・磁器	14～15c	No.17
		第36地点	須跡2本、ピット群、陶・磁器小片	中・近世	No.18
		第37地点	土坑墓1基、道路遺構1本、人骨、青磁盤、古銭	中世	No.18
		第44地点	須跡2本	中・近世	No.21
7	西原大塚	第65地点	遺構外出土陶磁器・土器	中・近世	No. 9
8	新　邸	第1地点	土坑17基、井戸跡1基、須跡2本	中・近世	No. 3
		第3地点	土坑1基、須跡2本、陶・磁器	中・近世	No.10
10	田子山	第25地点	遺構外出土陶・磁器	中・近世	No.22
		第81地点	遺構外出土土師、瓦塔子	近世	No.30
16	大　原	第1地点	須跡1本	近世	No.22

7．近代以降

3	城　山	第35地点	かわらけ2点	19c 後半	No.20
10	田子山	第31地点	ローム採掘遺構　2カ所	19c 後半	『田子山富士』文化財第22集
		第49地点	土坑1基	近・現代	No.20
15	市場瀬	第3地点	かわらけ2点	19c 代	No.14

第2表　志木市の時代別にみた考古資料一覧（3）

No.	報告書名	刊行年	シリーズ名	発刊者	執筆者
1	西原・大塚遺跡発掘調査報告	1975	志木市の文化財第４集	志木市教育委員会	井上國夫・藤冷静男 谷井　彪・宮野和明
2	西原大塚遺跡第３地点　中野遺跡第２地点発掘調査報告書	1985	志木市遺跡調査会調査報告第１集	志木市遺跡調査会	佐々木保俊・尾形則敏
3	新邸遺跡発掘調査報告書	1986	志木市遺跡調査会調査報告第２集	志木市遺跡調査会	佐々木保俊・尾形則敏
4	新邸遺跡第２地点　西原大塚遺跡第４地点発掘調査報告書	1987	志木市遺跡調査会調査報告第３集	志木市遺跡調査会	佐々木保俊・尾形則敏
5	城山遺跡発掘調査報告書	1988	志木市遺跡調査会調査報告第４集	志木市遺跡調査会	佐々木保俊・尾形則敏・ 神山健吉
6	中道遺跡発掘調査報告書	1988	志木市遺跡調査会調査報告第５集	志木市遺跡調査会	佐々木保俊・尾形則敏
7	城山遺跡長勝院地点発掘調査報告書	1987	志木市の文化財第11集	志木市教育委員会 志木市遺跡調査会 志木ロータリークラブ	佐々木保俊
8	志木市遺跡群Ⅰ	1989	志木市の文化財第13集	志木市教育委員会	佐々木保俊・尾形則敏
9	志木市遺跡群Ⅱ	1990	志木市の文化財第14集	志木市教育委員会	佐々木保俊・尾形則敏
10	西原大塚遺跡第７地点　新邸遺跡第３地点　中野遺跡第７地点 中野遺跡第８地点　城山遺跡第６地点発掘調査報告書	1991	志木市の文化財第15集	志木市教育委員会	佐々木保俊・尾形則敏
11	志木市遺跡群Ⅲ	1991	志木市の文化財第16集	志木市教育委員会	佐々木保俊・尾形則敏
12	志木市遺跡群Ⅳ	1992	志木市の文化財第17集	志木市教育委員会	佐々木保俊・尾形則敏
13	中道遺跡第12地点　中道遺跡第13地点　田子山遺跡第４地点 田子山遺跡第５地点発掘調査報告書	1992	志木市の文化財第18集	志木市教育委員会	佐々木保俊・尾形則敏
14	志木市遺跡群Ⅴ	1993	志木市の文化財第20集	志木市教育委員会	尾形則敏
15	志木市遺跡群Ⅵ	1995	志木市の文化財第21集	志木市教育委員会	尾形則敏
16	志木市遺跡群Ⅶ	1996	志木市の文化財第23集	志木市教育委員会	佐々木保俊・尾形則敏・ 深井恵子
17	城山遺跡第12地点　城山遺跡第13地点　西原大塚遺跡第 14地点　中野遺跡第11地点　中野遺跡第16地点　市場裏 遺跡第１地点　田子山遺跡第10地点　中道遺跡第21地点 田子山遺跡第13地点　西原大塚遺跡第21地点　市場裏遺跡 第２地点　中道遺跡第26地点発掘調査報告書	1996	志木市の文化財第24集	志木市教育委員会	佐々木保俊・尾形則敏
18	志木市遺跡群Ⅷ	1997	志木市の文化財第25集	志木市教育委員会	佐々木保俊・尾形則敏・ 深井恵子
19	西原大塚の遺跡　西原特定土地区画整理事業に伴う発掘調査 概報	1998	－	志木市遺跡調査会 西原特定土地区画整理組合	佐々木保俊
20	志木市遺跡群９	1999	志木市の文化財第27集	志木市教育委員会	尾形則敏・深井恵子
21	志木市遺跡群10	2000	志木市の文化財第28集	志木市教育委員会	尾形則敏・深井恵子
22	埋蔵文化財調査報告書１	2000	志木市の文化財第29集	志木市教育委員会	尾形則敏・深井恵子
23	西原大塚遺跡第45地点発掘調査報告書	2000	志木市遺跡調査会調査報告第６集	志木市遺跡調査会 小松フォークリフト株式会社	佐々木保俊・内野美津江 宮川幸佳・上田　寛
24	志木市遺跡群11	2001	志木市の文化財第30集	志木市教育委員会	尾形則敏・佐々木保俊・ 内野美津江
25	埋蔵文化財調査報告書２	2001	志木市の文化財第31集	志木市教育委員会	尾形則敏・深井恵子
26	志木市遺跡群12	2002	志木市の文化財第32集	志木市教育委員会	尾形則敏・佐々木保俊・ 深井恵子
27	埋蔵文化財調査報告書３	2002	志木市の文化財第34集	志木市教育委員会	尾形則敏・佐々木保俊・ 深井恵子・佐々木　潤
28	志木市遺跡群13	2003	志木市の文化財第35集	志木市教育委員会	尾形則敏・深井恵子
29	中野遺跡第49地点－東京電力志木変電所の埋蔵文化財発掘 調査報告－	2004	志木市遺跡調査会調査報告第７集	志木市遺跡調査会	尾形則敏・深井恵子・ 青木　修
30	志木市遺跡群14	2004	志木市の文化財第36集	志木市教育委員会	尾形則敏・深井恵子・ 青木　修
31	西原大塚遺跡第111地点	2005	志木市遺跡調査会調査報告第８集	志木市遺跡調査会	佐々木保俊・内野美津江 宮川幸佳
32	西原大塚遺跡第110地点	2005	志木市遺跡調査会調査報告第９集	志木市遺跡調査会	佐々木保俊・内野美津江 宮川幸佳
33	城山遺跡第42地点	2005	志木市遺跡調査会調査報告第10集	志木市遺跡調査会	尾形則敏・深井恵子 青木　修

第３表　志木市の発掘調査報告書一覧

したことに注目される。この住居跡からはその他、猿投産の緑釉陶器の小破片１点、布目瓦の小破片２点などが出土している。

中・近世では、柏城跡を有する城山遺跡と関根兵庫館跡・宿遺跡が代表される遺跡である。特に、柏城跡内での数次にわたる発掘調査により、『館村旧記』（註１）にある「柏之城落城後の屋敷割の図」に相当する堀跡などが多数発見されている。また、城山遺跡第 29 地点の 127 号土坑から馬の骨が検出されている。この土坑からは、板碑と土師質土器の他、炭化種子（イネ・オオムギ・コムギなど）も出土しており、特に、イネの塊状のものは「おにぎり」あるいは「ちまき」のようなものであるという分析結果が報告されている。さらに、第 35 地点では、鋳造関連の遺構も検出されている。130 号土坑については鋳造遺構、134 号土坑については溶解炉に該当し、遺物としては、大量の鉄滓（スラッグ）、鋳型、三叉状の土製品、砥石などが出土している。また平成 13 年に発掘調査が実施された城山遺跡第 42 地点からは、多くの土坑・地下室・井戸跡が検出される中、234 号土坑から、鉄鍋の完形品が出土したことは特筆すべきである。この鉄鍋は、土坑の坑底面に伏せてある状況で出土しており、「鍋被り葬」と呼ばれる古い風習が志木市でも実在していたことが証明された。

平成 11 ～ 14 年度にかけて実施された中野遺跡第 49 地点の調査から、頭を北に向け横臥屈葬された人骨を出土した 67 号土坑が検出されている。その他、ピット列・土坑・溝跡などが検出されていることから、この一帯が『館村旧記』に記載されている「村中の墓場」関連に相当する施設ではないかと考えられる。

近代以降の遺跡では、19 世紀以降の溝跡・地下室などが、城山遺跡を中心に検出されている。田子山遺跡では、敷島神社境内に存在する富士塚の築造（明治２～５年）に関連するローム採掘遺構が検出されており、地域研究の重要な資料であると言える。

第２節　遺跡の概要

ここで、今回本書で報告する中道遺跡について概観することにする。

中道遺跡は、志木市柏町５丁目を中心に広がる遺跡で、東武東上線志木駅の北西約 500 mに位置している。遺跡は柳瀬川右岸の台地上に立地しており、標高は 13 ～ 14 mで、低地との比高差は約７m である。

この遺跡の周辺の開発状況を見てみると、昭和 62（1987）年には、ユリノキ通り（都市計画道路富士見大原線）建設工事に伴う大規模発掘調査が実施され、以後ユリノキ通りが開通し、各種開発が盛んに進行している状況である。

さて、中道遺跡は、これまでの発掘調査により、旧石器、縄文時代前～後期、弥生時代後期、古墳時代前期、平安時代、中・近世の複合遺跡であることが判明している。そこで、これまでに中道遺跡からどのような遺構・遺物が検出されたかを今までの発掘調査の成果から、大まかに振り返ってみることにしたい（第４表）。

調査地点	面積（㎡）	確認調査日	発掘調査期間	調査原因	遺構の概要	報告書No.
第１地点	?	昭和60年 月　日		共同住宅建設	検出されなかった	－
第２地点	6,468.18	－	昭和62年４月８日～ 11月５日	道路改良工事	（旧石器）石器集中地点３ヶ所（縄文）集石２基（縄文中期）住居跡３軒・土坑９基（古墳後期）住居跡５軒（中・近世）掘立柱建築遺構４棟・土坑４基・土坑墓２基・地下式坑２基・溝跡14本・掘立柱建築遺構４棟・ピット群	No.6
第３地点	448.00	昭和62年 ５月20日		個人住宅建設	検出されなかった	No.8
第４地点	95.00	昭和62年 ５月20日		個人住宅建設	検出されなかった	No.8
第５地点	157.40	昭和62年 ５月26日		個人住宅建設	検出されなかった	No.8
第６地点	115.94	昭和62年 ９月18日	９月21日～29日	個人住宅建設	（中世）土坑１基	No.8
第７地点	869.25	昭和63年 １月26日		共同住宅建設	検出されなかった	No.8
第８地点	53.82	昭和63年 ７月30日		個人住宅建設	検出されなかった	No.9
第９地点	234.45	平成元年 ３月10日		個人住宅建設	検出されなかった	No.9
第10地点	937.05	６月21日		個人住宅建設	検出されなかった	No.11
第11地点	300.00	９月８日	９月９日～13日	宅地造成	昭和以降の土坑１基（地下室？）であり、調査中断	No.11
第12地点	997.96	９月14日	９月18日～10月２日	宅地造成	（縄文中期）住居跡２軒（古墳後期）住居跡４軒（平安）住居跡２軒	No.11・13
第13地点	1,209.00	10月５日	10月21日～31日	宅地造成	（縄文中期）住居跡１軒（古墳後期）住居跡１軒（近世）土坑１基	No.11・13
第14地点	230.00	11月７日		共同住宅建設	検出されなかった	No.11
第15地点	125.99	平成２年 ６月19日		個人住宅建設	検出されなかった	No.12
第16地点	141.22	７月24日		個人住宅建設	検出されなかった	No.12
第17地点	104.11	７月26日		個人住宅建設	検出されなかった	No.12
第18地点	141.22	８月４日		個人住宅建設	検出されなかった	No.12
第19地点	197.64	10月３日		個人住宅建設	検出されなかった	No.12
第20地点	1,199.66	11月16日		児童公園造成	検出されなかった	No.12
第21地点	487.00	平成３年 １月16日	１月21日～２月６日	共同住宅建設	（古墳後期）住居跡３軒・溝跡１本？（平安）住居跡２軒・溝跡１本	No.12・17
第22地点	125.00	１月22日		個人住宅建設	検出されなかった	No.12
第23地点	81.24	３月28日		共同住宅建設	検出されなかった	No.12
第24地点	338.37	６月13日		共同住宅建設	検出されなかった	No.14
第25地点	131.89	６月26日		共同住宅建設	検出されなかった	No.14
第26地点	897.02	10月９日	10月14日～11月６日	ガソリンスタンド建設	（中・近世）土坑４基・土坑墓２基・溝跡１本・ピット	No.14・17
第27地点	632.90	平成４年 ９月９日	９月21日～９月28日	駐車場建設	（中世）地下式坑２基（時期不明）土坑１基	No.15・22
第28地点	162.51	９月28日		駐車場建設	検出されなかった	No.15
第29地点	287.74	10月５日		共同住宅建設	検出されなかった	No.15
第30地点	236.76	10月30日		共同住宅建設	検出されなかった	No.15
第31地点	116.00	平成５年 ８月23日		個人住宅建設	検出されなかった	No.15
第32地点	141.23	10月５日		個人住宅建設	検出されなかった	No.15
第33地点	132.92	平成６年 ５月31日	６月２日～22日	個人住宅建設	（古墳後期）住居跡１基	No.16

第４表　中道遺跡調査一覧（１）

調査地点	面積（㎡）	確認調査日	発掘調査期間	調査原因	遺構の概要	報告書No.
第34地点	270.00	9月21日		個人住宅建設	検出されなかった	No.16
第35地点	55.61	平成7年 3月20日		個人住宅建設	検出されなかった	No.16
第36地点	179.51	平成7年 5月31日	6月2日～21日	個人住宅建設	（古墳前期）住居跡1軒（近世）溝跡2本・ピット群	No.18
第37地点	154.44	8月3日	8月7日～9月7日	個人住宅建設	（古墳中期）住居跡1軒（中世）土坑墓1基・道路状遺構1本	No.18
第38地点	1,019.82	12月8日	平成8年 3月13日～5月17日	共同住宅建設	（古墳後期）住居跡3軒（近世）土坑46基・地下室1基・溝跡2本・井戸跡1基・ピット群	No.18
第39地点	1,209.91	12月7日	2月6日～3月14日	共同住宅建設	（旧石器）石器集中地点1ヶ所（縄文）集石1基（縄文中期）住居跡1軒（近世）土坑51基・井戸跡1基・ピット群	No.18
第40地点	203.07	平成8年 5月15日		個人住宅建設	検出されなかった	No.20
第41地点	394.54	6月25日	6月26日～7月4日	個人住宅建設	（平安）住居跡1軒・溝跡1本	No.20
第42地点	98.52	平成9年 5月16日		個人住宅建設	検出されなかった	No.21
第43地点	280.55	8月8日		共同住宅建設	盛土保存適用	No.21
第44地点	221.28	9月18日	9月24日～10月2日	個人住宅建設	（平安～中世）土坑1基 （近世）溝跡2本	No.21
第45地点	131.86	10月20日		個人住宅建設	盛土保存適用	No.21
第46地点	257.55	平成11年 3月9日		分譲住宅建設	検出されなかった	No.21
第47地点	112.39	6月22日		個人住宅建設	検出されなかった	No.24
第48地点	1,483.63	6月29日		店舗建設	検出されなかった	No.24
第49地点	89.05	7月16日		個人住宅建設	検出されなかった	No.24
第50地点	66.12	8月2日		個人住宅建設	検出されなかった	No.24
第51地点	83.31	8月2日		個人住宅建設	検出されなかった	No.24
第52地点	461.98	7月30日		個人住宅建設	検出されなかった	No.24
第53地点	132.25	平成12年 8月21日		個人住宅建設	盛土保存適用	No.26
第54地点	1,590.52	9月25日		共同住宅建設	盛土保存適用	No.26
第55地点	287.86	平成13年 1月22日		共同住宅建設	検出されなかった	No.26
第56地点	4,918.56	2月 20・21日	4月9日～12日	店舗建設	（古墳後期～平安）溝跡1本（近世）土坑3基・溝跡1本	No.26
第57地点	124.24	11月22日		個人住宅建設	検出されなかった	No.28
第58地点	757.32	平成14年 8月27日		共同住宅建設	検出されなかった	No.30
第59地点	560.07	10月22日		分譲住宅建設	検出されなかった	No.30
第60地点	259.69	平成15年 2月25日		共同住宅建設	検出されなかった	No.30
第61地点	132.67	平成16年 9月24日		道路建設工事	盛土保存適用	未
第62地点	626.99	11月25日		分譲住宅建設	盛土保存適用	未
第63地点	251.75	平成17年 10月11日		分譲住宅建設	盛土保存適用	未
第64地点	118.80	12月1日		個人住宅建設	盛土保存適用	未
第65地点	556.76	平成18年 5月8日	7月20日～8月12日	共同住宅建設		本報告
第66地点	59.85	8月18日		分譲住宅建設	検出されなかった	未

第4表　中道遺跡調査一覧（2）

まず、中道遺跡における最初に実施された発掘調査は、昭和62（1987）年の第２地点である。この調査は前述したユリノキ通り建設工事に伴い実施されたものである。この調査により、旧石器時代の石器集中地点３ヶ所、縄文時代の集石２基、縄文時代中期の住居跡３軒・土坑９基、古墳時代後期の住居跡５軒、中・近世の掘立柱建築遺構４棟・土坑４基・土坑墓２基・地下式坑２基・溝跡14本などの多くの遺構が検出されている。

平成元年（1989）度には第12・13地点の調査が実施されている。第12地点では縄文時代中期の住居跡２軒、古墳時代後期の住居跡４軒、平安時代の住居跡２軒が検出され、第13地点では縄文時代中期の住居跡１軒、古墳時代後期の住居跡１軒、近世の土坑１基が検出されている。

この頃には中道遺跡の基本となる時代は、旧石器、縄文時代中期、古墳時代後期～平安時代、近世であることが判明してきたと言える。

平成２(1990)年度には共同住宅建設に伴い第21地点の調査が実施され、古墳時代後期の住居跡３軒・溝跡１本、平安時代の住居跡２軒、近世の溝跡１本が検出されている。その内の近世の溝跡とされる16 Mについては、その後の第41地点や城山遺跡第58地点の調査により、この溝跡の延長部分と思われる遺構が検出され、平安時代に比定されるものと判断できる。

平成３（1991）年度には第26・27地点の調査が実際されている。第26地点はガソリンスタンド建設に伴う調査で、中・近世の土坑４基・土坑墓２基・溝跡１本などが検出されている。第27地点は駐車場建設に伴う調査で、中世の地下式坑２基と時期不明の土坑１基が検出されている。特に、第26地点の２基の人骨を出土した土坑墓、第27地点の２基の地下式坑、そして第２地点の人骨を出土した２基の土坑墓と２基の地下式坑は近接した位置関係にあることから、中世～近世にかけての時期には墓域的な性格があったものと推測される。

平成６(1994)年度には個人住宅建設に伴い第33地点の調査が実施され、古墳時代後期（７世紀中葉）の住居跡１軒が検出されている。住居跡はカマドや柱穴・壁が２重構造であることから、拡張住居であることが判明した。

平成７（1995）年度には第36・37・38・39地点の調査が実施されている。第36・37地点は個人住宅建設に伴い実施された調査で、第36地点からは、古墳時代前期の住居跡と近世の溝跡２本が検出されている。第37地点からは、古墳時代中期（５世紀中葉）の住居跡１軒と中世の道路状遺構１本と土坑墓１基が検出されている。特筆すべきは、５世紀中葉にカマドをもつ住居跡は、当市では最古に位置付けられるものである。そのカマド構造は、煙道部の長さが140cmあり、これは当市では初めてのタイプのものであった。基本的には県北地域に多く見られるタイプであることから、カマド導入段階での県北との結び付きが指摘できる。また、中世では人骨と六文銭を出土した土坑墓１基と鎬蓮華文が描かれた13世紀代の青磁盤を出土した道路状遺構１本が検出されている。

第38・39地点は、共同住宅建設に伴い実施された調査で、第38地点からは、古墳時代後期の住居跡３軒と近世の土坑46基・地下室１基・溝跡２本・井戸跡１基・ピット群が検出されている。第39地点からは、縄文時代の集石１基、縄文時代中期の住居跡１軒と近世の土坑51基・井戸跡１基・ピット群などが検出されている。

平成８（1996）年度に個人住宅建設に伴い第 41 地点の調査が実施された。この調査では、平安時代の住居跡１軒・溝跡１本が検出され、特に平安時代の 23 号住居跡は、住居床面から炭化材や炭化種子塊が出土していることから焼失住居と判断でき、灰釉陶器・須恵器・内黒土器なども出土した。炭化材・炭化種子塊は、自然科学分析を行った結果、炭化材の主体はクリ材、炭化種子塊はイネであると判明した。

平成９（1997）年度には個人住宅建設に伴い第 44 地点の調査が実施され、平安時代～中世にかけての土坑１基・近世の溝跡２本が検出された。136 号土坑は、平面形が楕円形を呈し、2.5×1.24 mの規模をもち、深さは確認面から２m程の深い土坑であった。

平成 10 ～ 12（1998 ～ 2000）年度は、第 53・54 地点で盛土保存が適用されたが、発掘調査の実施はなかった。

平成 13（2001）年度には店舗建設に伴い第 56 地点の調査が実施された。調査面積は 5,000 ㎡に近い広い地域での調査であったが、遺構の密度は希薄で、古墳時代後期～平安時代の溝跡１本と近世の土坑３基・溝跡１本が検出されている。

その後、平成 14 ～ 17（2002 ～ 2005）年度は、第 61 ～ 64 地点で盛土保存が適用されている。

そして、平成 18（2006）年度には本地点の発掘調査が実施された。この調査は共同住宅建設に伴うもので、縄文時代の住居跡３軒、炉跡１基、集石１基、土坑７基、ピット 10 基、弥生時代末葉～古墳時代前期の方形周溝墓１基、奈良・平安時代の住居跡１軒、掘立柱建築遺構１棟、土坑３基、ピット 17 基、近世以降の土坑 17 基、ピット 15 基の遺構が検出された（詳細は本文参照）。

以上、最新の調査を踏まえ、中道遺跡は、旧石器時代・縄文時代早～後期、弥生時代後期、古墳時代後期、平安時代・中・近世の複合遺跡であると改めて判明したきたと言えよう。

最後に、本遺跡の特色を時代別にまとめると、以下のとおりである。

○旧石器時代　第２地点から石器集中地点３ヶ所、第 39 地点から石器集中地点１ヶ所が検出されている。第２地点では立川ローム層のⅣ層上部・Ⅵ層・Ⅶ層で文化層が確認されている。

○縄文時代　本地点から初めて、早期後葉（条痕文系）の住居跡１軒が検出されている。

中期後葉には、第２・12・13・39 地点と本地点で住居跡が検出されている。完形の土器を出土する土坑としては、第２地点の 11 号土坑がある。

○古墳時代　本地点から初めて、弥生時代末葉～古墳時代前期にかけての方形周溝墓１基が検出されている。

前期の住居跡としては、第 36 地点の 18 号住居跡が１軒ある。これは、南側に隣接する新邸遺跡との関連で今後追究する必要があろう。

中期の住居跡としては、第 37 地点の 19 号住居跡がある。この住居跡は市内のカマドを有する住居跡としては最古のもので、煙道が長い特徴をもつカマドは、県北地域との関連が指摘できよう。

後期の住居跡としては、第２・12・13・21・33・38 地点で検出されている。この遺跡から検出される住居跡は、７世紀中葉という比較的古墳時代では新しい

時期に比定されることから、北側に隣接する城山遺跡の集落が拡散した状況として理解できそうである。

○奈良時代　本遺跡では未検出である。

○平安時代　住居跡としては、第２・12・21・41 地点で検出されている。その他として、第 41・56・58 地点からは溝跡が検出されている。特筆すべきは、第 41 地点の 23 号住居跡の床面から炭化材（クリ材を主体）や炭化種子塊が（イネ）が出土していることである。

○中・近世　墓域的な性格の遺構として、第２地点から人骨を出土した２基の土坑墓（16・18 号土坑）と２基の地下式坑（16・19 号土坑）、第 26 地点からは人骨と六文銭を出土した２基の土坑墓（座棺）、第 37 地点からは人骨と六文銭を出土した土坑墓１基がある。また、特筆すべきとして、第 37 地点から鎬蓮華文をもつ 13 世紀代の青磁盤を出土した道路状遺構１本が検出されている。

その他として近世では、第２・13・26・27・36・38・39・44・56 地点と本地点から、土坑・溝跡・ピット群を中心とした遺構が多く検出されている。第２地点では４棟の掘立柱建築遺構が確認されている。

【註】

註１『館村旧記』は、館村（現在の志木市柏町・幸町・館）の名主であった宮原仲右衛門仲恒が、享保 12 ～ 14（1727 ～ 1729）年にかけて執筆したものである。

第２章　発掘調査の概要

第１節　調査に至る経過

平成 18 年４月、株式会社レオパレス 21 から志木市教育委員会（以下、教育委員会）へ開発計画地内における埋蔵文化財の有無及び取り扱いについての照会があった。計画は志木市柏町５丁目 2958 －１の一部（面積 556.76㎡）内に共同住宅建設を行うというものである。

これに対し、教育委員会は当該開発予定地が周知の埋蔵文化財包蔵地である中道遺跡（コード 11228 － 005）に該当するため、大旨下記のとおり回答した。

１．埋蔵文化財確認調査を実施して、その結果に基づき、当該開発予定地の埋蔵文化財の有無及び取り扱いについて回答する。

２．上記１の調査の結果、埋蔵文化財が確認された場合、埋蔵文化財の保存措置を講ずること。また、やむを得ず土地の現状を変更する場合は、記録保存のための発掘調査を実施する必要があること。

３．中道遺跡における埋蔵文化財の分布状況については、周辺での調査結果に基づき、今回の開発地域内での埋蔵文化財の所在はかなり確立が高いということ、検出される可能性として縄文時代中期の住居跡や古墳時代後期の住居跡が考えられるなど、中道遺跡の状況を説明する。

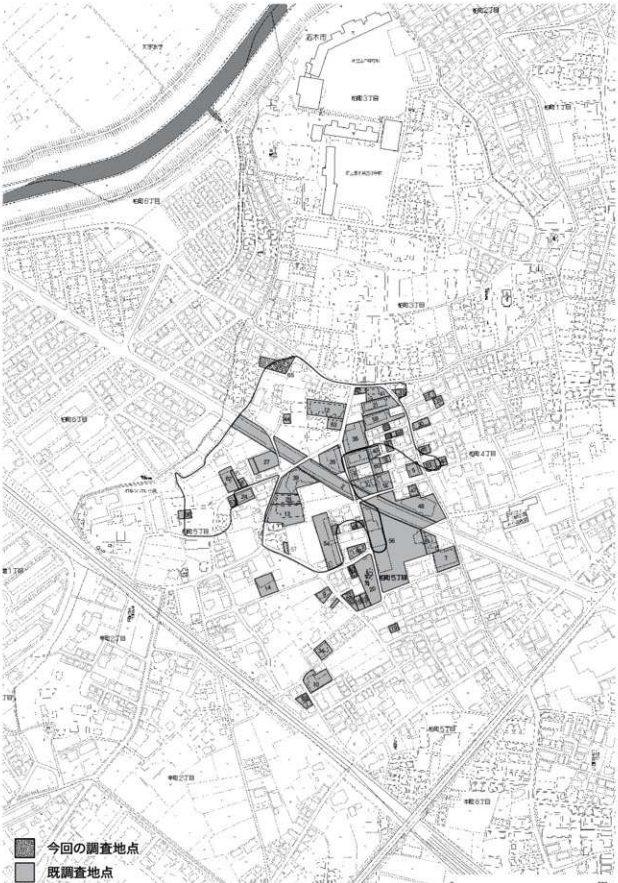
平成 18 年５月２日、教育委員会は、開発者及び土地所有者である個人より埋蔵文化財確認調査依頼書を受理し、５月８日、午前９時 30 分から確認調査を実施した。

確認調査は、第３図に示すようにＬ字状の調査区に合わせ、幅 1.5 ｍ程のトレンチを５本設定し、バックホーで表土を剥ぎ、同時に遺構確認作業を行った。その結果、調査区の南半部を中心に遺構が分布することが判明した。検出された主な遺構は、縄文時代の住居跡２軒・土坑１基、古墳時代後期の住居跡などであった。

教育委員会はこの結果をただちに代理者のレオパレス 21 に報告し、埋蔵文化財の保存措置を講ずるように要請したが、盛土保存は難しいということになり、記録保存のための発掘調査を実施することに決定した。

その後、開発主体者の個人から埋蔵文化財発掘届が提出され、教育委員会では発掘調査にあたる組織として、志木市遺跡調査会（以下、遺跡調査会）を斡旋した。遺跡調査会ではこれを受け、開発主体者の個人と委託契約を締結し、埋蔵文化財発掘調査届を教育委員会に提出する。教育委員会は、これらの届出書をすみやかに埼玉県教育委員会経由で文化庁長官に提出した。

これにより、６月 16 日から志木市遺跡調査会を主体として発掘調査を実施した。なお、発掘調査通知書番号は教文第２－ 35 号　平成 18 年８月４日付である。



第２図　中道遺跡の調査地点（1/5,000）

第２節　調査の方法と経過

重機による表土剥ぎ作業は、20 日午前から着手し、調査区域全面の表土及び残土は、全て調査区外に一度搬出する予定をとった。

人員導入による発掘調査は、22 日から開始した。まず、器材の搬入作業を行い、その後調査区域内の整備と細部の遺構確認作業を行った。その結果、調査区域には縄文時代～近世以降の遺構がほぼ全域に分布していることが明らかになった。

以下、発掘調査の大まかな経過を説明することにし、各遺構の精査経過については、第５表の発掘調査工程表に示した。

【発掘調査】

７月下旬　　遺構精査は調査区西半部（第一調査区）から開始する。８・９・10J、１方、24H、140 ～ 154D、1 ～ 10P の精査を行い、９J、１方、24H、140 ～ 154D、1 ～ 10P の写真撮影・実測を終了する。

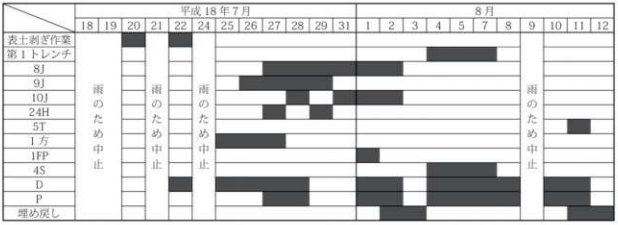
８月上旬　　８・10J、１FP、155 ～ 158D、11 ～ 15P を掘り終え、写真撮影・実測を終了する。第一調査区を埋め戻し、調査区東半部(第二調査区)の精査を開始する。旧石器時代の遺構遺物確認作業、４S、５T、159 ～ 165D、16 ～ 65P を掘り終え、写真撮影・実測を終了する。

８月 12 日　　埋め戻し完了。

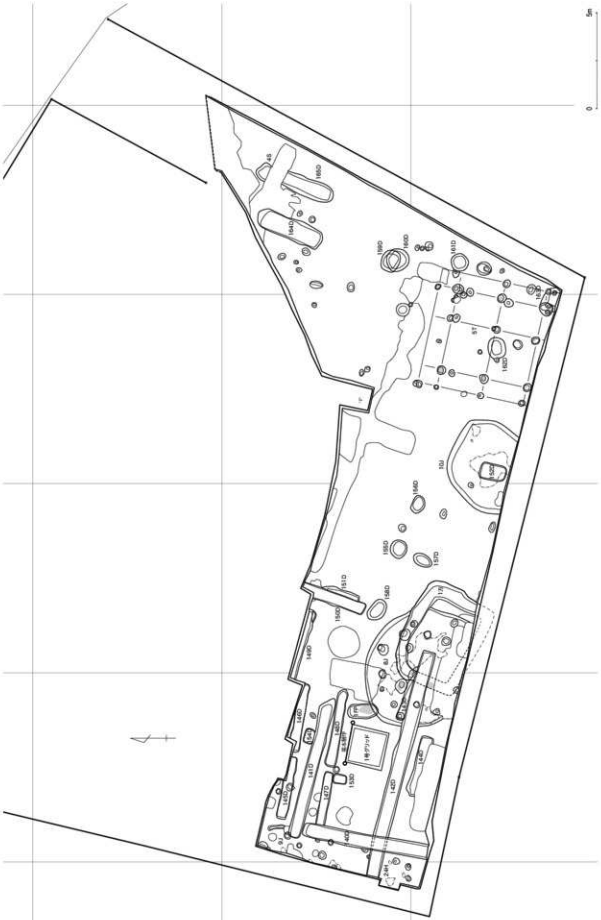
実質調査日数 18 日間。

【整理作業】

８月 15 日から整理作業を開始し、断続的ではあるが 2007 年６月 15 日まで行った。編集作業は DTP で行い、印刷は CTP 印刷で行った。遺物の写真撮影は、デジタルカメラを使用した。



第５表　発掘調査工程表


0
5m
A
B
1SD
1SD
1SD

第３節　基本層序

中道遺跡は、武蔵野台地の北端部にあたり、遺跡の標高は約 13m を測り、周辺は地形改変により平坦な状態ではないが、調査区内の旧地形はほぼ平坦であったと思われる。層序確認では、ローム層の堆積状態はⅤ層で西側に向かって緩やかに傾斜していることが読みとれる。このことから、柳瀬川方向に向かって緩やかな傾斜を示していた可能性がある。

今回の調査における基本層序は、旧石器時代の遺物と思われる石器が検出された、調査区中央から西よりの地点で精査を兼ねて層序確認を行った。

以下、各層についての説明をすることにする。

第Ⅰ層　盛土と耕作土。

第Ⅱ層　ローム層直上までの自然堆積層（黒色土層・漸移層）。

第Ⅲ層　黄褐色軟質ローム層。いわゆるソフトローム層である。この地域ではローム層のソフト化が著しく、部分的には第Ⅶ層にまで及ぶ。

第Ⅳ層　黄褐色硬質ローム層。いわゆるハードローム層である。ソフト化の進行で、発達は悪い。

第Ⅴ層　暗褐色ローム層。立川ローム層第Ⅰ層黒色帯に相当する。色調が薄く、非常に不明瞭である。

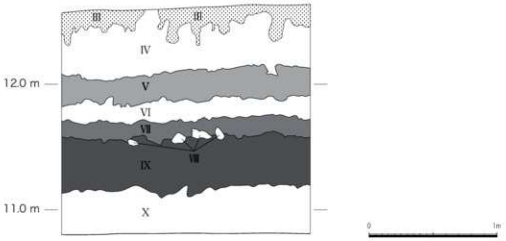
第Ⅵ層　黄褐色硬質ローム層。

第Ⅶ層　暗褐色ローム層。立川ローム層第Ⅱ黒色帯上部に相当する。

第Ⅷ層　黄褐色ローム層。第Ⅶ層と第Ⅸ層の境界付近にブロック状に存在することが多い。

第Ⅸ層　暗褐色ローム層。立川ローム層第Ⅱ黒色帯下部に相当する。第Ⅶ層より色調が暗く、粘性が強い。

第Ⅹ層　黄褐色硬質ローム層。全体的に砂質で、小礫が混入する。



第４図　基本層序（北壁）（1/30）

第３章　検出された遺構と遺物

第１節　縄文時代

（１）概　要

縄文時代の遺構については、住居跡３軒・炉穴１基・集石１基・土坑７基、ピット 10 基が検出された。住居跡の時期は、８J 号住居跡が中期中葉～後葉の勝坂終末～加曽利 E 初頭、10J 号住居跡が早期末葉条痕文の時期である。９J 号住居跡は遺物が検出されなかったため、詳細な時期は特定できないが、形状から中期の住居跡の可能性が高い。

（２）住居跡

８J 号住居跡

遺　構（第５～７図）

［住居構造］１号方形周溝墓に一部切られる。住居の南側は調査区外であり、また、攪乱によって壊されている。（平面形）楕円形か。（規模）７×5.4m。（長軸方位）N-45.6°-E。（壁高）15.3 ～ 33.7cm を測る。（床面）住居中央部付近に硬化した部分が確認できた。（炉）３ヶ所検出された。１号炉は住居中央よりやや西よりに位置する。平面形は楕円形を呈すると考えられ、12.6cm の掘り込みを持つ。２号炉は１号炉の西に位置し、南側を 142D に切られる。平面形は不整形で、規模 76.8× 64.2cm、10cm の掘り込みを持つ。３号炉は１号炉の南に位置し、焼土が検出されている。規模 39.4 × 39.2cm、7.4cm の掘り込みを持つ。（柱穴）14 本検出された。主柱穴は六角形状に配列されている可能性がある。深さ６～ 83cm を測る。（覆土）住居は 18 層、ピットは２～５層に分層される。

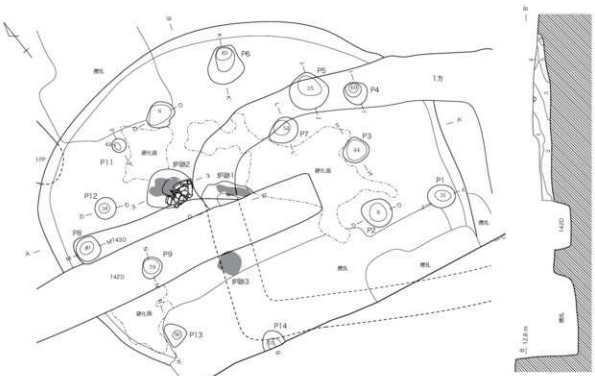
［遺物］諸磯式～加曽利 E 式の土器、石鏃、石匙、楔形石器、剥片、石核、打製石斧、磨石が出土した。

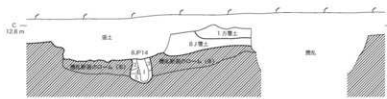
［時期］縄文時代中期中葉（勝坂期終末～加曽利 E 期初頭）。

遺　物（第８～ 14 図）

土　器（第８～ 12 図）

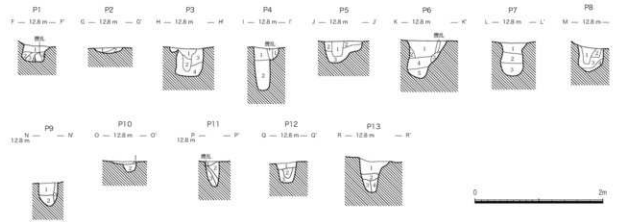
１～39 は中期中葉の土器である。１は口縁端部に半円形の刺突が施される。口縁部直下は隆帯によって楕円形に区画され、区画内部には隆帯に沿って半円形の刺突が施される。２は口縁部に楕円形状の突起を持ち、その下部に平行沈線が数条巡る。平行沈線間には斜方向の平行沈線が施される。３は口縁部直下に楕円形の貼り付けをし、貼り付けの上からと下部に爪形の押引文を施している。その下には爪形の押引文で楕円形を描いている。４は方形の連続刺突を伴う隆帯が三角形状に区画している。隆帯の交点は突起状になっており、隆帯に沿って三角形の押引文が施される。５は円形の連続刺突を伴う横位の隆帯が巡る。下部には方形区画と思われる沈線内に方形の連続刺突が認められる。６a は波状の沈線が三角形状に渦を巻き、それを囲うように爪形の連続刺突・方形の押引文が施される。横に





1 層	黒色	粘性強	締まり中	ローム粒子1mm 以下,1 ～ 2%、焼土 1mm 以下,1 ～ 2% 含む。
2 層	黒褐色	粘性中	締まり強	ローム粒子1 ～ 2mm,3 ～ 10%、焼土 1 ～ 2mm,1 ～ 2% 含む。
3 層	黒褐色	粘性弱	締まり強	ローム粒子1 ～ 2mm,15 ～ 20%、炭化物 1 ～ 2mm,1 ～ 2% 含む。
4 層	褐灰色	粘性強	締まり中	ローム粒子2 ～ 5mm,15 ～ 20%、焼土1 ～ 2mm,1 ～ 2%、炭化物 1 ～ 2mm,1 ～ 2% 含む。
5 層	灰黄褐色	粘性弱	締まり強	ローム粒子2 ～ 5mm,15 ～ 20% 含む。
6 層	にぶい黄褐色	粘性強	締まり中	ローム粒子1 ～ 2mm,1 ～ 2% 含む。
7 層	暗褐色	粘性弱	締まり強	ローム粒子 1mm 以下,3 ～ 10%、焼土 1mm 以下,1 ～ 2%、炭化物 1mm 以下,1 ～ 2% 含む。
8 層	暗褐色	粘性中	締まり中	ローム粒子 1mm 以下,1 ～ 2%、焼土 1mm 以下,3 ～ 10% 含む。
9 層	褐色	粘性強	締まり中	ローム粒子1 ～ 2mm,3 ～ 10%、焼土 1mm 以下,1 ～ 2%、炭化物 1 ～ 2mm,1 ～ 2% 含む。
10 層	にぶい黄褐色	粘性弱	締まり強	ローム粒子1 ～ 2mm,3 ～ 10% 含む。
11 層	褐色	粘性中	締まり中	ローム粒子1 ～ 2mm,1 ～ 2%、炭化物2 ～ 5mm,1 ～ 2% 含む。
12 層	黄褐色	粘性弱	締まり強	焼土 10mm 以上 40% 以上、炭化物 1 ～ 2mm,1 ～ 2% 含む。
13 層	にぶい黄褐色	粘性中	締まり弱	ローム粒子1 ～ 2mm,3 ～ 10%、焼土 1mm 以下,1 ～ 2% 含む。
14 層	黒褐色	粘性中	締まり弱	ローム粒子1 ～ 2mm,15 ～ 20% 含む。
15 層	褐色	粘性強	締まり弱	ローム粒子5 ～ 10mm,40% 以上含む。
16 層	黄褐色	粘性弱	締まり弱	ロームブロック 10mm 以上 40% 以上含む。
17 層	黄褐色	粘性弱	締まり強	ロームブロック 10mm 以上 40% 以上含む。
18 層	黒褐色	粘性中	締まり中	ローム粒子1 ～ 2mm,3 ～ 10%、焼土1 ～ 2mm,1 ～ 2% 含む。

第5図　8J号住居跡（1/60）



P1
1層　灰黄褐色　粘性中　締まり強　ローム粒子１～2mm,3～10%含む。
2層　灰黄褐色　粘性中　締まり弱　ローム粒子２～5mm,3～10%含む。
3層　灰黄褐色　粘性中　締まり中　ローム粒子１～2mm,3～10%、焼土１～2mm,1～2%含む。
4層　褐色　粘性弱　締まり強　ロームブロック10mm以上,40%以上含む。

P2
1層　灰黄褐色　粘性中　締まり強　ローム粒子１～2mm,3～10%含む。
2層　褐色　粘性中　締まり強　ロームブロック10mm以上,25～30%含む。

P3
1層　暗褐色　粘性中　締まり強　ローム粒子１～2mm,3～10%、焼土1mm以下,1～2%含む。
2層　暗褐色　粘性中　締まり弱　ローム粒子１～2mm,3～10%含む。
3層　褐色　粘性中　締まり中　ローム粒子１～2mm,15～20%、焼土２～5mm,1～2%含む。
4層　黒褐色　粘性中　締まり弱　ローム粒子1mm以下,15～20%含む。

P4
1層　暗褐色　粘性中　締まり中　ローム粒子１～2mm,1～2%含む。
2層　暗褐色　粘性中　締まり中　ローム粒子1mm以下,1～2%含む。

P5
1層　暗褐色　粘性弱　締まり強　ローム粒子２～5mm,3～10%、焼土１～2mm,1～2%含む。
2層　黄褐色　粘性弱　締まり強　ロームブロック10mm以上,15～20%含む。
3層　褐色　粘性弱　締まり強　ローム粒子２～5mm,25～30%含む。

P6
1層　にぶい黄褐色　粘性中　締まり中　ローム粒子１～2mm,25～30%含む。
2層　灰黄褐色　粘性弱　締まり中　ローム粒子1mm以下,3～10%含む。
3層　褐色　粘性弱　締まり中　ローム粒子1mm以下,25～30%含む。
4層　暗褐色　粘性中　締まり中　ローム粒子２～5mm,3～10%含む。
5層　灰黄褐色　粘性中　締まり中　ローム粒子1mm以下,3～10%含む。

P8
1層　灰黄褐色　粘性弱　締まり中　ローム粒子1mm以下,15～20%含む。
2層　にぶい黄褐色　粘性弱　締まり中　ローム粒子２～5mm,25～30%含む。
3層　黒褐色　粘性弱　締まり中　ローム粒子１～2mm,15～20%含む。
4層　褐色　粘性中　締まり中　ロームブロック5～10mm,25～30%含む。

P9
1層　にぶい黄褐色　粘性中　締まり中　ローム粒子１～2mm,40%以上、焼土２～5mm,1～2%含む。
2層　褐色　粘性中　締まり弱　ローム粒子２～5mm,40%以上含む。
3層　褐色　粘性中　締まり中　ローム粒子1mm以下,25～30%含む。

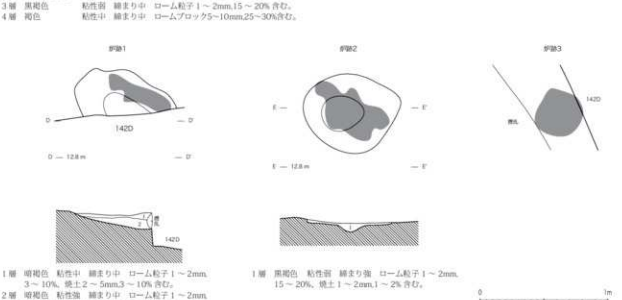
P10
1層　にぶい黄褐色　粘性弱　締まり強　ローム粒子１～2mm,3～10%含む。
2層　にぶい黄褐色　粘性弱　締まり強　ローム粒子２～5mm,1～2%含む。

P11
1層　黒褐色　粘性弱　締まり強　ローム粒子１～2mm,3～10%含む。
2層　暗褐色　粘性中　締まり中　ローム粒子２～5mm,25～30%含む。
3層　暗褐色　粘性弱　締まり弱　ローム粒子１～2mm,3～10%含む。

P12
1層　にぶい黄褐色　粘性中　締まり強　ローム粒子２～5mm,3～10%含む。
2層　褐色　粘性中　締まり中　ローム粒子1mm以下,1～2%含む。
3層　にぶい黄褐色　粘性中　締まり中　ローム粒子1mm以下,1～2%含む。

P13
1層　暗褐色　粘性中　締まり強　ローム粒子２～5mm,3～10%、焼土１～2mm,1～2%含む。
2層　にぶい黄褐色　粘性中　締まり強　ロームブロック10mm以上,25～30%含む。
3層　にぶい黄褐色　粘性中　締まり中　ロームブロック10mm以上,3～10%含む。
4層　明黄褐色　粘性強　締まり強　ロームブロック10mm以上,40%以上含む。

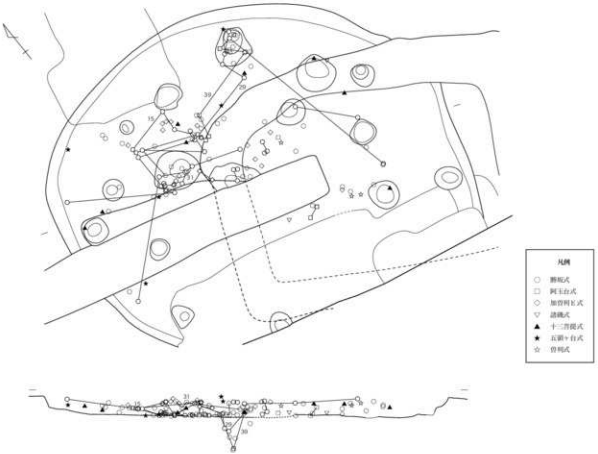
P14
1層　灰黄褐色　粘性強　締まり弱　ローム粒子１～2mm,40%以上、焼土１～2mm,1～2%含む。
2層　にぶい黄褐色　粘性中　締まり強　ローム粒子１～2mm,3～10%、炭化物２～5mm,1～2%含む。
3層　黒褐色　粘性中　締まり弱　ローム粒子２～5mm,3～10%含む。
4層　褐灰色　粘性強　締まり中　ローム粒子１～2mm,15～20%含む。
5層　にぶい黄褐色　粘性中　締まり中　ロームブロック5～10mm,25～30%含む。



1層　暗褐色　粘性中　締まり中　ローム粒子１～2mm,3～10%、焼土２～5mm,3～10%含む。
2層　暗褐色　粘性強　締まり中　ローム粒子１～2mm,3～10%、焼土２～5mm,15～20%含む。

1層　黒褐色　粘性弱　締まり強　ローム粒子１～2mm,15～20%、焼土１～2mm,1～2%含む。

第６図　8J号住居跡・炉跡（1/60・1/30）

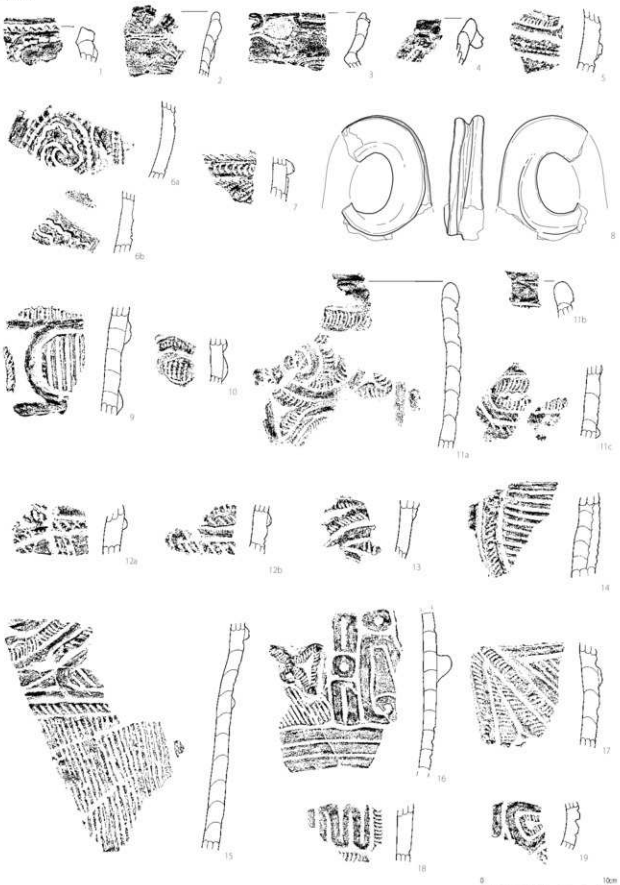


第７図　８Ｊ号住居跡遺物分布図（1/60）

は縦位の隆帯と連続爪形文が認められる。６ｂは波状の沈線が斜方向に施される。７は地文縄文 RL は縦方向に施される。爪形の連続刺突を伴う横位の隆帯に沿って三角形の押引文が施される。８は耳飾状の把手である。縦長の楕円形で、断面は滑車状を呈する。

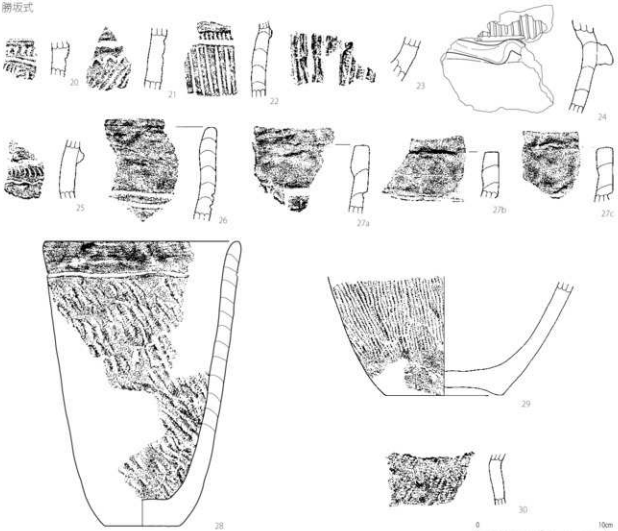
９は２本の横位隆帯の間に楕円区画を施し、区画内に縦方向の沈線を施す。区画隆帯上部に沿って方形の連続刺突が巡る。10 は方形の連続刺突を伴う隆帯で楕円区画され、区画内には円形の連続刺突が施される。11a・b・c は幅の狭い口縁部無文帯と胴部を沈線で区画する。胴部には押引の縦位方形区画内に半円や円が押引で描かれ、それに沿って爪形の連続刺突が施される。また、縦区画や半円形の隙間には三叉文が施される。その下部には横位の楕円形区画が施され、区画内には波状沈線文が描かれる。器形は少し胴部が膨らむ円筒型になると考えられる。12a・b は方形の連続刺突を伴う隆帯や押引によって弧状に区画され、隆帯区画内には撚糸文１が縦方向に、押引区画内には沈線が斜方向に施される。13 は方形の連続刺突を伴う隆帯が弧状に区画する。区画内には沈線が三角形状に描かれ、その中に連続刺突を施す。14 は方形の連続刺突を伴う隆帯で弧状区画し、区画内には横方向の沈線が数条施される。15 は方形の連続刺突を伴う隆帯で横位区画される。区画上部には方形の連続刺突を伴う隆帯が弧状に施され、それに沿って蓮華文が描かれる。区画下部には撚糸文１が施される。16 は沈線による長方形や隅丸方形、蝶状の貼付などが施され、その下には横位の沈線が数条巡る。円筒系統で

勝坂式



第８図　８J 号住居跡出土遺物１（1/3）

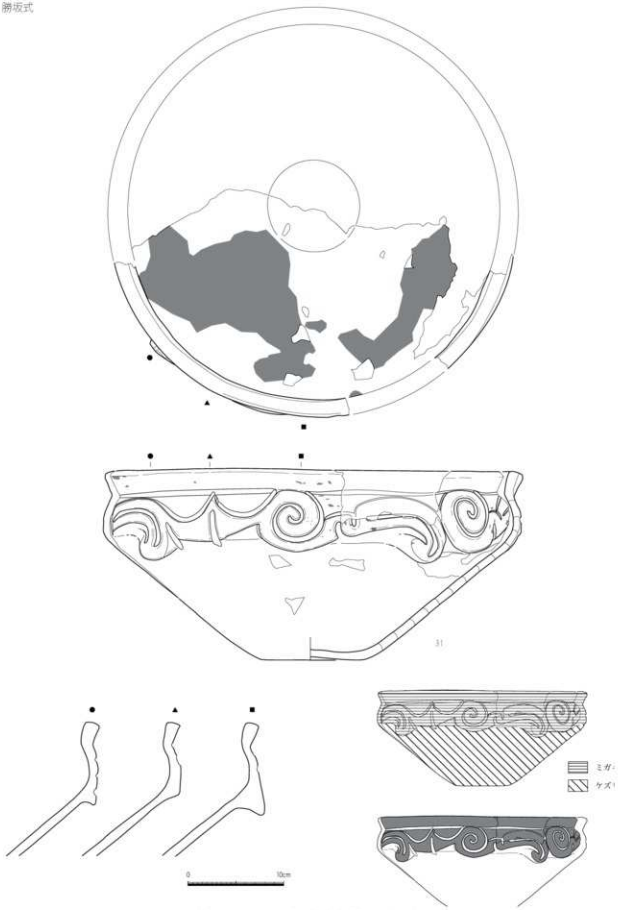
勝坂式



第９図　8Ｊ号住居跡出土遺物２（1/3）

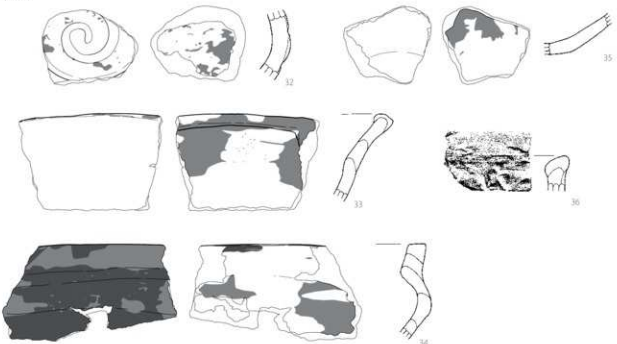
ある。17 は沈線で方形区画をし、沈線に沿って方形の連続刺突を施す。区画内部には沈線によって鋸歯状の文様が浮き出るように描かれる。18 は方形を斜方向に区画する。上部の沈線区画内には円形の連続刺突が斜方向に施され、下部の方形の連続刺突を伴う隆帯区画内には中央に三叉文が描かれ、その周りを方形の連続刺突が施される。19 は沈線で三角形のモチーフを描く。内側の三角形には方形の連続刺突が施される。下部には円形押引文が認められる。20 は横位に方形の連続刺突を伴う隆帯を巡らし、その下に沈線区画を施す。区画内には連続刺突が施される。21 は隆帯が横位に巡り、隆帯に沿って押引と横位の爪形刺突が施される。その下部には無節縄文Ｌが横方向に施文される。22 は方形の連続刺突で横位に区画され、区画下部には縦方向の沈線が施される。23 は押引と平行沈線を縦位に施した後、沈線間に方形の連続刺突を入れる。24 は縦位の平行沈線を施した下部に、横位の波状隆帯を巡らす。25 は波状に膨らむ隆帯を横位に巡らせ、爪形連続刺突の下部に波状沈線文を施す。26 は口縁部無文帯の下部を押引で区画する。胴部には弧状の沈線が認められる。27a・b・c は口縁部無文帯の下部に、方形に引かれた沈線が認められる。28a・b・c・d は口縁部無文帯を持ち、横方向の沈線で胴部と区切られる。胴部には横方向の縄文Ｒを施す。29 は斜方向に縄文 RL を施す。底部は一部上げ底状

勝坂式

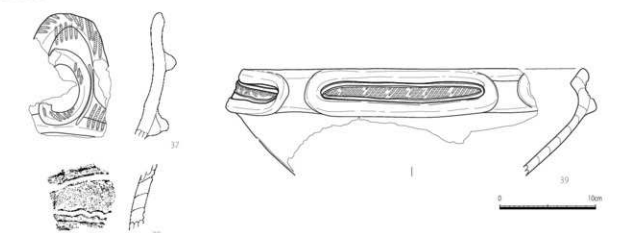


第 10 図　8J 号住居跡出土遺物３（1/4）

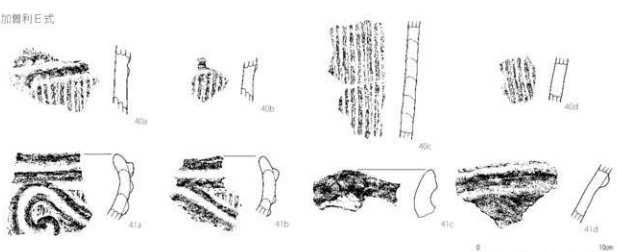
勝坂式



阿玉台式



加曽利Ｅ式



第 11 図　8Ｊ号住居跡出土遺物４（1/4・1/3）

を呈している。30は縦方向に縄文RLが施される。31～36･39は浅鉢である。31は1/2程度を残す。口縁部無文帯を横位の沈線で区画し、渦巻きをモチーフにした横位文様帯が展開される。内面に赤彩あり。32は隆帯を渦巻状に描き、それに沿って沈線を施す。内外面に赤彩が認められる。33は口縁に沿って隆帯が貼り付けられている。内外面に赤彩有り。34は口縁部が直立して頸部が張り出す器形である。内外面に赤彩、外面に黒彩が認められる。35は浅鉢の底部と考えられる。内面に赤彩が認められる。36は隆帯が口縁から下部へと斜方向に施される。

37は波状口縁の波状部である。中央には円を描くように隆帯が貼り付けられ、その下部には隆帯が横位に巡る。地文は縄文RLで、中央の隆帯上にも縄文が施される。38は沈線が弧状と横方向に施される。39は口縁部に隆帯で楕円区画される。区画内には隆帯に沿った押引と縦方向の縄文RLが施される。

以上、1は狢沢式土器、2～3は狢沢式土器または阿玉台式土器、4は新道式土器、5は藤内式土器または井戸尻式土器、6～7は井戸尻式土器、8は藤内式土器または井戸尻式土器、9～36は勝坂式土器、37～39は阿玉台式土器と思われる。

40～50は中期後葉の土器である。40a・b・c・dは頸部に横位の楕円区画が施され、区画内に撚糸文lが充填される。頸部と胴部は沈線と隆帯で区画され、胴部には撚糸文lが縦方向に施される。41a･b･c・dは波状の把手を持つキャリパー形土器で、口縁部にS字状文を施し、頸部に無文帯を持つ。地文は撚糸文L。42は地文に縦方向の撚糸文Lを施した後、太めの隆帯で渦巻きの末端状に区画し、隆帯の上から沈線を施す。43は口縁部直下に弧状の隆帯が貼り付けられ、同心円状に沈線が3本描かれる。その隣には横位の沈線が数条施される。44は沈線が波状に施される。45は横位の隆帯を巡らせ、下部に方形区画を施す。46a・bは撚糸文lが縦方向に施される。47は隆帯を縦位に貼り付けた後、縦方向に縄文RLを施す。48は縦方向に撚糸文Lを施した後、隆帯を縦位に貼り付ける。49は縦方向に縄文RLを施し、横位に沈線を巡らす。50は地文縄文RLを施し、その後縦位に沈線を3本垂下させる。

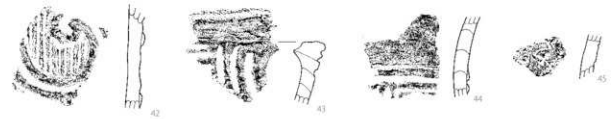
以上、40～50は加曽利E式土器と思われる。

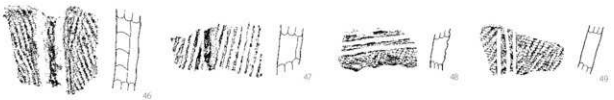
51～52は前期中葉の土器である。51は地文縄文RLを施文した後、粘土紐を弧状に貼り付け、それに沿って爪形の連続刺突が施された沈線を描く。52は口縁端部に爪形の連続刺突が施される。口縁部直下に横位の平行沈線が3本施され、その間にはは半円形の連続刺突を伴う隆帯、半円形の交互刺突が施される。地文は縄文L。

以上、51～52は諸磯式土器と思われる。

53～61は前期末葉の土器である。53は横位の結節浮線文を数条巡らせた後、その上部に細い浮線文を斜めの格子状に施す。54は地文縄文RLを縦方向に施した後、結節浮線文を2本弧状に描き、その間に細い浮線文を横位に数条施す。55は幅の狭い口縁部無文帯の下に、横方向と斜方向に結節浮線文が施される。56は結節浮線文が渦巻状に施される。57は地文縄文RLを横方向に施した後、結節浮線文を縦方向に施す。58は地文縄文RLを横方向に施した後、結節浮線文を縦方向に施す。59は地文縄文RLを横方向に施した後、結節浮線文を縦方向に施す。60は縦方向に深い平行沈線を施した後、横方向に浅い平行沈線を細かく施文している。61は口縁部の上から粘土が貼り付けられ、鋸歯状の彫り込みが施されている。地文は縄文RL。以上、53～61は十三菩提式土器と思われる。

加曽利E式

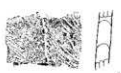




諸磯式

十三菩提式

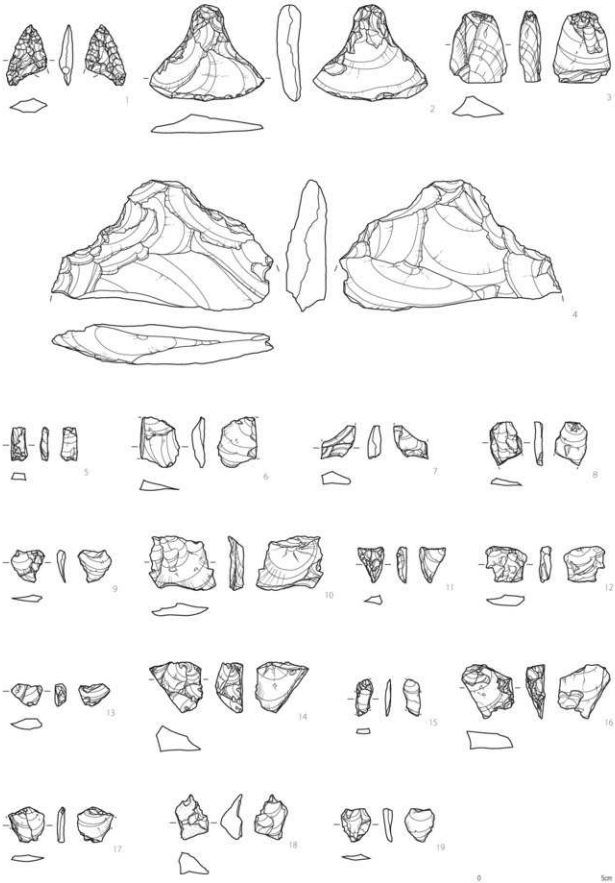
五領ヶ台式



土製品

曽利式

第12図　8J号住居跡出土遺物5（1/3）



第 13 図　8J 号住居跡出土石器１（2/3）

62 ～ 66 は中期初頭の土器である。62 は刻み目を持つ口縁の下に平行沈線が数条巡る。平行沈線間には、斜方向の平行沈線と、その末端に直交するような形で刺突が施される。63 は刻み目を持つ口縁の下部に横位の沈線が数条施され、同心円状の沈線が描かれる。その下にも横位の沈線が数条と、結節浮線文が施される。64 は頸部の屈曲部分に半截竹管による横位の平行沈線が巡り、一部に貼り付けが認められる。その上部には斜方向に、下部には鋸歯状に平行沈線が施される。65 は縦位に U 字状の沈線が描かれる。半円形の縦位刺突の脇に刺突が認められる。66 は結節縄文 L が縦位に施される。

以上、62 ～ 66 は五領ヶ台式土器と思われる。

67 ～ 68 は中期紅葉の土器である。67 は頸部の屈曲部に、粘土紐が鋸歯状に貼り付けられる。68a・b は２本の沈線（平行沈線か？）で縦位区画をし、区画内に横位の沈線を数条施す。

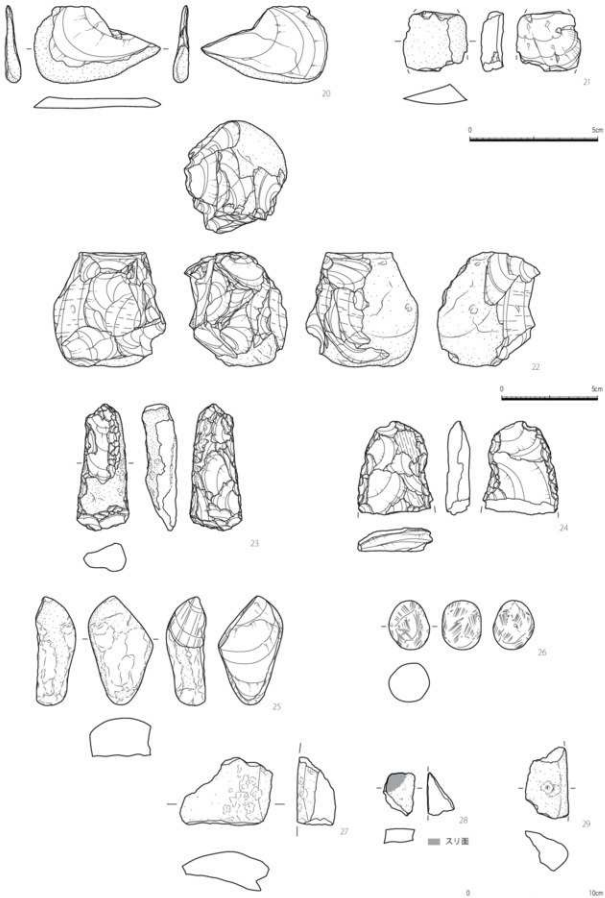
以上、67 ～ 68 は曽利式土器と思われる。

土製品（第 12 図 69）

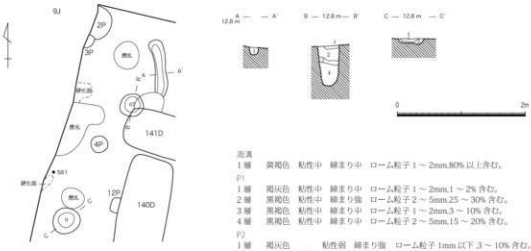
土錘である。長さ 3.5cm、幅 4.9cm、厚さ 1.2cm、重量 27.0g を測る。色調は暗茶褐色で、０段多条の縄文 RL を施す。土器型式は勝坂式である。

石　器（第 13・14 図、第７表）

１はチャート製の石鏃である。凹基鏃であり、右脚部は節理で欠損している。表裏に素材面が残置している。２は横型石匙ある。粗悪なチャート製の剥片を素材としているが、つまみ部は比較的丁寧に調整を施している。３は黒曜石製の楔形石器であり、下部を欠損している。上部には階段状剥離痕が見受けられる。４はホルンフェルス製の二次加工のある剥片であり、下部を欠損している。両側縁に調整を施しており、つまみ部と思われる形状を作出している。打面は残置していない。５は黒曜石製の両極剥片である。表面には原礫面が残置している。６～ 22 は剥片である。６は左側縁を欠損している。表面の剥離方向から 90° 打面転移が窺える。７は上部を欠損している。表面に原礫面が残置している。８は下部を欠損している。打面は単剥離面である。９は表面の剥離面から調整剥片と思われる。10 は下部を欠損している。打面は単剥離面である。11 は表面の剥離面から調整剥片と思われる。12 は左側縁を欠損している。15 は上下部を欠損している。透明度の高い黒曜石である。14 は不定形剥片であり、打面は複剥離面である。15 は左右両側縁を欠損している。16 は右側縁を欠損している。打面は単剥離面である。17 の左側縁は事故剥離と思われる。18 は表面に広く原礫面が残置している。19 の打面は原礫面である。20 は上部から右側縁を欠損している。表面には原礫面が残置している。21 は上下部を欠損している。表面は原礫面である。20 はホルンフェルス製、その他は黒曜石製である。22 は頁岩製の石核である。広く原礫面が残置している。節理の多い粗悪な頁岩であり、数枚剥離した後、破棄されたと思われる。23は片岩製の打製石斧である。表面から右側縁にかけて原礫面が残置している。両側縁につぶれが認められることから、台石を用いた垂直両極打撃により作出されている。24 はホルンフェルス製の打製石斧であり、刃部を欠損している。25 は砂岩製の敲石であり、裏面を欠損している。上下面の頂点、表左右面に広く敲打痕が認められる。26 はチャート製の磨石である。小形の原石を選んでいると思われる。27・28・29 は閃緑岩製の磨石の破片である。使用による磨滅面が認められる。接合は認められなかったが、同一母岩の可能性がある。

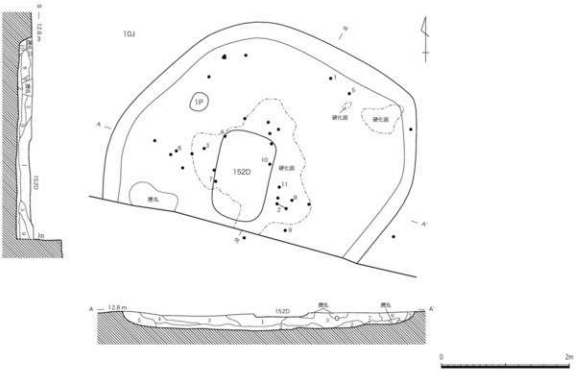


第 14 図　8J 号住居跡出土石器２（1/3・1/2・2/3）



溝
1層　黄褐色　粘性中　締まり中　ローム粒子1～2mm,80%以上含む。
P1
1層　褐灰色　粘性中　締まり中　ローム粒子1～2mm,1～2%含む。
2層　黒褐色　粘性中　締まり強　ローム粒子2～5mm,25～30%含む。
3層　黒褐色　粘性中　締まり中　ローム粒子1～2mm,3～10%含む。
4層　黒褐色　粘性中　締まり中　ローム粒子2～5mm,15～20%含む。
P2
1層　褐灰色　粘性弱　締まり強　ローム粒子1mm以下,3～10%含む。
2層　にぶい黄褐色　粘性中　締まり弱　ローム粒ブロック10mm以上,25～30%含む。

第15図　9J号住居跡（1/60）



1層　暗褐色　粘性中　締まり中　ローム粒子1mm以下,1～2%、焼土1mm以下,1～2%含む。
2層　黒褐色　粘性中　締まり中　ローム粒子1mm以下,1～2%含む。
3層　灰黄褐色　粘性中　締まり強　ローム粒子1mm以下,1～2%含む。
4層　黒褐色　粘性中　締まり強　ローム粒子1mm以下,1～2%含む。
5層　黒褐色　粘性強　締まり弱　ローム粒子1～2mm,1～2%、焼土1mm以下,1～2%含む。
6層　灰黄褐色　粘性中　締まり弱　ロームブロック10mm以上,15～20%含む。
7層　黒褐色　粘性弱　締まり強　ローム粒子1mm以下,1～2%含む。
8層　暗褐色　粘性中　締まり弱　ローム粒子1mm以下,1～2%含む。
9層　暗褐色　粘性中　締まり中　ローム粒子1mm以下,1～2%含む。
10層　灰黄褐色　粘性中　締まり弱　ローム粒子1mm以下,1～2%含む。

第16図　10J号住居跡（1/60）

9J 号住居跡

遺　構（第 15 図）

［住居構造］周溝・柱穴のみの検出。住居の西側は調査区外である。（平面形）不明（壁溝）15.9 ～ 22.4 × 8.3 ～ 12.2cm、深さ 7.3 ～ 13.7cm を測る。（床面）住居西側に硬化した部分が確認できた。（柱穴）２本検出された。深さ２、67cm を測る。（覆土）周溝は１層、ピットは２～４層に分層される。

［遺物］なし。

［時期］縄文時代。

10J 号住居跡（第 16 図）

遺　構（第 16 図）

［住居構造］152D、1P に切られる。住居の南側は調査区外である。（平面形）不整円形。（壁高）30.7cm を測る。（床面）住居中央部と東側に硬化した部分が確認できた。（柱穴）なし。（覆土）10 層に分層される。

［遺物］条痕文系の土器、楔形石器、削器、剥片、礫が出土した。

［時期］早期末葉（条痕文期）。

遺　物（第 17・18 図）

土　器（第 17 図）

１～ 11 は早期後半の土器である。１は内外面に貝殻で縦方向の器面調整をしている。部分的に斜方向にも調整痕が入る。２は外面に貝殻で縦方向の器面調整をしている。内面は斜方向に調整痕が入る。３は外面に貝殻で縦方向の器面調整をしている。内面は斜方向に調整痕が入る。４は外面に貝殻で縦方向の器面調整をし、斜方向に沈線を施す。内面は斜方向に調整痕が入る。５は内外面に貝殻で器面調整をしている。６は外面に貝殻で縦方向の器面調整をしている。７は外面に貝殻で縦方向の器面調整をしている。８は外面に貝殻で器面調整をしたのち、刷毛状工具で器面調整している。９は内外面に幅 8mm 程の浅い刷毛状痕が認められる。10 は内外面に幅 8mm 程の浅い刷毛状痕が認められる。11 は無文である。

以上、１～ 11 は条痕文系土器と思われる。

石　器（第 18 図）

１はチャート製の楔形石器である。上下および左右の２方向に両極剥離痕が認められる。２は黒曜石製の剥片であり、左側縁を欠損している。３はホルンフェルス製の剥片であり、上部を欠損している。底面に原礫面が残置している。４はホルンフェルス製の削器であり、風化が顕著である。

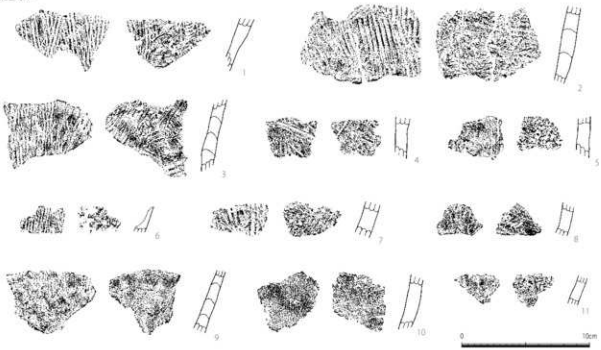
（3）炉　穴

1 号炉穴

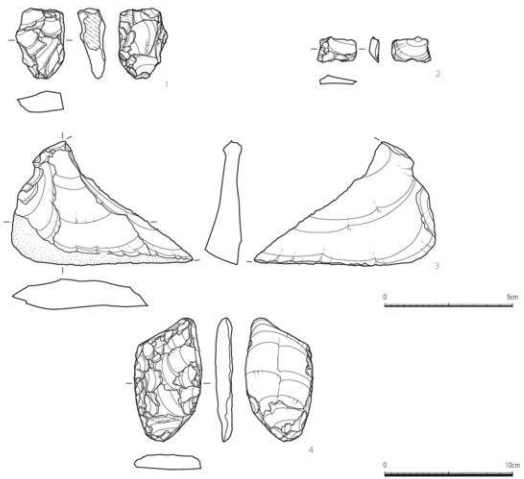
遺　構（第 19 図）

［構造］８号住居跡と切り合う。（平面形）楕円形。（規模）162×79.5cm。（深さ）23.4cm。（覆土）

条痕文系



第17図　10J号住居跡出土遺物（1/3）



第18図　10J号住居跡出土石器（1/3・2/3）

５層に分層される。

［遺物］礫が出土した。

［時期］縄文時代。

（４）集　石

４号集石

遺　構（第 20 図）

［構造］南側が攪乱で壊されている。（平面形）不明。（規模）94.5cm ×不明、深さ 21.1cm の土坑を伴う。（覆土）３層に分層される。（礫の状態）500 個程の礫が出土した。

［時期］縄文時代。

（５）土　坑

155 号土坑

遺　構（第 21 図）

［構造］平面形は円形、規模は 93.9 × 88.2cm、深さ 26.8cm を測る。（覆土）５層に分層される。

［遺物］縄文土器、打製石斧、礫が出土した。

［時期］縄文時代。

遺　物（第 22 図）

１は砂岩製の打製石斧であり、刃部を欠損している。裏面には敲打痕が観察される。表裏面には原礫面が広く残置している。

156 号土坑

遺　構（第 21 図）

［構造］平面形はいびつな楕円形、深さ 8.2cm を測る。（覆土）２層に分層される。

［時期］縄文時代。

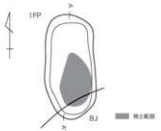
157 号土坑

遺　構（第 21 図）

［構造］平面形は楕円形、規模は 105.6 × 65.1cm、深さ 16.8cm を測る。（覆土）２層に分層される。

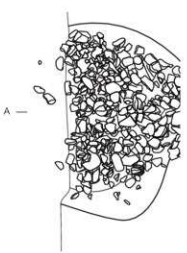
［遺物］縄文土器、剥片、礫が出土した。

［時期］縄文時代。



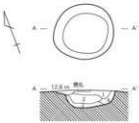
1 層　にぶい黄褐色　粘性中　締まり中
ローム粒子 1mm 以下.1 ～ 2%、焼土 1mm 以下.3 ～ 10% 含む。
2 層　暗褐色　粘性中　締まり中
ローム粒子 1 ～ 2mm.3 ～ 10%、焼土 1 ～ 2mm.15 ～ 20% 含む。
3 層　褐色　粘性中　締まり中
ロームブロック 10mm 以上.15 ～ 20%、焼土 5 ～ 10mm.3 ～ 10% 含む。
4 層　にぶい黄褐色　粘性中　締まり中
ローム粒子 1mm 以下.40% 以上、焼土 1 ～ 2mm.1 ～ 2% 含む。
5 層　赤褐色　粘性中　締まり強
ローム粒子 2 ～ 5mm.3 ～ 10%、焼土 5 ～ 10mm.40% 以上含む。

第 19 図　１号炉穴（1/30）



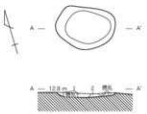
1 層　黒褐色　粘性中　締まり中　ローム粒子 1mm 以下.1 ～ 2% 含む。
2 層　黒褐色　粘性弱　締まり強　ローム粒子 2 ～ 5mm.15 ～ 20% 含む。
3 層　灰黄褐色　粘性弱　締まり強　ロームブロック 5 ～ 10mm.15 ～ 20% 含む。

第 20 図　４号集石（1/30）



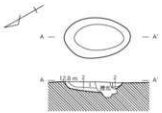
155号土坑

1層　にぶい黄褐色　粘性中　締まり強　ローム粒子1mm以下.15～20%含む。
2層　黒褐色　粘性中　締まり強　ローム粒子1mm以下.3～10%含む。
3層　褐色　粘性中　締まり強　ローム ブロック5～10mm.25～30%含む。
4層　灰黄褐色　粘性中　締まり強　ローム粒子2～5mm.15～20%含む。



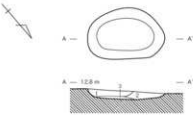
156号土坑

1層　暗褐色　粘性中　締まり強　ローム粒子1mm以下.1～2%、焼土1mm以下.1～2%含む。
2層　灰黄褐色　粘性中　締まり強　ローム粒子2～5mm.1～2%含む。



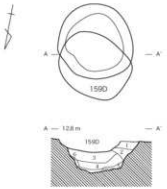
157号土坑

1層　にぶい黄褐色　粘性中　締まり弱　ローム粒子1mm以下.1～2%含む。
2層　褐色　粘性中　締まり弱　ローム粒子1mm以下.



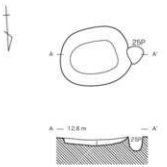
158号土坑

1層　褐灰色　粘性強　締まり強　ローム粒子2～5mm.3～10%含む。
2層　褐色　粘性中　締まり弱　ロームブロック5～10mm.15～20%含む。
3層　褐灰色　粘性中　締まり強　ローム粒子2～5mm.25～30%含む。



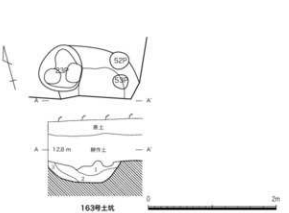
160号土坑

1層　褐色　粘性中　締まり強　ローム粒子1mm以下.1～2%含む。
2層　にぶい黄褐色　粘性中　締まり強　ローム粒子1～2mm.1～2%含む。
3層　灰黄褐色　粘性弱　締まり強　ローム粒子1～2mm.15～20%、焼土1mm以下.1～2%含む。
4層　黒褐色　粘性中　締まり中　ローム粒子1～2mm.3～10%、炭化物2～5mm.3～10%含む。
5層　暗褐色　粘性中　締まり中　ロームブロック5～10mm.15～20%含む。
6層　にぶい黄褐色　粘性中　締まり中　ロームブロック5～10mm.15～20%含む。
7層　灰黄褐色　粘性強　締まり中　ロームブロック5～10mm.25～30%、焼土1～2mm.1～2%含む。



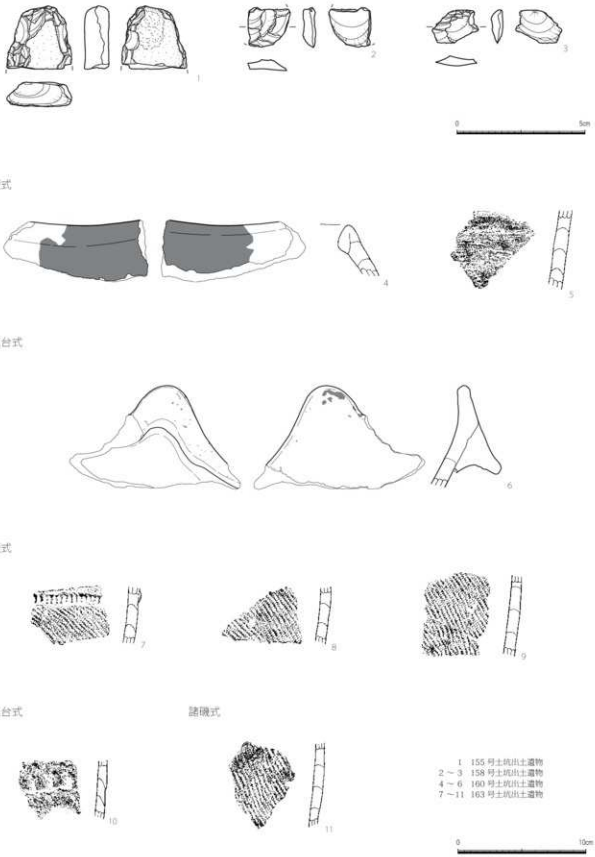
162号土坑

1層　褐灰色　粘性強　締まり中　ローム粒子1mm以下.3～10%含む。



163号土坑

第21図　土坑（1/60）



第 22 図　土坑出土遺物（1/3・2/3）

158 号土坑

遺　構（第 21 図）

［構造］平面形は楕円形、規模は 94.2 × 67.8cm、深さ 17cm を測る。（覆土）3 層に分層される。

［遺物］剥片が出土した。

［時期］縄文時代。

遺　物（第 22 図）

2・3 は砂岩製の剥片であり、同一母岩の可能性がある。1 は左側縁から上部を欠損している。

160 号土坑

遺　構（第 21 図）

［構造］159D と切り合う。（平面形）円形。（規模）121.2×116.5cm、深さ 50cm を測る。（覆土）7 層に分層される。

［遺物］縄文土器、土師器、礫が出土した。

［時期］縄文時代。

遺　物（第 22 図）

4 は口縁が内湾する浅鉢と考えられる。内外面ともに丁寧に磨かれ赤彩されている。勝坂式土器。5 は外面にケズリが認められる。勝坂式土器。6 は浅鉢の波状口縁部分。外面には口縁部に波状の突出が認められる。突出部上面と浅鉢内面が丁寧に磨かれ赤彩されている。阿玉台式土器。

162 号土坑

遺　構（第 21 図）

［構造］25P と切り合う。（平面形）隅丸方形。（規模）112.2×92.7cm、深さ 14.1cm を測る。（覆土）1 層。

［遺物］剥片が出土した。

［時期］縄文時代。

163 号土坑

遺　構（第 21 図）

［構造］23P･52P･53 P に切られる。（平面形）不明。（規模）不明 × 不明 cm、深さ 33.9cm を測る。

［遺物］縄文土器、礫が出土した。

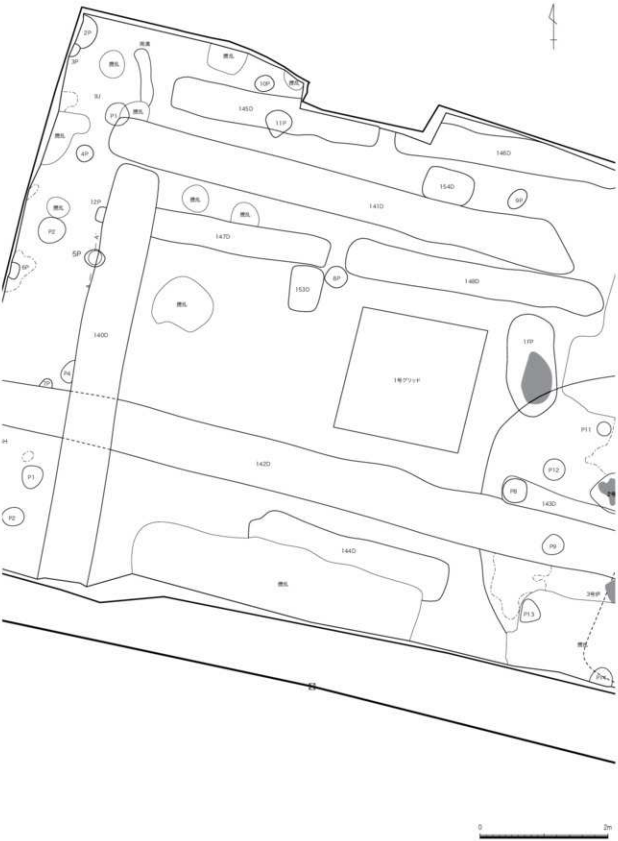
［時期］縄文時代。

遺　物（第 22 図）

7 は横位に隆帯を巡らせ刺突を加えた後、横方向に 0 段多条の縄文 RL を施文している。勝坂式土器。8 は横方向に 0 段多条の縄文 RL を施す。勝坂式土器。9 は横方向に 0 段多条の縄文 RL を施す。勝坂式土器。10 は輪積み痕上に押引文が施される。阿玉台式土器。11 は横方向に縄文 RL を施す。諸磯式土器。

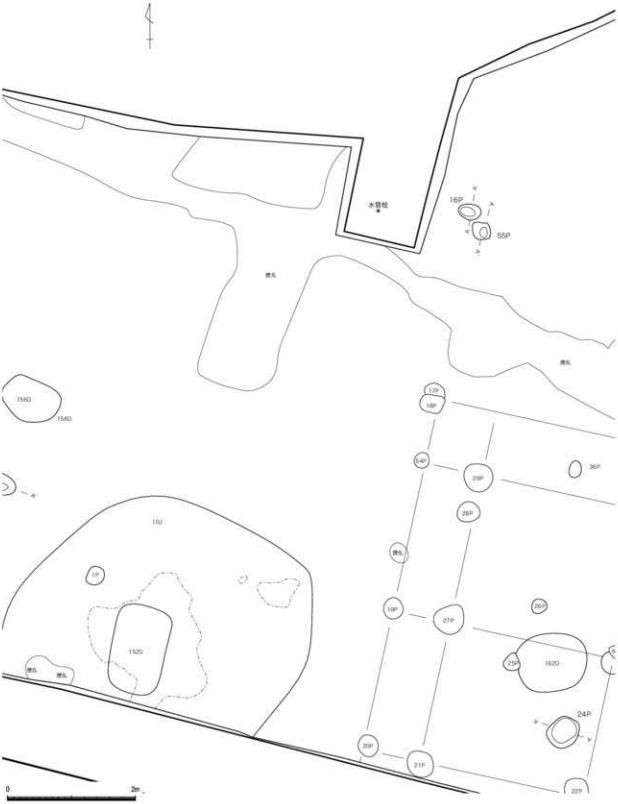
（6）ピット

遺　構（第 23 ～ 27 図、第 6 表）

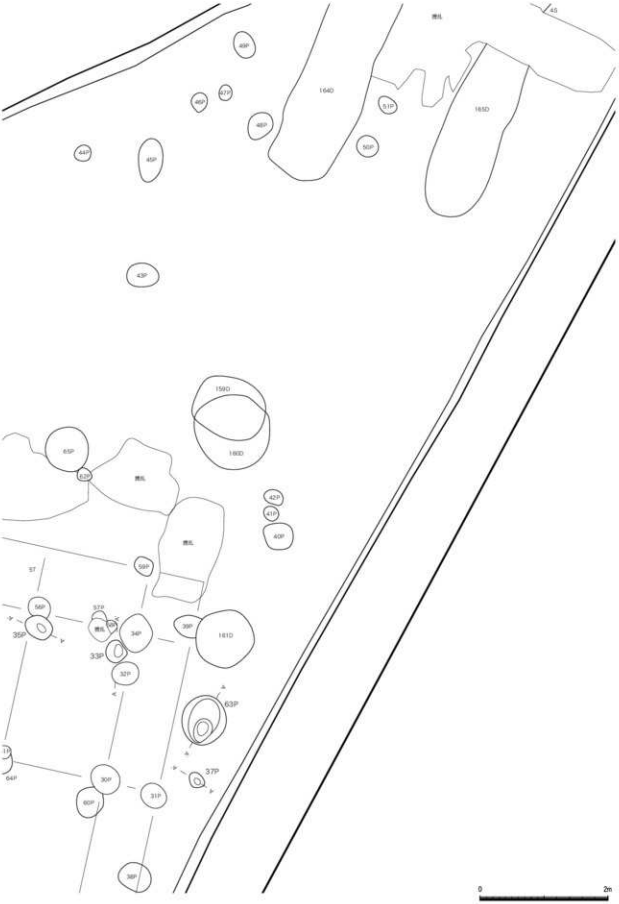


第 23 図　ピット平面図 1（1/60）

第24図　ピット平面図2（1/60）



第 25 図　ピット平面図３（1/60）



第 26 図　ピット平面図４（1/60）

5号ピット

1 層　灰黄褐色　粘性中　締まり中　ローム粒子 1 ～ 2mm,15 ～ 20%、炭化物 1 ～ 2mm,1 ～ 2% 含む。
2 層　黒褐色　粘性強　締まり弱　ローム粒子 1 ～ 2mm,25 ～ 30% 含む。
3 層　にぶい黄褐色　粘性中　締まり弱　ロームブロック 10mm 以上 ,3 ～ 10% 含む。
4 層　褐色　粘性強　締まり弱　ローム粒子 1 ～ 2mm,25 ～ 30% 含む。

13号ピット

14号ピット

16号ピット

1 層　褐灰色　粘性中　締まり弱　ローム粒子 2 ～ 5mm,15 ～ 20% 含む。
2 層　褐灰色　粘性強　締まり弱　ローム粒子 1 ～ 2mm,1 ～ 2% 含む。

24号ピット

1 層　褐色　粘性中　締まり強　ロームブロック 10mm 以上 ,25 ～ 30% 含む。

33号ピット

1 層　灰黄褐色　粘性弱　締まり強　ローム粒子 1mm 以下 ,1 ～ 2% 含む。
2 層　黒褐色　粘性弱　締まり中　ローム粒子 1mm 以下 ,1 ～ 2% 含む。

35号ピット

1 層　灰黄褐色　粘性中　締まり中　ローム粒子 1 ～ 2mm,1 ～ 2% 含む。
2 層　にぶい黄褐色　粘性中　締まり強　ローム粒子 2 ～ 5mm,15 ～ 20% 含む。
3 層　暗褐色　粘性中　締まり中　ロームブロック 10mm 以上 ,25 ～ 30% 含む。

37号ピット

1 層　暗褐色　粘性強　締まり中　ローム粒子 1mm 以下 ,15 ～ 20%、焼土 1 ～ 2mm, 1 ～ 2% 含む。

55号ピット

1 層　黒褐色　粘性強　締まり中　ローム粒子 2 ～ 5mm,3 ～ 10% 含む。
2 層　にぶい黄褐色　粘性強　締まり強　ロームブロック 10mm 以上 ,25 ～ 30% 含む。

63号ピット

1 層　にぶい黄褐色　粘性中　締まり中　ローム粒子 1 ～ 2mm,1 ～ 2% 含む。
2 層　灰黄褐色　粘性中　締まり弱　ローム粒子 1mm 以下 ,15 ～ 20% 含む。
3 層　暗褐色　粘性中　締まり強　ローム粒子 2 ～ 5mm,15 ～ 20% 含む。
4 層　褐色　粘性中　締まり強　ローム粒子 1mm 以下 ,1 ～ 2% 含む。
5 層　にぶい黄褐色　粘性中　締まり強　ローム粒子 1 ～ 2mm,1 ～ 2% 含む。
6 層　にぶい黄褐色　粘性中　締まり中　ローム粒子 2 ～ 5mm,3 ～ 10% 含む。

0　2m

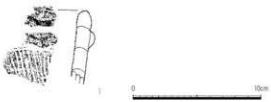
第 27 図　ピット断面図（1/60）

神図番号	遺構名	構造	平面形	規模（cm）			覆土	遺物	時期	遺物
				長軸	短軸	深さ				
第 23・27 図	5P	140D と切り合う。	不整形。	32.7	27.3	56.7	4 層に分層される。		縄文時代	
第 24・27 図	13P		不整形。	42.5	38.6	14.9		縄文土器が出土。	縄文時代	1は幅の狭いC縁部無文帯の下部に隆帯区画が施される。区画下部には縦方向に撚糸文1が施文される。加曽利E式土器。
第 24・27 図	14P		不整形。	50	35.4	14.7		縄文土器が出土。	縄文時代	
第 25・27 図	16P		楕円形。	36.4	25.3	18.3	2 層に分層される。		縄文時代	
第 25・27 図	24P		不整形。	53	45.5	12.6	1 層。	土師器が出土。	縄文時代	
第 26・27 図	33P		不整形。	36	34	14.1	2 層に分層される。		縄文時代	
第 26・27 図	35P	56P を切る。	不整形。	44.3	34.9	27.5	3 層に分層される。		縄文時代	
第 26・27 図	37P		不整形。	26	21.4	9.9	1 層。		縄文時代	
第 25・27 図	55P		不整形。	34.5	29.4	13.5	2 層に分層される。		縄文時代	
第 26・27 図	63P		楕円形。	79.7	70.7	53	6 層に分層される。		縄文時代	

第６表　縄文時代のピット一覧

遺　物（第 28 図、第６表）

加曽利Ｅ式



第 28 図　13 号ピット出土遺物（1/3）

挿図番号	遺構名	器種	石材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)
第 13 図 1	8J	石鏃	チャート	23.66	16.36	5.57	1.5
第 13 図 2	8J	石匙	チャート	38.23	45.22	9.79	12.0
第 13 図 3	8J	楔形石器	黒曜石	28.54	22.60	8.70	4.5
第 13 図 4	8J	R.F	ホルンフェルス？	52.12	86.51	15.74	61.7
第 13 図 5	8J	両極剥片	黒曜石	13.72	6.72	3.41	0.3
第 13 図 6	8J	剥片	黒曜石	19.08	15.64	4.91	0.8
第 13 図 7	8J	剥片	黒曜石	12.19	14.93	5.34	0.5
第 13 図 8	8J	剥片	黒曜石	17.31	12.85	3.50	0.5
第 13 図 9	8J	剥片	黒曜石	13.42	13.34	3.29	0.4
第 13 図 10	8J	剥片	黒曜石	21.01	26.52	7.63	2.9
第 13 図 11	8J	剥片	黒曜石	15.10	12.80	4.10	0.4
第 13 図 12	8J	剥片	黒曜石	14.69	17.55	4.75	0.9
第 13 図 13	8J	剥片	黒曜石	8.51	12.19	4.45	0.4
第 13 図 14	8J	剥片	黒曜石	20.00	21.19	10.60	3.2
第 13 図 15	8J	剥片	黒曜石	15.29	6.56	2.03	0.2
第 13 図 16	8J	剥片	黒曜石	22.14	21.44	7.83	2.9
第 13 図 17	8J	剥片	黒曜石	13.95	14.38	2.98	0.4
第 13 図 18	8J	剥片	黒曜石	17.31	12.66	8.97	1.1
第 13 図 19	8J	剥片	黒曜石	13.70	11.91	3.54	0.3
第 14 図 20	8J	剥片	ホルンフェルス	30.88	50.12	6.31	8.4
第 14 図 21	8J	剥片	黒曜石	24.05	25.83	9.01	5.3
第 14 図 22	8J	石核	頁岩	63.44	55.95	62.43	239.2
第 14 図 23	8J	打製石斧	片岩	100.88	42.03	24.57	122.0
第 14 図 24	8J	打製石斧	ホルンフェルス	74.01	59.60	19.68	100.4
第 14 図 25	8J	敲石	砂岩	87.29	52.63	32.13	165.5
第 14 図 26	8J	磨石	チャート	39.73	32.35	30.96	57.5
第 14 図 27	8J	磨石	閃緑岩	54.59	72.60	34.86	111.7
第 14 図 28	8J	磨石	閃緑岩	35.12	24.85	22.62	15.3
第 14 図 29	8J	磨石	閃緑岩	59.05	36.17	18.19	40.9
第 18 図 1	10J	削器	チャート	28.40	20.14	10.59	5.6
第 18 図 2	10J	剥片	黒曜石	10.79	15.63	3.90	0.4
第 18 図 3	10J	剥片	ホルンフェルス	45.46	74.05	16.06	41.2
第 18 図 4	10J	削器	ホルンフェルス	98.20	53.60	11.78	91.3
第 22 図 1	155D	打製石斧	砂岩	51.33	52.09	19.37	72.6
第 22 図 2	158D	剥片	砂岩	17.09	16.80	5.04	1.5
第 22 図 3	158D	剥片	砂岩	13.07	18.24	4.68	0.9

第７表　縄文時代遺構出土の石器一覧

第２節　古墳時代

（1）概　要

古墳時代の遺構については、弥生時代末葉～古墳時代前期と思われる方形周溝墓１基が検出された。本遺跡では、初めての検出例となった。形状は、調査区断面で確認された土層から判断した。

（2）方形周溝墓

１号方形周溝墓

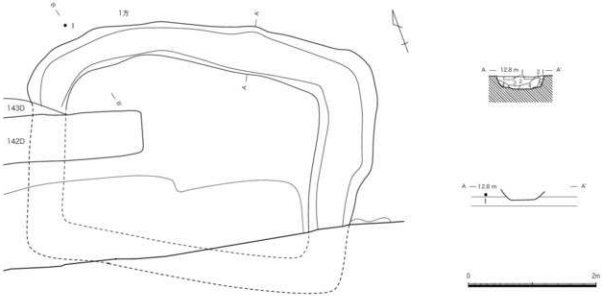
遺　構（第 29 図）

［周溝の構造］南側は調査区外に広がる。（平面形）長方形と考えられる。（規模）検出規模は、東西約 5.6m、南北約 3.8 m を測る。（溝）南東は上幅 93.1cm、下幅 64cm、深さ 24.6cm、北東コーナーは上幅 97cm、下幅 57.3cm、深さ 39cm、北は上幅 76.8cm、下幅 63.7cm、深さ 23cm、北西コーナーは上幅 65.9cm、下幅 48.1cm、深さ 11.6cm を測る。（断面形）底部はやや狭い隅丸台形を呈する。

［覆土］５層に分層される。

［遺物］覆土から、土師器、須恵器が出土した。また、接合関係のある８J 住居跡から古墳時代初頭の鉢もしくは埦が検出されており、本遺構に伴ったものと思われる。

［時期］弥生時代末葉～古墳時代前期



１層　褐灰色　粘性中　締まり中　ローム粒子 1mm 以下.3 ～ 10%、焼土 1mm 以下.1 ～ 2% 含む。
２層　黒褐色　粘性中　締まり中　ローム粒子 1mm 以下.1 ～ 2%、焼土 1mm 以下.1 ～ 2% 含む。
３層　黒色　粘性中　締まり弱　ローム粒子１～ 2mm.3 ～ 10% 含む。
４層　灰黄褐色　粘性中　締まり中　ローム粒子 1mm 以下.3 ～ 10% 含む。
５層　灰黄褐色　粘性中　締まり中　ローム粒子２～ 5mm.3 ～ 10% 含む。

第 29 図　１号方形周溝墓（1/60）

遺　物（第 30 図、第８表）

土師器の鉢と思われ、底部から腰部屈曲付近まで残存する。器面調整は内面に磨きが施される。器厚は薄く、小型製品である。底部径 6.2cm。

第 30 図　１号方形周溝墓出土遺物（1/3）

挿図番号	器種	器高	口径	底径	特徴	色調	胎土	調整	遺存度
第 30 図 1	土師器 鉢	(4.5)	-	6.2	底部は突出せず、胴部と同じ厚さ。	褐色	砂粒を多く含む	外面ナデののち胴部最大径付近磨き状の板ナデ。内面全面横磨き。	底部完存、胴下半部 1/4

第８表　１号方形周溝墓出土の土器一覧

第３節　奈良・平安時代

（1）概　要

奈良・平安時代の遺構については、住居跡１軒、掘立柱建築遺構１棟、土坑３基、ピット 17 基が検出された。24H 号住居跡は、住居跡の全容は不明であったが、柱穴と思われるピットから検出された土師器の小片から、当該期の住居跡と判断した。５号掘立柱建築遺構も、遺物は僅少であったが、その形状からも当該期である可能性が高い。

（2）住居跡

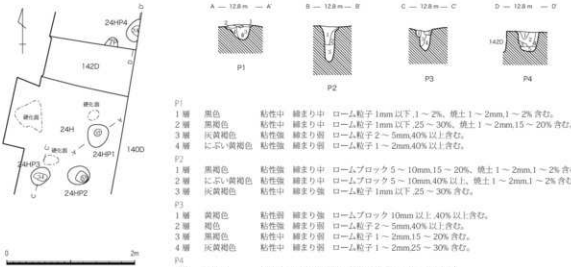
24H 号住居跡

遺　構（第 31 図）

［住居構造］140D・142D に切られる。柱穴と硬化面のみが検出された。（床面）南側に硬化した部分が確認できた。（柱穴）４本検出された。深さ 34 ～ 55cm を測る。（覆土）ピットは３～５層に分層される。

［遺物］P3 から土師器が出土した。

［時期］平安時代。



第 31 図　24H 号住居跡（1/60）

（３）掘立柱建築遺構

5 号掘立柱建築遺構

遺　構（第 32 図）

［住居構造］23 本の柱穴が該当すると考えられる。西側の柱穴間が 2 間・東側の柱穴間が 1 間を、南北の柱穴間が 1.25 ～ 1.33 間を測る。回廊の幅はほぼ 0.5 間に統一されている。調査区南西の隅に位置するが、南側の調査区外へ建物がつながっている可能性がある。

［時期］奈良・平安時代。

（４）土　坑

152 号土坑

遺　構（第 33 図）

［構造］10J を切る。（平面形）隅丸方形。（規模）140.5×87.8cm、深さ 6.5cm を測る。（覆土）1 層。

［遺物］剥片、縄文土器が出土した。

［時期］奈良・平安時代。

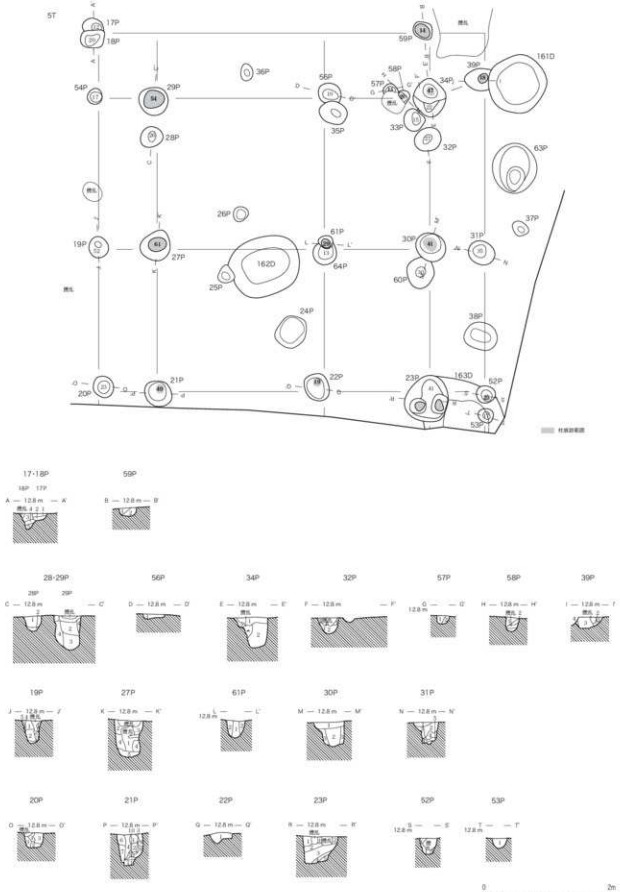
［所見］覆土から奈良・平安時代の遺構と判断した。

159 号土坑

遺　構（第 33 図）

［構造］160D と切り合う。（平面形）楕円形。（規模）115×96cm、深さ 24.2cm を測る。（覆土）2 層に分層される。

［遺物］土師器、陶器、縄文土器、礫が出土した。



第 32 図　5 号掘立柱建築遺構（1/60）

17・18P
1 層　褐灰色　粘性中　締まり中　ローム粒子２～5mm.1 ～ 2% 含む。
2 層　黒色　粘性強　締まり弱　ローム粒子１～2mm.3 ～ 10% 含む。
3 層　黒色　粘性中　締まり強　ローム粒子２～5mm.15 ～ 20% 含む。
4 層　黒色　粘性強　締まり弱　ローム粒子１～2mm.25 ～ 30% 含む。
5 層　黄褐色　粘性中　締まり中　ームブロック 10mm 以上.40% 以上含む。

19P
1 層　褐灰色　粘性中　締まり中　ローム粒子２～5mm.3 ～ 10% 含む。
2 層　黒褐色　粘性中　締まり弱　ローム粒子２～5mm.1 ～ 2% 含む。
3 層　黄褐色　粘性中　締まり弱　ームブロック 10mm 以上.40% 以上含む。
4 層　灰黄褐色　粘性中　締まり中　ローム粒子 1mm 以下.1 ～ 2% 含む。
5 層　褐色　粘性中　締まり強　ームブロック５～ 10mm.40% 以上含む。

20P
1 層　黒褐色　粘性中　締まり中　ローム粒子 1mm 以下.1 ～ 2% 含む。
2 層　黒褐色　粘性弱　締まり強　ローム粒子 1mm 以下.1 ～ 2% 含む。
3 層　褐色　粘性中　締まり強　ームブロック５～ 10mm.15 ～ 20% 含む。

21P
1 層　黒褐色　粘性強　締まり弱　ームブロック５～ 10mm.1 ～ 2% 含む。
2 層　暗褐色　粘性強　締まり弱　ローム粒子１～ 2mm.1 ～ 2% 含む。
3 層　褐褐色　粘性中　締まり中　ームブロック５～ 10mm.40% 以上含む。
4 層　黒褐色　粘性強　締まり弱　ローム粒子１～ 2mm.15 ～ 20% 含む。
5 層　黒褐色　粘性強　締まり弱　ローム粒子２～ 5mm.1 ～ 2% 含む。
6 層　黒褐色　粘性中　締まり中　ローム粒子 1mm 以下.1 ～ 2% 含む。
7 層　黒褐色　粘性中　締まり中　ローム粒子２～ 5mm.1 ～ 2% 含む。
8 層　褐色　粘性中　締まり中　ローム粒子 1mm 以下.1 ～ 2% 含む。
9 層　黒色　粘性中　締まり弱　ローム粒子１～ 2mm.3 ～ 10% 含む。
10 層　黄褐色　粘性中　締まり弱　ームブロック 10mm 以上.40% 以上含む。
11 層　黒褐色　粘性弱　締まり強　ローム粒子１～ 2mm.1 ～ 2% 含む。

22P
1 層　にぶい黄褐色　粘性中　締まり中　ローム粒子１～ 2mm.1 ～ 2%、焼土 1mm 以下.1 ～ 2% 含む。

23P
1 層　灰黄褐色　粘性中　締まり弱　ームブロック５～ 10mm.3 ～ 10% 含む。
2 層　黒褐色　粘性中　締まり中　ローム粒子１～ 2mm.1 ～ 2% 含む。
3 層　黒色　粘性中　締まり強　ローム粒子２～ 5mm.3 ～ 10% 含む。
4 層　灰黄褐色　粘性中　締まり強　ームブロック 10mm 以上.40% 以上含む。
5 層　黒色　粘性中　締まり中　ローム粒子１～ 2mm.15 ～ 20% 含む。

27P
1 層　黒褐色　粘性中　締まり弱　ローム粒子２～ 5mm.1 ～ 2% 含む。
2 層　褐色　粘性中　締まり中　ローム粒子２～ 5mm.25 ～ 30% 含む。
3 層　褐色　粘性中　締まり中　ローム粒子２～ 5mm.40% 以上含む。
4 層　褐灰色　粘性中　締まり弱　ームブロック５～ 10mm.3 ～ 10% 含む。
5 層　褐灰色　粘性中　締まり強　ローム粒子２～ 5mm.3 ～ 10% 含む。

28P
1 層　黒褐色　粘性弱　締まり強　ローム粒子１～ 2mm.1 ～ 2%、焼土 1mm 以下.1 ～ 2% 含む。
2 層　褐色　粘性中　締まり中　ローム粒子２～ 5mm.25 ～ 30% 含む。

29P
1 層　にぶい黄褐色　粘性中　締まり中　ームブロック 10mm 以上.40% 以上含む。
2 層　黒褐色　粘性中　締まり中　ームブロック 10mm 以上.15 ～ 20% 含む。
3 層　黒褐色　粘性中　締まり弱　ローム粒子２～ 5mm.3 ～ 10% 含む。
4 層　灰黄褐色　粘性中　締まり中　ームブロック 10mm 以上.15 ～ 20% 含む。

30P
1 層　灰黄褐色　粘性中　締まり中　ローム粒子１～ 2mm.15 ～ 20% 含む。
2 層　黒褐色　粘性中　締まり弱　ローム粒子２～ 5mm.3 ～ 10%、焼土２～ 5mm.1 ～ 2% 含む。
3 層　にぶい黄褐色　粘性中　締まり中　ローム粒子２～ 5mm.3 ～ 10%、焼土 1mm 以下.1 ～ 2% 含む。

31P
1 層　灰黄褐色　粘性弱　締まり中　ローム粒子２～ 5mm.1 ～ 2% 含む。
2 層　褐灰色　粘性弱　締まり強　ームブロック 10mm 以上.15 ～ 20% 含む。
3 層　黒褐色　粘性中　締まり弱　ームブロック 10mm 以上.25 ～ 30% 含む。
4 層　褐灰色　粘性強　締まり弱　ローム粒子１～ 2mm.1 ～ 2% 含む。
5 層　黒褐色　粘性強　締まり弱　ローム粒子１～ 2mm.3 ～ 10% 含む。

32P
1 層　灰黄褐色　粘性強　締まり弱　ローム粒子１～ 2mm.3 ～ 10% 含む。
2 層　黒褐色　粘性中　締まり中　ームブロック５～ 10mm.15 ～ 20% 含む。

34P
1 層　黒褐色　粘性中　締まり中　ームブロック５～ 10mm.15 ～ 20% 含む。
2 層　黒色　粘性中　締まり弱　ローム粒子１～ 2mm.3 ～ 10% 含む。

39P
1 層　灰黄褐色　粘性強　締まり弱　ローム粒子 1mm 以下.25 ～ 30% 含む。
2 層　にぶい黄褐色　粘性中　締まり強　ームブロック 10mm 以上.40% 以上含む。
3 層　黒褐色　粘性中　締まり強　ローム粒子２～ 5mm.15 ～ 20%、焼土２～ 5mm.1 ～ 2% 含む。

61P
1 層　黒褐色　粘性強　締まり強　ローム粒子２～ 5mm.3 ～ 10% 含む。
2 層　褐色　粘性強　締まり中　ームブロック 10mm 以上.15 ～ 20% 含む。

52P
1 層　黒褐色　粘性中　締まり中　ームブロック５～ 10mm.3 ～ 10% 含む。

53P
1 層　黒色　粘性中　締まり中　ローム粒子 1mm 以下.1 ～ 2% 含む。

56P
1 層　黒褐色　粘性中　締まり中　ローム粒子 1mm 以下.1 ～ 2%、焼土１～ 2mm.1 ～ 2% 含む。

57P
1 層　黒色　粘性強　締まり弱　ローム粒子１～ 2mm.1 ～ 2%、焼土１～ 2mm.1 ～ 2% 含む。
2 層　黒褐色　粘性弱　締まり強　ローム粒子２～ 5mm.15 ～ 20% 含む。

58P
1 層　黒色　粘性中　締まり弱　ローム粒子１～ 2mm.25 ～ 30%、焼土２～ 5mm.1 ～ 2% 含む。
2 層　黒色　粘性中　締まり中　ローム粒子１～ 2mm.3 ～ 10%、焼土１～ 2mm.1 ～ 2% 含む。

59P
1 層　黒褐色　粘性強　締まり弱　ローム粒子１～ 2mm.15 ～ 20% 含む。
2 層　灰黄褐色　粘性中　締まり中　ローム粒子１～ 2mm.1 ～ 2% 含む。

第９表　５号掘立柱建築遺構土層註記

［時期］奈良・平安時代。

161 号土坑

遺　構（第 33 図）

［構造］39P と切り合う。（平面形）円形。（規模）92.8×91.9cm、深さ 24.5cm を測る。（覆土）2 層に分層される。

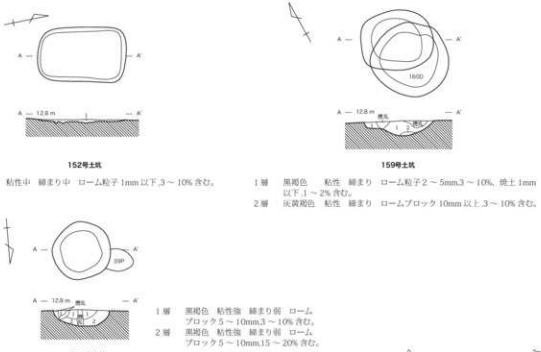
［時期］奈良・平安時代。

［所見］覆土から奈良・平安時代の遺構と判断した。

ピット名	柱穴（m）			覆土	遺物
	長軸	短軸	深さ		
17P	33.2	19.2	12	５層に分層される。	土器、礫が出土。
18P	36.8	27.6	20		土師器が出土。
59P	33.5	28.9	14	２層に分層される。	
54P	25.3	23.5	17	-	
28P	36	32.2	26	２層に分層される。	
29P	47.2	45.5	54	４層に分層される。	
56P	37	32	10	１層。	
32P	43.4	37.1	27	２層に分層される。	
34P	61.8	52	47	２層に分層される。	縄文土器が出土。
57P	25	-	11	２層に分層される。	
58P	19.7	-	20	２層に分層される。	
39P	38.1	35.4	18	３層に分層される。	
19P	34	31.4	52	５層に分層される。	土器、礫が出土。
27P	50.3	45.9	61	５層に分層される。	
61P	23.5	21.2	29	２層に分層される。	
30P	49.5	43.2	41	３層に分層される。	陶器、縄文土器、礫が出土。
31P	42.8	36.3	35	５層に分層される。	礫が出土。
20P	35.6	31.7	23	３層に分層される。	
21P	46.5	40.9	49	11 層に分層される。	土師器が出土。
22P	44.6	38.5	19	１層。	礫が出土。
23P	74.3	67.4	41	５層に分層される。	
52P	29.2	29.2	23	１層。	
53P	24.3	21.9	17	１層。	

柱穴間距離（m）	
17・18P-59P	4.9
17・18P-54P	0.66
59P-32・34・57・58P	0.61
54P-28・29P	0.58
28・29P-56P	2.41
56P-32・34・57・58P	0.95
32・34・57・58P-39P	0.36
54P-19P	2.11
28・29P-27P	1.34
56P-61P	1.8
34P-30P	1.3
39P-31P	2.4
19P-27P	0.5
27P-61P	2.28
61P-30P	1.28
30P-31P	0.37
19P-20P	1.88
27P-21P	1.91
61P-22P	1.76
30P-23P	1.46
31P-52・53P	1.91
20P-21P	0.5
21P-22P	2.14
22P-23P	1.24
23P-52・53P	0.46

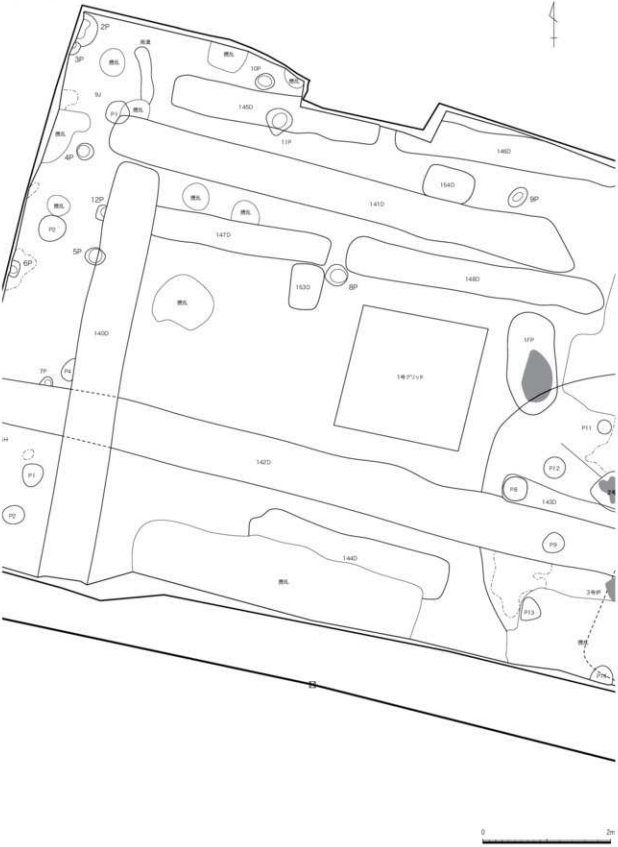
第 10 表　５号掘立柱建築遺構ピット一覧表



第 33 図　土坑（1/60）

（5）ピット

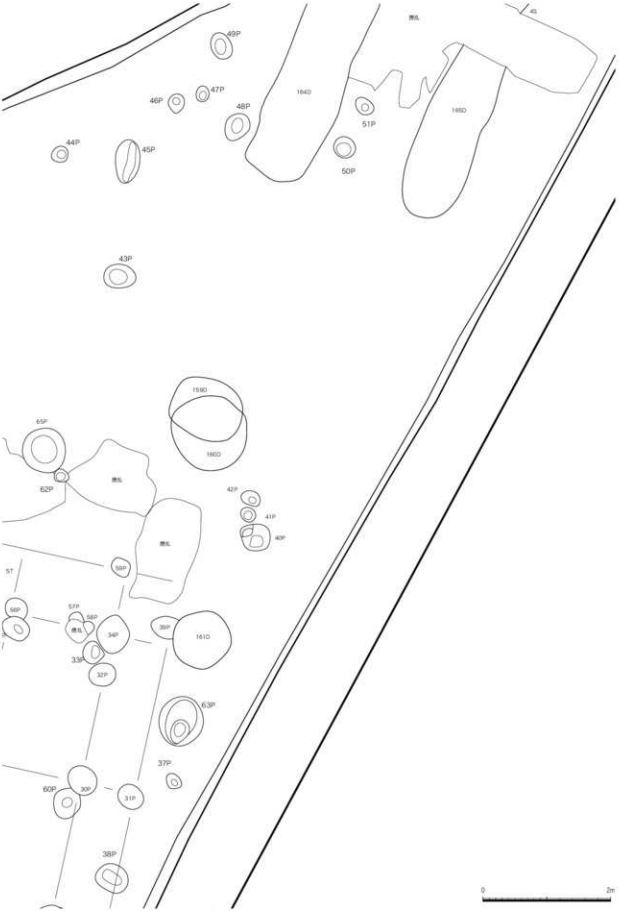
遺　構（第 34 ～ 38 図、第 11 表）



第 34 図　ピット平面図１（1/60）

第35図　ピット平面図２（1/60）

第 36 図　ピット平面図３（1/60）



第 37 図　ピット平面図４（1/60）

1号ピット

1 層　にぶい黄褐色　粘性中　締まり中　ローム粒子１～2mm,40% 以上、焼土 1mm 以下、1 ～ 2% 含む。
2 層　褐灰色　粘性中　締まり中　ローム粒子 1mm 以下 ,3 ～ 10% 含む。
3 層　灰黄褐色　粘性中　締まり中　ローム粒子 1mm 以下 ,1 ～ 2% 含む。
4 層　黒褐色　粘性中　締まり中　ローム ブロック 10mm 以上 ,3 ～ 10% 含む。
5 層　にぶい黄褐色　粘性中　締まり中　ローム粒子 1mm 以下 ,25 ～ 30% 含む。

38号ピット

1 層　灰黄褐色　粘性中　締まり中　ローム ブロック 10mm 以上 ,15 ～ 20% 含む。

42号ピット

1 層　黒褐色　粘性中　締まり中　ローム粒子 2 ～ 5mm,1 ～ 2%、焼土 1 ～ 2mm,1 ～ 2% 含む。
2 層　灰黄褐色　粘性中　締まり中　ローム粒子 2 ～ 5mm,1 ～ 2% 含む。

45号ピット

1 層　にぶい黄褐色　粘性弱　締まり強　ローム ブロック 5 ～ 10mm,25 ～ 30% 含む。
2 層　にぶい黄褐色　粘性中　締まり弱　ローム ブロック 10mm 以上 ,40% 以上含む。

48号ピット

1 層　黒色　粘性強　締まり中　ローム粒子 1 ～ 2mm,3 ～ 10% 含む。
2 層　灰黄褐色　粘性中　締まり中　ローム ブロック 5 ～ 10mm,15 ～ 20% 含む。
3 層　黒褐色　粘性中　締まり強　ローム粒子 1 ～ 2mm,15 ～ 20% 含む。

62号ピット

25号ピット

1 層　黒色　粘性中　締まり強　ローム粒子 1mm 以下 ,1 ～ 2%、焼土 1 ～ 2mm,1 ～ 2% 含む。
2 層　褐灰色　粘性中　締まり弱　ローム粒子 1 ～ 2mm,3 ～ 10% 含む。

40号ピット

1 層　にぶい黄褐色　粘性強　締まり弱　ローム粒子 2 ～ 5mm,15 ～ 20% 含む。
2 層　黒褐色　粘性中　締まり中　ローム粒子 1 ～ 2mm,3 ～ 10% 含む。
3 層　黒褐色　粘性中　締まり中　ローム粒子 1 ～ 2mm,25 ～ 30% 含む。
4 層　黄褐色　粘性中　締まり強　ローム ブロック 10mm 以上 ,40% 以上含む。
5 層　褐色　粘性中　締まり中　ローム ブロック 10mm 以上 ,15 ～ 20% 含む。

43号ピット

1 層　灰黄褐色　粘性中　締まり中　ローム粒子 1mm 以下 ,3 ～ 10%、焼土 1 ～ 2mm,1 ～ 2% 含む。

46号ピット

1 層　灰黄褐色　粘性強　締まり中　ローム粒子 2 ～ 5mm,3 ～ 10% 含む。

49号ピット

1 層　灰黄褐色　粘性強　締まり中　ローム粒子 2 ～ 5mm,3 ～ 10% 含む。
2 層　黒褐色　粘性中　締まり強　ローム ブロック 5 ～ 10mm,15 ～ 20% 含む。
3 層　にぶい黄褐色　粘性中　締まり強　ローム ブロック 5 ～ 10mm,25 ～ 30% 含む。

62号ピット

1 層　黒色　粘性中　締まり中　ローム粒子 1 ～ 2mm,1 ～ 2%、焼土 1 ～ 2mm,1 ～ 2% 含む。
2 層　褐色　粘性中　締まり弱　ローム ブロック 10mm 以上 ,25 ～ 30% 含む。
3 層　黒色　粘性中　締まり中　ローム ブロック 5 ～ 10mm,1 ～ 2%、焼土 2 ～ 5mm,1 ～ 2% 含む。

26号ピット

1 層　にぶい黄褐色　粘性中　締まり中　ローム粒子 2 ～ 5mm,3 ～ 10%、焼土 1mm 以下、1 ～ 2% 含む。

41号ピット

1 層　灰黄褐色　粘性中　締まり弱　ローム粒子 1 ～ 2mm,3 ～ 10%、焼土 2 ～ 5mm,1 ～ 2% 含む。

44号ピット

1 層　黒褐色　粘性強　締まり弱　ローム ブロック 5 ～ 10mm,15 ～ 20% 含む。
2 層　にぶい黄褐色　粘性強　締まり中　ローム ブロック 5 ～ 10mm,40% 以上含む。

47号ピット

1 層　黒褐色　粘性強　締まり中　ローム粒子 1mm 以下 ,3 ～ 10% 含む。
2 層　黄褐色　粘性強　締まり中　ローム ブロック 10mm 以上 ,40% 以上含む。

51号ピット

1 層　暗褐色　粘性中　締まり弱　ローム粒子 1mm 以下 ,25 ～ 30%、焼土 2 ～ 5mm,1 ～ 2% 含む。
2 層　にぶい黄褐色　粘性中　締まり中　ローム ブロック 5 ～ 10mm,25 ～ 30% 含む。
3 層　にぶい黄褐色　粘性中　締まり弱　ローム ブロック 10mm 以上 ,25 ～ 30% 含む。
4 層　黒色　粘性中　締まり中　ローム粒子 2 ～ 5mm,3 ～ 10% 含む。

第 38 図　ピット断面図（1/60）

挿図番号	遺構名	構造	平面形	規模（cm）			覆土	遺物	時期	所見
				長軸	短軸	深さ				
第 36・38 図	1P		不整形。	30.2	26.3	24.9	5 層に分層。		奈良・平安時代	覆土から奈良・平安時代の遺構と判断した。
第 34 図	12P	140D に切られる。	不明	24.2	-	30			奈良・平安時代	覆土から奈良・平安時代の遺構と判断した。
第 36・38 図	25P	162D と切り合う。	不整形。	28.8	26.9	24.1	2 層に分層。		奈良・平安時代	覆土から奈良・平安時代の遺構と判断した。
第 36・38 図	26P		不整形。	24.8	22.9	11.1	1 層。		奈良・平安時代	覆土から奈良・平安時代の遺構と判断した。
第 37・38 図	38P		楕円形。	51.6	43	19.5	1 層。	土師器が出土。	奈良・平安時代	
第 37・38 図	40P		不整形。	50.6	45.7	38.4	5 層に分層。	須恵器と縄文土器が出土。	奈良・平安時代	
第 37・38 図	41P		不整形。	24.9	21.8	16.4	1 層。		奈良・平安時代	覆土から奈良・平安時代の遺構と判断した。
第 37・38 図	42P		不整形。	31.6	22.6	37.8	2 層に分層。		奈良・平安時代	
第 37・38 図	43P		不整形。	51	38	9.7	1 層。		奈良・平安時代	
第 37・38 図	44P		不整形。	26.9	25.5	47.5	2 層に分層。	土師器が出土。	奈良・平安時代	
第 37・38 図	45P		不整形。	69.5	38.9	27.3	2 層に分層。		奈良・平安時代	
第 37・38 図	46P		不整形。	31.2	25.6	10	1 層。	縄文土器が出土。	奈良・平安時代	覆土から奈良・平安時代の遺構と判断した。
第 37・38 図	47P		楕円形。	24.9	20.5	37	2 層に分層。		奈良・平安時代	
第 37・38 図	48P		不整形。	47	37.3	22.1	3 層に分層。		奈良・平安時代	
第 37・38 図	49P		楕円形。	43.4	32.2	34.5	3 層に分層。		奈良・平安時代	覆土から奈良・平安時代の遺構と判断した。
第 37・38 図	51P		不整形。	31.8	24	41.1	4 層に分層。		奈良・平安時代	覆土から奈良・平安時代の遺構と判断した。
第 37・38 図	62P		不整形。	23.7	20.6	24.9	3 層に分層。	スラグが出土。	奈良・平安時代	

第 11 表　奈良・平安時代のピット一覧

第４節　近世以降

（1）概　要

近世以降の遺構については、土坑 17 基、ピット 15 基が検出された。土坑は溝状を呈するものが多い。

（2）土　坑

土坑については、城山遺跡第 42 地点の報告（尾形 2005）に準拠した。本地点では、B 群 1 ～ 3 類のみの検出であった。

B 群　長方形の土坑

1 類　溝状土坑

2 類　幅狭の長方形土坑

3 類　幅広の長方形土坑

140 号土坑

遺　構（第 39 図）

［構造］142 D を切る。南北に長く延び、南側は調査区外にある。断面は底部がやや狭い台形を呈する。

（平面形）長方形。（規模）不明× 80.2cm、深さ 60.2cm を測る。（覆土）6 層に分層される。

［時期］近世以降。

［所見］B 群 1 類。

141 号土坑

遺　構（第 39 図）

［構造］ 9 J のピットと 154D を切る。東西に長く延びる。断面は底部がやや狭い台形を呈する。（平面形）長方形。（規模）740.3 × 79.2cm、深さ 53.3cm を測る。（覆土）2 層に分層される。

［時期］ 近世以降。

［所見］ B 群 1 類。

142 号土坑

遺　構（第 39 図）

［構造］ 8J・1 方を切り、140D に切られる。東西に長く延び、西側は調査区外にある。断面は底部がやや狭い台形を呈する。（平面形）長方形。（規模）不明 ×87.5cm、深さ不明 cm を測る。（覆土）1 層。

［遺物］ 土製品、土師器、縄文土器、礫が出土した。

［時期］ 近世以降。

［所見］ B 群 1 類。

遺　物（第 42 図、第 9 表）

1 はぶら人形である。

143 号土坑

遺　構（第 39 図）

［構造］ 8J・1 方を切り、142D に切られる。（平面形）長方形か。（規模）不明。（覆土）-

［時期］ 近世以降。

［所見］ B 群 1 類か。

144 号土坑

遺　構（第 39 図）

［構造］ 南側を攪乱に壊される。（平面形）長方形。（規模）327.6×70.4cm、深さ 41.9cm を測る。（覆土）-

［時期］ 近世以降。

［所見］ B 群 1 類。

145 号土坑

遺　構（第 40 図）

［構造］11P と切り合う。北側の一部は調査区外にある。断面は底部がやや狭い台形を呈する。（平面形）長方形。（規模）333 × 59.4cm、深さ 14.7cm を測る。（覆土） 1 層。

［時期］ 近世以降。

［所見］ B 群 1 類。

146 号土坑

遺　構（第 40 図）

［構造］北側の一部は調査区外にある。断面は底部がやや狭い台形を呈する。（平面形）長方形。（規模）367.6 × 55.9cm、深さ 19.8cm を測る。（覆土）２層に分層される。

［遺物］縄文土器、礫が出土した。

［時期］近世以降。

［所見］Ｂ群１類。

147 号土坑

遺　構（第 40 図）

［構造］147 Ｄに切られる。断面は底部がやや狭い台形を呈する。（平面形）長方形。（規模）不明 × 49.2cm、深さ 19.8cm を測る。（覆土）１層。

［遺物］鉄滓、陶器、磁器、土師器が出土した。

［時期］近世以降。

［所見］Ｂ群１類。

遺　物（第 42 図、第９表）

２は染付丸碗である

148 号土坑

遺　構（第 40 図）

［構造］平面形は長方形、規模は 416.1 × 61.6cm、深さ 26cm を測る。（覆土）３層に分層される。

［時期］近世以降。

［所見］Ｂ群１類。

149 号土坑

遺　構（第 40 図）

［構造］北側と西側は調査区外にある。（平面形）長方形。（規模）376.7× 不明 cm、深さ 53.5cm を測る。（覆土）２層に分層される。

［遺物］瓦、陶器、土師器、縄文土器が出土した。

［時期］近世以降。

［所見］Ｂ群１類。

遺　物（第 42 図、第９表）

３は高田徳利である。

150 号土坑

遺　構（第 40 図）

［構造］151D を切る。北側は調査区外にある。（平面形）長方形。（規模）348×69cm、深さ 54.7cm を測る。（覆土）4 層に分層される。

［遺物］瓦、陶器、不明鉄製品、縄文土器が出土した。

［時期］近世以降。

［所見］B 群 1 類。

遺　物（第 42 図、第 9 表）

4 は腰錆茶碗である。

151 号土坑

遺　構（第 40 図）

［構造］150D に切られる。（平面形）長方形か。（規模）不明。（覆土）-

［時期］近世以降。

［所見］B 群 2 類。

153 号土坑

遺　構（第 41 図）

［構造］平面形は隅丸方形、規模は 73.7 × 52.2cm、深さ 18.3cm を測る。（覆土）3 層に分層される。

［時期］近世以降。

［所見］B 群 3 類。

154 号土坑

遺　構（第 41 図）

［構造］141D に切られる。（平面形）隅丸方形。（規模）79.6×52.8cm、深さ 10.4cm を測る。（覆土）1 層。

［時期］近世以降。

［所見］B 群 3 類。

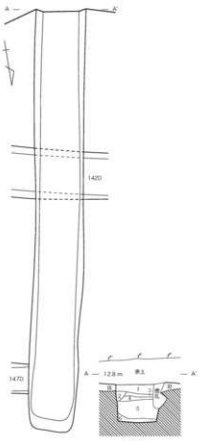
164 号土坑

遺　構（第 41 図）

［構造］平面形は長方形、規模は 364.5 × 114.4cm、深さ 27.9cm を測る。（覆土）3 層に分層される。

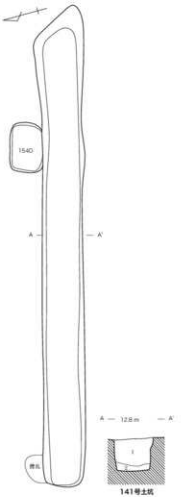
［時期］近世以降。

［所見］B 群 1 類。



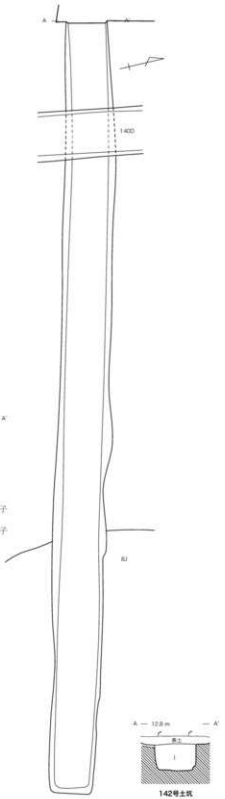
140号土坑

1層　褐灰色　粘性弱　締まり強　ローム粒子
1～2mm,25～30%、炭化物 1mm 以下、
1～2% 含む。
2層　褐灰色　粘性中　締まり弱　ローム粒子
2～5mm,15～20% 含む。
3層　黒褐色　粘性弱　締まり弱　ローム粒子
1mm 以下,3～10% 含む。
4層　褐灰色　粘性弱　締まり強　ローム粒子
2～5mm,15～20%、炭化物 1mm 以下、
1～2% 含む。
5層　黒褐色　粘性中　締まり中　ローム粒子
1～2mm,3～10% 含む。
6層　黒褐色　粘性中　締まり弱　ローム粒子
1～2mm,15～20% 含む。



141号土坑

1層　褐灰色　粘性中　締まり弱　ローム粒子
1～2mm,1～2% 含む。
2層　黒褐色　粘性弱　締まり強　ローム粒子
1～2mm,1～2% 含む。



142号土坑

1層　褐灰色　粘性中　締まり中　ローム ブロック 5～10mm,15～20% 含む。

143号土坑

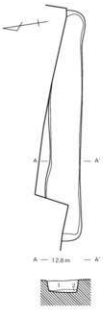
144号土坑

0　2m

第39図　土坑1（1/60）

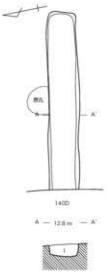
145号土坑

1層　褐灰色　粘性中　締まり弱　ロームブロック５～10mm,15～20%含む。



146号土坑

1層　褐灰色　粘性強　締まり中　ローム粒子２～５mm, １～２%含む。
2層　黒褐色　粘性中　締まり強　ローム粒子１～２mm,３～10%含む。

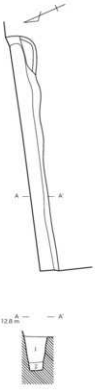


147号土坑

1層　褐灰色　粘性中　締まり中　ローム粒子２～５mm,15～20%含む。

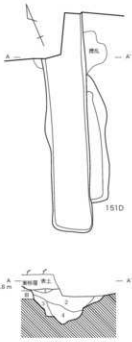
148号土坑

1層　褐灰色　粘性中　締まり中　ローム粒子１～２mm,15～20%含む。
2層　褐灰色　粘性中　締まり強　ローム粒子２～５mm,３～10%含む。
3層　褐灰色　粘性中　締まり強　ローム粒子２～５mm,25～30%含む。



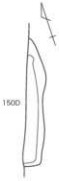
149号土坑

1層　褐灰色　粘性中　締まり弱　ローム粒子２～５mm,３～10%含む。
2層　黒褐色　粘性弱　締まり強　ローム粒子１mm以下,１～２%含む。



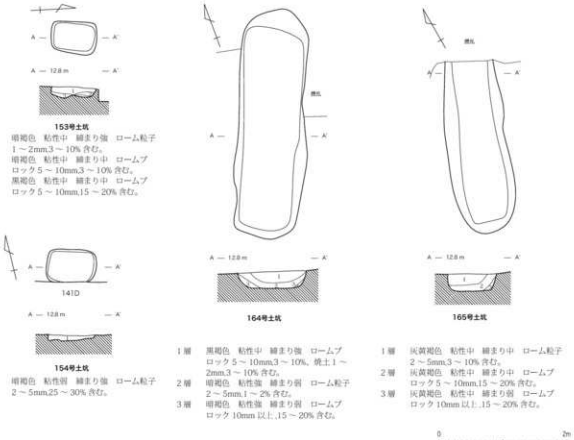
150号土坑

1層　褐灰色　粘性強　締まり弱　ロームブロック 10mm以上,40%以上含む。
2層　褐灰色　粘性強　締まり中　ローム粒子１～２mm,３～10%、炭化物２～５mm,１～２%含む。
3層　褐灰色　粘性中　締まり中　ローム粒子２～５mm,25～30%含む。
4層　褐灰色　粘性中　締まり強　ロームブロック 10mm以上,25～30%含む。



151号土坑

第40図　土坑２（1/60）



第41図　土坑3（1/60）

1　142号土坑出土遺物
2　147号土坑出土遺物
3　149号土坑出土遺物
4　150号土坑出土遺物
5　165号土坑出土遺物

第42図　土坑出土遺物（1/4・2/3）

165号土坑

遺　構（第41図）

［構造］北側は攪乱で壊されている。（平面形）長方形。（規模）不明×99.9cm、深さ28.3cmを測る。（覆土）3層に分層される。

［遺物］土師器、縄文土器が出土した。

［時期］近世以降。

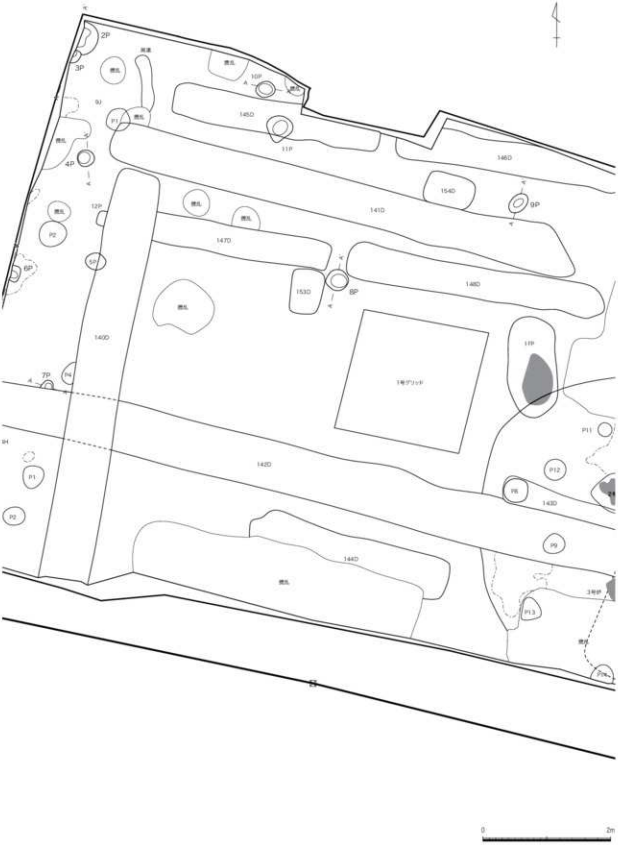
［所見］B群1類。

遺　物（第42図、第9表）

5は鉢類である。

（2）ピット

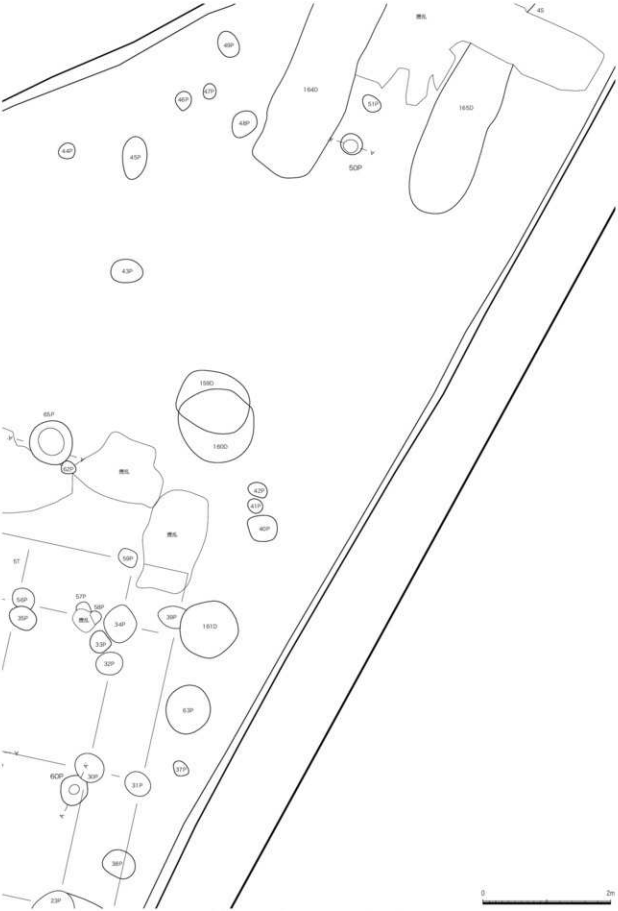
遺　構（第 43 ～ 47 図、第 12 表）



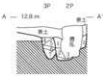
第 43 図　ピット平面図１（1/60）

第 44 図　ピット平面図２（1/60）

第 45 図　ピット平面図３（1/60）



第46図　ピット平面図４（1/60）



2・3号ピット

1層　灰黄褐色　粘性中　締まり中　ロームブロック5～10mm,15～20%含む。
2層　黒褐色　粘性強　締まり中　ローム粒子1mm以下,3～10%含む。
3層　黒色　粘性中　締まり強　ロームブロック5～10mm,15～20%含む。
4層　灰黄褐色　粘性強　締まり中　ローム粒子1～2mm,15～20%含む。
5層　黒褐色　粘性中　締まり強　ローム粒子1mm以下,1～2%、焼土1mm以下,1～2%含む。
6層　灰黄褐色　粘性中　締まり中　ロームブロック10mm以上,40%以上含む。
7層　黒褐色　粘性中　締まり中　ローム粒子1～2mm,15～20%含む。

4号ピット

1層　灰黄褐色　粘性中　締まり中　ローム粒子1～2mm,15～20%含む。
2層　にぶい黄褐色　粘性中　締まり強　ローム粒子1～2mm,25～30%含む。
3層　にぶい黄褐色　粘性強　締まり中　ローム粒子1～2mm,15～20%、炭化物10mm以上,1～2%含む。

6号ピット

1層　黒褐色　粘性中　締まり中　ローム粒子1mm以下,25～30%含む。
2層　黒褐色　粘性中　締まり中　ローム粒子2～5mm,3～10%含む。
3層　黒色　粘性強　締まり弱　ローム粒子1mm以下,1～2%含む。
4層　暗褐色　粘性中　締まり強　ローム粒子1mm以下,1～2%含む。

7号ピット

1層　にぶい黄褐色　粘性中　締まり中　ローム粒子1～2mm,25～30%、焼土1～2mm,1～2%含む。
2層　褐色　粘性中　締まり強　ローム粒子1～2mm,40%以上含む。
3層　黒褐色　粘性強　締まり中　ロームブロック10mm以上,3～10%含む。
4層　にぶい黄褐色　粘性強　締まり弱　ローム粒子1～2mm,40%以上含む。

8号ピット

1層　灰黄褐色　粘性強　締まり中　ローム粒子1mm以下,40%以上含む。
2層　黒褐色　粘性弱　締まり強　ロームブロック5～10mm,40%以上含む。
3層　褐灰色　粘性中　締まり強　ローム粒子1mm以下,3～10%、炭化物2～5mm,1～2%含む。

9号ピット

1層　暗褐色　粘性　締まり　ローム粒子2～5mm,15～20%含む。
2層　にぶい黄褐色　粘性　締まり　ローム粒子1～2mm,40%以上含む。

10号ピット

1層　褐色　粘性弱　締まり強　ローム粒子2～5mm,25～30%含む。

15号ピット

1層　黒褐色　粘性中　締まり弱　ロームブロック10mm以上,3～10%含む。

36号ピット

1層　黒褐色　粘性中　締まり強　ローム ブロック5～10mm,15～20%含む。

50号ピット

1層　黒褐色　粘性中　締まり強　ロームブロック5～10mm,15～20%、焼土5～10mm,1～2%含む。
2層　褐色　粘性強　締まり中　ロームブロック10mm以上,3～10%含む。
3層　黒褐色　粘性中　締まり強　ローム粒子2～5mm,15～20%含む。

60号ピット

1層　黒色　粘性中　締まり強　ローム粒子1～2mm,3～10%、焼土1mm以下,3～10%含む。
2層　にぶい黄褐色　粘性強　締まり弱　ローム粒子2～5mm,3～10%含む。

64号ピット

1層　褐灰色　粘性中　締まり中　ローム粒子2～5mm,1～2%含む。
2層　黒褐色　粘性中　締まり弱　ローム粒子2～5mm,3～10%含む。
3層　にぶい黄褐色　粘性中　締まり中　ローム粒子1mm以下,1～2%含む。

65号ピット

1層　黒褐色　粘性弱　締まり中　ローム粒子2～5mm,3～10%含む。
2層　灰黄褐色　粘性弱　締まり強　ローム粒子1mm以下,1～2%、赤色スコリア1～2mm,1～2%含む。
3層　黒褐色　粘性中　締まり中　ロームブロック5～10mm,25～30%含む。

第47図　ピット断面図（1/60）

挿図番号	遺構名	構造	平面形	規模（cm）			覆土	遺物	時期
				長軸	短軸	深さ			
第 43・47 図	2P	西側が調査区外である。	不明。	51	-	30.2	7 層に分層。	第 48 図、第 13 表	近世以降
第 43・47 図	3P	西側が調査区外である。	不明。	22.6	-	26.7			近世以降
第 43・47 図	4P		円形。	27.3	26.6	38.1	3 層に分層。	縄文土器が出土。	近世以降
第 43・47 図	6P	西側が調査区外である。	不明。	26	-	25.6	4 層に分層。		近世以降
第 43・47 図	7P	142D に切られる。	不明。	20.4	-	40.8	4 層に分層。		近世以降
第 43・47 図	8P		円形。	36.3	34.3	18.3	3 層に分層。		近世以降
第 43・47 図	9P		楕円形。	35.9	24.1	8.2	2 層に分層。		近世以降
第 43・47 図	10P		楕円形。	30.7	24.9	11.8	1 層に分層。		近世以降
第 43 図	11P	145D と切り合う。	不整形。	43.6	42.2	27.7			近世以降
第 44・47 図	15P		不整形。	57	30.3	10.3	1 層に分層。		近世以降
第 45・47 図	36P		不整形。	27.3	19.4	11.5	1 層に分層。	縄文土器が出土。	近世以降
第 46・47 図	50P		楕円形。	35.3	33	24.8	3 層に分層。		近世以降
第 46・47 図	60P	30P に切られる。	不整形。	50.3	43.3	30.4	2 層に分層。		近世以降
第 45・47 図	64P	61P に切られる。	不整形。	37.6	25.8	12.6	3 層に分層。		近世以降
第 46・47 図	65P		不整形。	71.8	68.9	24.5	3 層に分層。		近世以降

第 12 表　近世以降のピット一覧

挿図番号	遺構	種別	器種	胎土		製作の特徴	釉薬	生産地・系譜	時期
				色調	粒度 / 鉱物				
第 42 図 1	142D	土製品	ぶら人形	橙色	緻密	前後型合わせ・中空、表面に雲母粒付着	-	江戸在地系	18C 中葉～
第 42 図 2	147D	磁器	染付丸碗	灰白色	緻密	くらわんか手、外面呉須コンニャク印判「菊文」	透明釉	肥前 (波佐見・平戸系)	18C 中葉
第 42 図 3	149D	陶器	高田徳利	灰色	緻密	-	灰釉	美濃	18C 後葉～19C 中葉
第 42 図 4	150D	陶器	腰錆茶碗	黄白色	緻密	-	灰釉＋鉄釉	瀬戸	18C 後葉～19C 中葉
第 42 図 5	165D	土器	鉢類	にぶい黄橙色	蜜 / 赤色粒子・白色粒子	底部回転糸切り	-	江戸在地系	18C 中葉～
第 48 図 1	2P	陶器	土瓶	浅黄橙色	緻密	白泥、底部露胎	透明釉	不明	不明

第 13 表　近世以降遺構出土の土器・陶磁器一覧

第 48 図　2 号ピット出土遺物（1/4）

第５節　遺構外出土遺物

（１）旧石器時代の石器（第 49 図、第 14 表）

１はチャート製の二次加工のある剥片である。右側縁上部の一部に鋸歯状の調整を施している。打面は残置している。表面に見られる剥離面は同一方向からの剥離である。また表面には広く原礫面が残置している。２はチャート製の剥片であり、右側縁を欠損している。表面には原礫面が残置している。

挿図番号	器種	石材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	出土位置
第 49 図 1	R.F	チャート	58.42	50.57	17.24	28.9	Ⅲ層
第 49 図 2	剥片	チャート	44.92	17.11	7.81	4.1	表土 A・B 区

第 14 表　遺構外出土の旧石器

（２）縄文時代の石器（第 49 図、第 15 表）

３は黒曜石製の剥片である。末端はヒンジが認められる。４は黒曜石製の剥片である。右側縁から上部を欠損している。５は透明度の高い黒曜石製の剥片であり、上部を欠損している。表面には原礫面が残置している。６は黒曜石製の剥片であり、大きく欠損している。７はホルンフェルス製の剥片であり、下部に原礫面が残置している。８は凝灰岩製のスタンプ形石器の側縁あるいは敲石であると思われる。使用による底面からの加撃で剥離している。素材礫の縁辺に調整を加えていると思われる。９は閃緑岩製の磨石であり、大きく欠損している。表面および右面に使用面が認められる。10 は粘板岩製の石版の一部と思われる。表裏面を丁寧に磨いている。

挿図番号	器種	石材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	出土位置
第 49 図 3	剥片	黒曜石	21.92	15.23	4.30	0.8	161D
第 49 図 4	剥片	黒曜石	22.94	23.26	10.17	3.2	152D
第 49 図 5	剥片	黒曜石	30.40	15.05	8.81	2.6	Ⅲ層
第 49 図 6	剥片	黒曜石	13.70	17.22	8.12	1.5	Ⅱd 層
第 49 図 7	剥片	ホルンフェルス	44.63	38.19	9.16	18.0	表土 A・B 区
第 49 図 8	スタンプ形石器 もしくは敲石	凝灰岩	99.71	25.76	16.76	30.8	Ⅲ層
第 49 図 9	磨石	閃緑岩	75.91	60.95	22.76	124.6	Ⅲ層
第 49 図 10	石版	粘板岩	54.05	54.73	4.56	14.1	表土 A・B 区

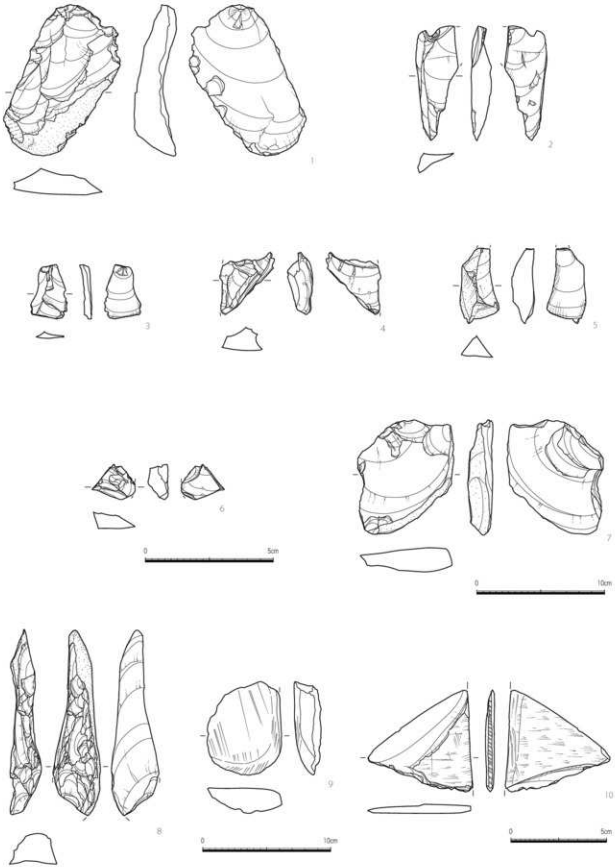
第 15 表　遺構外出土の縄文石器

（３）縄文時代の土器（第 50 図）

縄文時代の土器を大まかに以下のように大別する。

第１群　早期末葉の土器（条痕文系）

第２群　前期中葉の土器（諸磯式・浮島式・北白川下層式）



第 49 図　遺構外出土石器（1/3・1/2・2/3）

第３群　中期前葉の土器（五領ヶ台式）

第４群　中期中葉の土器（勝坂式）

第５群　中期後葉の土器（加曽利Ｅ式）

第１群　早期末葉の土器（第 50 図１～２）

１は外面に貝殻で縦方向の器面調整をしている。２は口縁端部が貝殻によって小さな波状を呈している。外面には刷毛状工具で浅い波状沈線が描かれる。

第２群　前期中葉の土器（第 50 図３～６）

３は波状口縁の端部に結節浮線文が３本施される。外面は口縁の波状部沿いと横位に結節浮線文が施される。４は平行沈線を縦方向と斜方向に数条施し、その上に粒状の粘土を貼り付け、半截竹管で刺突している。

５は半截竹管による沈線を横位に数条巡らせ、沈線に沿って三角形の刺突を施す。

６は波状口縁沿いと横位に結節浮線文が施される。

以上、３～４は諸磯式、５は浮島式、６は北白川下層式である。

第３群　中期前葉の土器（第 50 図７～８）

７は結節縄文 RL が縦位に施される。８は口縁端部に方形の連続刺突をし、口縁部には平行沈線を斜方向に描く。口縁部直下には細い沈線の上から、刷毛状工具による連続刺突を施す。

第４群　中期中葉の土器（第 50 図９～ 13）

９は隆帯で斜方向に区画し、隆帯上部には縦方向の沈線を数条施す。10 は隆帯が三角形状に区画し、区画内には蓮華文が施される。11 は縦方向の弧状沈線と横位の沈線によって区画される。区画内には三叉文が施され、隙間は方形の連続刺突によって埋められている。外面に炭化物が付着している。円筒系統。12 は横位に沈線を引いた後、交互刺突を施すことで鋸歯状の文様が浮き出るように描いている。13 は口縁部を内側へ折り込んでいる。口縁部の下に横位の沈線が巡る。

第５群　中期後葉の土器（第 50 図 14 ～ 19）

14 は波状口縁に沿って楕円を描くように隆帯が貼り付けられ、その下部には隆帯が横位に巡っている。それらの間に縦位の平行沈線が数条施される。15 は幅の狭い口縁部直下に横位の隆帯区画を施す。区画内は縦位に沈線が施される。16 は幅の狭い口縁部直下に隆帯で横位・斜方向に区画する。区画内は隆帯に沿って沈線が施される。17 は幅の狭い口縁部直下に縦回転の縄文 L が施される。18 は縦方向に隆帯を施した後、縦方向に０段多条の縄文 LR を施文している。19 は平行沈線を弧状に数条施している。

（４）縄文時代の土製品（第 50 図 20）

20 は耳飾りと考えられる。赤褐色で、滑車状を呈し表裏の縁に方形の刺突をを施す。

（５）中近世の陶磁器・土器（第 50 図 21・22）

21 は焜炉である。22 は灯明受皿である。

挿図番号	種別	器種	胎土		製作の特徴	釉薬	生産地・系譜	時期	出土位置
			色調	粒度 / 鉱物					
第 50 図 21	土器	煙炉	浅黄橙色	やや粗 / 砂粒	窓の一部残存	-	江戸在地系	18C 中葉～	表土 A・B 区
第 50 図 22	陶器	灯明受皿	黄灰色	緻密	外面底部釉拭き取り	鉄釉	美濃	18C 後葉～19C 初頭？	表土 D 区

第 16 表　遺構外出土の陶磁器一覧

第 50 図　遺構外出土遺物（1/4・1/3）

第４章　調査のまとめ

今回の調査で、縄文時代の住居跡３軒、炉跡１基、集石１基、土坑７基、ピット 10 基、弥生時代末葉～古墳時代前期の方形周溝墓１基、奈良・平安時代の住居跡１軒、掘立柱建築遺構１棟、土坑３基、ピット 17 基、近世以降の土坑 17 基、ピット 15 基の遺構が検出された。

特に、縄文時代早期末の住居跡と弥生時代後期末葉～古墳時代初頭の方形周溝墓が中道遺跡では初めて確認されるなど、多くの成果を収めることが出来た。その他、縄文時代中期中葉の住居跡からは今回の調査では最も多くの遺物が発見された。本章では、これらの成果の中から、いくつかの点について簡単なまとめをしてみたい。

第１節　縄文時代中期の浅鉢について

今回の調査地点からは縄文時代中期中葉の浅鉢破片が少量出土しているが、その破片には赤彩や黒彩といった彩色の認められるものがある。中山真治氏によると、『縄文時代中期の浅鉢にも，通常の隆帯や沈線によって文様の描出されるものがみられる一方，器面内外面に漆などの彩色による文様が描かれたものが少なからずみられる。』（中山　2005）とあり、縄文中期における浅鉢への彩色行為は特異なことではなかったと推測される。そのため、今回出土した浅鉢の中で彩色されているものが全体のうちのどの程度の割合を占めるのかを分析してみることとした。遺物の遺存状態が良くないため彩色範囲や文様などははっきり確認できないものの、肉眼観察によって確認できた塗料を参考に検証していく。

浅鉢が出土した遺構は、８J 号住居跡と 160 号土坑で、それ以外の遺構や遺構外からの出土は認められなかった。個体数は、断片的な資料からの個体数なので、若干の齟齬はあると思われるが、一応８J 号住居跡から 28 個体（口縁部６、胴部 19、口縁部～胴部３）、160 号土坑からは３個体（口縁部２、胴部１）を確認した。土器の様式は勝坂式と阿玉台式で、殆どが勝坂３式である。

分析方法は、浅鉢を個体別に分け、口縁部と胴部の各内外面で彩色の有無を判断し、比率を割り出すものとする。部位別に観察した項目について、口縁部～胴部が残存する個体に関しては口縁部と胴部にそれぞれ加えている。以上を踏まえて分析を行った（第 17 表）

部位別に見ていくと、口縁部は内外面を赤彩するものの比率が一番高く約 19.4％、次いで口縁部内外面を焼成後に黒く彩色するもの・口縁部内外面を焼成時に黒色処理したもの・口縁部内面のみを焼成時に黒色処理したものがそれぞれ 6.5％を占め、胴部は内面のみを赤彩するもの・胴部内面のみを焼成時に黒色処理したものの比率が一番高くそれぞれ 29.0％を占める。彩色別に見てみると、赤彩された浅鉢と焼成時に黒色処理した浅鉢はそれぞれ 45.2％を占める。また、黒彩と赤彩の両方が施される浅鉢は全体の 19.4％、彩色のある浅鉢のうちの 23.1％を占める。個体別に見てみると彩色される浅鉢

部位別		赤彩								黒彩 焼成後の彩色							
		両面有り		内面のみ		外面のみ		両面無し		両面有り		内面のみ		外面のみ		両面無し	
		口縁部	胴部	口縁部	胴部	口縁部	胴部	口縁部	胴部	口縁部	胴部	口縁部	胴部	口縁部	胴部	口縁部	胴部
8J	欠損数／遺物数	4/28	0/28	1/28	9/28	1/28	0/28	2/28	14/28	2/28	0/28	0/28	2/28	1/28	1/28	2/28	22/28
	%	14.3	0.0	3.6	32.1	3.6	0.0	7.1	50.0	7.1	0.0	0.0	7.1	3.6	3.6	7.1	78.6
160D	欠損数／遺物数	2/3	0/3	0/3	0/3	0/3	0/3	0/3	1/3	0/3	0/3	0/3	1/3	0/3	0/3	0/3	2/3
	%	66.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	66.7
総数	欠損数／遺物数	6/31	0/31	1/31	9/31	1/31	0/31	2/31	15/31	2/31	0/31	0/31	3/31	1/31	1/31	2/31	24/31
	%	19.4	0.0	3.2	29.0	3.2	0.0	6.5	48.4	6.5	0.0	0.0	9.7	3.2	3.2	6.5	77.4

部位別		黒彩 焼成時黒色処理								黒彩 彩色系の付着物							
		両面有り		内面のみ		外面のみ		両面無し		両面有り		内面のみ		外面のみ		両面無し	
		口縁部	胴部	口縁部	胴部	口縁部	胴部	口縁部	胴部	口縁部	胴部	口縁部	胴部	口縁部	胴部	口縁部	胴部
8J	欠損数／遺物数	2/28	2/28	1/28	9/28	0/28	1/28	1/28	14/28	0/28	0/28	0/28	0/28	1/28	1/28	2/28	26/28
	%	7.1	7.1	3.6	32.1	0.0	3.6	3.6	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.6	3.6	7.1	92.9
160D	欠損数／遺物数	0/3	0/3	1/3	0/3	0/3	0/3	0/3	2/3	0/3	0/3	0/3	0/3	0/3	0/3	0/3	3/3
	%	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	66.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
総数	欠損数／遺物数	2/31	2/31	2/31	9/31	0/31	1/31	1/31	16/31	0/31	0/31	0/31	0/31	1/31	1/31	2/31	29/31
	%	6.5	6.5	6.5	29.0	0.0	3.2	3.2	51.6	0.0	0.0	0.0	0.0	3.2	3.2	6.5	93.5

彩色別		赤彩	黒彩 焼成後の彩色	黒彩 焼成時黒色処理	黒彩 彩色系の付着物	黒彩合計	黒彩＋赤彩
8J	欠損数／遺物数		6/28	13/28	1/28		6/28
	%	42.9	21.4	46.4	3.6	60.7	21.4
160D	欠損数／遺物数	2/3	1/3	1/3	0/3	2/3	0/3
	%	66.7	33.3	33.3	0.0	66.7	0.0
遺跡	欠損数／遺物数		7/31	14/31	1/31		6/31
	%	45.2	22.6	45.2	3.2	61.3	19.4

彩色別		黒彩＋赤彩
8J	欠損数／総欠損数	6/23
	%	26.1
160D	欠損数／総欠損数	0/3
	%	0.0
遺跡	欠損数／遺物数	6/26
	%	23.1

個体別		彩色あり	彩色なし
8J	欠損数／遺物数	23/28	5/28
	%	82.1	17.9
160D	欠損数／遺物数	3/3	0/3
	%	100	0.0
遺跡	欠損数／遺物数	26/31	5/31
	%	83.9	16.1

第 17 表　縄文時代中期の浅鉢彩色比率

は浅鉢全体の 8 割以上を占めており、本地点では縄文時代中期中葉の浅鉢に彩色を施している比率が 83.9%、という結果となる。

浅鉢の赤彩範囲については、外面の口縁部（体部上半）と内面全体に施されるされる傾向が窺える。赤彩方法として、口縁部全体を塗るもの、口縁部に隆帯や沈線で施した文様のみを塗り分けるもの、赤彩によって文様を描くものがあるが、今回の調査で出土した浅鉢の中では、第 10 図 31・第 11 図 32 の口縁部外面が文様で塗り分けられているであろうと推測できるのみであった。第 10 図 31 の内面にも広い範囲で赤彩が認められたが、何らかの文様を描いているかは不明である。また、中山氏が『意図的に焼成時または焼成後の下塗りにより器面が黒色を呈するような仕上がりを求めたものもあることが明らかである。』と指摘するように、赤彩の有無にかかわらず焼成時に黒色処理するものや焼成後に黒く彩色するものが全体の 6 割を占めており、赤彩だけでなく黒彩にも注目をする必要があり、志木市内の同様の資料に関しても検証していきたいと思っている。

今回の調査では、縄文時代中期中葉の遺構も非常に少なく、他の遺跡でも同様な結果が出るものとは限らないが、彩色のない胴部破片のみの個体が出土した場合でも、口縁部付近や文様帯には彩色が施された可能性や、遺存状態によって彩色を確認することが困難になる場合もありえる。これらを考慮すると、より彩色率は上がる可能性があり、浅鉢は彩色を施すのが一般的であると言えるかもしれない。

第２節　志木市における方形周溝墓の分布について

志木市における方形周溝墓の第１号の発見は、昭和 63（1988）年の発掘調査で検出された西原大塚遺跡第８地点（尾形・佐々木　1990）の１号方形周溝墓である。翌年の西原大塚遺跡第 11 地点（尾形・佐々木　1991）でも１基が追加され、その後、西原大塚遺跡では、平成５（1993）年以降に西原特定土地区画整理事業に伴う大規模な発掘調査が本格的に開始され、方形周溝墓は現時点で約 30 基が検出され、市内では最も方形周溝墓が集中する地区であることが判明している。

その他の地区では、平成３（1991）年に市場裏遺跡第２地点（佐々木・尾形　1996）で２基、同遺跡第３地点（尾形　1993）で１基の方形周溝墓が検出され、西原大塚遺跡以外での初めて検出例となる。

平成６（1993）年には、新たに田子山遺跡第 32 地点（尾形・佐々木・深井　1996）で方形周溝墓１基が検出されている。この遺跡では、昭和 63（1988）年の第１地点（尾形・佐々木　1990）や平成２（1990）年の第 10 地点（佐々木・尾形　1996）、平成６（1994）年の第 31 地点の調査から住居跡が多数検出されているため、住居域と墓域の境界区分が判明しつつあると言える。

最新では、平成 15（2003）年の新邸遺跡第８地点（尾形・深井・青木　2007）で方形周溝墓１基が検出されたが、この方形周溝墓は方台部から６本程の柱穴を伴うものと考えられ、通常検出される方形周溝墓とは異例のものであり、今後の検出例の累積を待って検討されるべき事項であろう。

そして、平成 18 年（2006）年には、本報告の１号方形周溝墓があるように中道遺跡での第１号の発見となった。

以上、簡単に市内における方形周溝墓の分布を見てきたが、当初は西原大塚遺跡のみの検出例であったものが、現時点では、西原大塚・新邸・中道・市場裏・田子山遺跡の５遺跡まで増えるに至っている。このことから、従来から知られている弥生時代後期末葉から古墳時代前期の集落跡と方形周溝墓の分布は、柳瀬川・新河岸川右岸流域に１つの単位的なまとまりをもって点在していることが明らかになってきたと言えるであろう。今後は、各遺跡での集落域と墓域の関係を細かく分析することにより、当時の歴史をさらに深く追究したいと考えている。

【謝辞】

最後に、今回のまとめにあたって、中山真治氏にご教示頂いた。厚く御礼申し上げます。

[引用・参考文献]

赤塚次郎　1990『廻間遺跡』(財) 愛知県埋蔵文化財センター
1994「3・4世紀の東海地域」『東日本の古墳の出現』株式会社山川出版社
池田悦夫編　1998『東京都新宿区市谷左内町遺跡』I-(仮称) 大日本印刷株式会社事務所ビル新築工事に伴う緊急発掘調査報告書 - 新宿区大日本印刷遺跡調査団
江戸遺跡研究会　2001『図説江戸考古学研究事典』柏書房
尾形則敏・佐々木保俊・深井恵子　1996『志木市遺跡群Ⅶ』志木市の文化財第23集　埼玉県志木市教育委員会
2000『志木市遺跡群10』志木市の文化財第28集　埼玉県志木市教育委員会
2003『志木市遺跡群13』志木市の文化財第35集　埼玉県志木市教育委員会
尾形則敏・深井恵子・青木　修　2005『城山遺跡第42地点埋蔵文化財発掘調査報告書』志木市遺跡調査会調査報告第10集　埼玉県志木市遺跡調査会
2007『新邸遺跡第8地点埋蔵文化財発掘調査報告書』志木市遺跡調査会調査報告第11集　埼玉県志木市遺跡調査会
尾形則敏・深井恵子　2007『志木市遺跡群15』志木市の文化財第37集　埼玉県志木市教育委員会
尾形則敏　1993『志木市遺跡群Ⅴ』志木市の文化財第20集　埼玉県志木市教育委員会
尾形則敏・佐々木保俊　1990『志木市遺跡群Ⅱ』志木市の文化財第14集　埼玉県志木市教育委員会
1991『志木市遺跡群Ⅲ』志木市の文化財第16集　埼玉県志木市教育委員会
加藤晋平・鶴丸俊明　1991『図録・石器入門事典〈先土器〉』　柏書房
小林達雄　1988『縄文土器大観』2　中期1　小学館
小林達雄　1989『縄文土器大観』1　草創期 早期 前期　小学館

佐々木保俊・尾形則敏　1988『中道遺跡発掘調査報告書』志木市遺跡調査会第5集　埼玉県志木市遺跡調査会
1992『中道遺跡第12地点　中道遺跡第13地点　田子山遺跡第4地点　田子山遺跡第5地点発掘調査報告書』志木市の文化財第24集　埼玉県志木市教育委員会
1996『城山遺跡第12地点　城山遺跡第13地点　西原大塚遺跡第14地点　中野遺跡第11地点　中野遺跡第16地点　市場裏遺跡第1地点　田子山遺跡第10地点　中道遺跡第21地点　田子山遺跡第13地点　西原大塚

遺跡第21地点　市場裏遺跡第2地点　中道遺跡第26地点発掘調査報告書』志木市の文化財第24集　埼玉県志木市教育委員会

佐々木保俊　1998『西原大塚の遺跡　西原特定土地区画整理事業に伴う発掘調査概報』埼玉県志木市遺跡調査会　西原特定土地区画整理組合

佐々木保俊・内野美津江・宮川幸佳・上田　寛　2000『西原大塚遺跡第45地点発掘調査報告書』志木市遺跡調査会調査報告第6集　埼玉県志木市遺跡調査会　小松フォークリフト株式会社

鈴木道之助　1991『図録・石器入門事典（縄文）』柏書房

諏訪間順　1988「相模野台地における石器群の変遷について」『神奈川考古』24

竹岡俊樹　1989『石器研究法』言叢社

丹野雅人・原川雄二・竹尾　進・武笠多恵子・竹花美保　1998『多摩ニュータウン遺跡　－No.72・795・796遺跡－』東京都埋蔵文化財センター調査報告第50集　東京都埋蔵文化財センター

千田利明　1999『多摩ニュータウン遺跡　先行調査報告14』東京都埋蔵文化財センター調査報告第69集　東京都教育委員会・東京都埋蔵文化財センター

中山真治　2005「縄文時代中期の彩色された浅鉢についての覚え書き－関東地方西南部の中期集落資料を中心に－」『東京考古』23

藤澤良祐・金子健一　1998「近世瀬戸焼の生産と流通」瀬戸市史編纂委員会編　『瀬戸市史』陶磁史篇六　瀬戸市

益富壽之助　1987『原色岩石図鑑』保育社

三木弘ほか編　1992『東京都新宿区内藤町遺跡』－放射5号線整備事業に伴う緊急発掘調査報告書－東京都建設局・新宿区内藤町遺跡調査会

山本孝司・川島雅人・及川良彦・五十嵐　彰　1998『多摩ニュータウン遺跡　－No.245・341遺跡－』東京都埋蔵文化財センター調査報告第57集　東京都埋蔵文化財センター

図　　版

1．表土掘削（西から）

2．第1グリッド土層断面北壁（南から）

3．第1調査区全景（西から）

4．第2調査区全景（南から）

5．8J号住居跡全景（西から）

1．8J号住居跡遺物出土状況（南から）

2．8J号住居跡遺物出土状況（南から）

3．9J号住居跡全景（東から）

4．10J号住居跡遺物出土状況（北から）

5．10J号住居跡全景（北から）

1．1号炉穴全景（東から）

2．4号集石礫出土状況（第1面）（東から）

3．4号集石土層断面A（東から）

4．155号土坑全景（南から）

5．156号土坑全景（南から）

6．157号土坑全景（東から）

7．158号土坑全景（北から）

8．160号土坑全景（北から）

1．162 号土坑全景（北から）

2．163 号土坑全景（北から）

3．1 号方形周溝墓全景（東から）

4．1 号方形周溝墓全景（西から）

5．24H 号住居跡全景（東から）

1．5号掘立柱建築遺構全景（西から）

2．5号掘立柱建築遺構全景（北から）

3．152号土坑全景（西から）

4．159号土坑全景（北から）

5．161号土坑全景（北から）

1．140～150 号土坑全景（東から）

2．164 号土坑全景（南から）

3．165 号土坑全景（南から）

4．作業風景

5．作業風景

8J号住居跡出土遺物1

8 J 号住居跡出土遺物 2

8 J 号住居跡出土遺物 3

1．8J 号住居跡出土石器

2．10J 号住居跡出土遺物

1．10J 号住居跡出土石器

2．土坑・ピット出土遺物

3．1 号方形周溝墓出土遺物

4．近世土坑・ピット出土遺物

1．遺構外出土遺物

2．遺構外出土石器

報 告 書 抄 録

ふりがな	なかみちいせきだい65ちてんはっくつちょうさほうこくしょ		
書名	中道遺跡第65地点発掘調査報告書		
副書名		巻次	
シリーズ名	志木市遺跡調査会調査報告	巻次	第12集
編著者	尾形則敏　藤波啓容　青柳美雪		
編集機関	埼玉県志木市遺跡調査会		
所在地	〒353－0002　埼玉県志木市中宗岡1丁目1番1号　TEL　048（473）1111		
発行年月日	平成19（2007）年6月30日		

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯（°′″）	東経（°′″）	調査期間	調査面積（m²）	調査原因
		市町村	遺跡番号					

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
中道遺跡（第65地点）	集落	縄文時代	住居跡　3軒 炉跡　1基 集石　1基 土坑　7基 ピット　10基	土器・石器	中道遺跡では初めての方形周溝墓が検出。
		弥生時代末葉～古墳時代前期	方形周溝墓1基	土器	
		奈良・平安時代	住居跡　1軒 土坑　3基 掘立柱建築遺構　1棟 ピット　17基	土師器・須恵器	
		近世以降	土坑　16基 ピット　15基	陶磁器・土器・土製品・瓦	

中道遺跡第 65 地点

埋蔵文化財発掘調査報告書

発　行　埼玉県志木市遺跡調査会
　　埼玉県志木市中宗岡 1 丁目 1 番 1 号
発行日　平成 19（2007）年 6 月 30 日
印　刷　亜細亜印刷株式会社